MAY 25th 1902.

REPORT OF THE SERICULTURAL ASSOCIATION OF JAPAN.

NO. 119.

大日本蠶絲會報

第百十九號

明治卅五年五月廿五日

（明治三十七年八月二十五日第三種郵便物認可）

目次

●論說
●歐米蠶絲業調査談　農學士　市瀬春雄
●養蠶の經濟を論ず　吉田路次郎
●本邦生絲改善の要所　鎌木喜三郎
●蠶兒衛生上不可缺の一物　長岡憲三郎
●生絲整理論　高橋信貞
●生絲の整理と技術の研究　野村彦太郎
●蚕業の世界に於て　鈴木梅太郎
●桑園施肥論（桑苗）　農學士
●雜錄
●風穴飼養山梨縣富士風穴
●夏秋蠶業試驗所沿革（參照）
●統計
●三十九年三月中生絲輸出入價格對照表
●問答
●蚕業心得の件に付き質問書答●桑苗の件に付き質問書答●病蠶の件に付き質問書答●飼育法に付き質問書答●病蠶の件に付き質問書答●製絲及繭の件に付き質問書答
●絲況
●横濱市場●組合市場●里昂市場●上海市場
●外報
●米國政府の蠶業保護●蠶絲業の進歩●佛國分蜂時間減縮の結果●千九百一年度佛國蠶絲業勸會附屬驗絲所●清國蠶兒者蚕況
●雜報
●大日本蠶絲會評議員會●役員及特別委員の派遣●四蚕學校會●四蚕學校會第三回大集會●東京蠶業學校況●農事試驗場蠶會議の蠶絲問題●本年の蠶況●諸賞一覽●人事欄

The Association; No. 1, Nishikicho, Sanchome, Kanda, Tokyo, Japan.

蠶絲の如き對外貿易品は須らく海外の華客に紹介して以て其販路を擴張するに努めざるべからず、蠶業の如き世界的產業は宜しく智識を廣く各國に求めて斯道の開發を圖らざるべからず、本會夙に茲に覺る所ありしも微力其局に樹つ能はざるを深く憾とせり、然るに今や斯業に熱心にして有力なる會員六千五百餘名を得、其贊襄により會運日に月に勃興するに至れり、依て此際一層の奮勵をなし、一方に於て當業者を興奮せしむるの方法を講じ、一方に於て會報上多少の歐文を加へ、毎號數千部を增刊し、廣く世界の蠶絲業に關する學會、協會、學校、組合、生絲貿易商、製絹業者等に配布し、日本生絲の聲名を知悉せしむると同時に、日本蠶業の眞相を紹介せんとす、庶幾くは當業者諸君奮奮勵し、本會の事業を翼贊し、蠶業の伸暢を企て富力の涵養を圖られんことを、若し幸にして本會が希望の一端を達するを得ば、是れ實に諸君の力多きを信ずるなり

豫告の通一月分より會報の改良を相圖り候へども事匆々に出て不備の點を免れず然れども漸次序を逐て圓滿の域に達せんとを期し候條御了知相成度候又本會報に用る紙質は可成精良のものを拾撰み度考に有之候へども遺憾ながら經濟上許さゝるものの有之海外に送付する分丈客月同樣のものを相用ひ他は舊に復し候都合に就き不悪御諒知被下度此段併て豫告仕候

●本報定價　一冊　金拾五錢
一ヶ年分　前金壹圓五拾錢

明治三十五年五月二十五日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目一番地　池田蘆

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

發行所　東京市神田區錦町三丁目一番地　大日本蠶絲會
電話番號本局一千四百七十三番

大日本蠶絲會報第百拾九號

●論說（Contributions）（Opinions）

●歐米蠶絲業視察談（承前）

（大日本蠶絲會第十一回大集會演說）

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　紫藤章

第二　日耳曼國の蠶絲業

私は甚前程を急ぎましたので、日耳曼國蠶絲業に就ては、實地に臨て調査したのではなく、只だ農務省に行きまして農務局長に面會し聞き得たる處と、報告書等に依り知り得たる處の一斑を簡單に陳述して御參考に供したいと思ふのであります。

獨逸にては昔日フリードリヒ大王の時代に於て養蠶業に關し奬勵と云はんより寧ろ干涉と稱するの其當を得たるが如き、非常の奬勵をなし、爲に其結果として一時大に發達の望あるやうで御座いましたけれども、御承知の通獨逸は概して氣候寒冷でありますから、其寒さを防ぐ爲に飼育の設備上種々の手段を要し、隨つて生產費用の增加を來し、到底近國、伊佛の蠶業と對抗することが出來ませず、兎角逡巡振はざるの狀況でありましたが、それに搗て加へて十九世紀の中頃、彼蠶病碧殭の不運に遭遇致しまして、蠶業家は唯さへ利益のない所に此病毒の爲に大損害を被むり、頓に氣勢を失ひ今は殆ど蠶業として見るべきものなきに至つたと云ふ有樣であります、然れども該國南方クレフェルト、エルベルフェルト地方にては絹業大に勃興し、之れが爲めに生絲を需用消費すること年一年に增加致しまして、單にクレフェルトのみにても去る千八百九十年に生產したる絹織物の總價格は殆ど四千五百萬圓に上り、其前年より增加せること實に三百餘萬圓に達したと云ふことであります、斯う云ふ工合で年々非常に進步をし

て居るのであつて、我日本より獨國へ輸入する十餘萬圓の生絲は主として此地方に消費せらると云ふことであるから、此機業の發達は將來益々生絲の需要を起し、他日日本生絲の一大得意場となるであらうと思ひまして、御參考までに申上げたのであります。

第三　濠太利匈牙利

此國にても亦別に實地を踏て調査をしたのではなく、全國官府ウキソナに農務省を訪ひ當局者に就き蠶絲業の一斑を聞き得たる處を申上ぐるので御座ります。

濠太利にては其南部地方即ちゴルツ、アイドリア等の地方にては餘程以前より蠶業行はれ今尚ほ斯業を營むもの多いと云ふことであります、此ゴルツには前年日本へ蠶業調査として來りたるボーレー氏の統督せる蠶業學校がありまして、同氏は蠶業には頗る熱心にして養蠶業者の爲に一の教科書の如きものを著し、之れに依りて改良發達を誘導しつゝあると云ふことであります、又政府にても三十年以前より種々奬勵する處あり年々二萬クローネの國費を支出しまして、蠶種母蛾の檢査をなし當業者の便利を謀つて居るのであります、此檢査は元來任意の檢査であるけれども當業者は其利益あるを感じ年々歲々受檢者を增加するの景況であると云ふことであります、近年伊佛兩國より該國へ蠶卵の輸入するもの少くないので此等に對しても矢張病毒檢査を受けしむるの方法を取り居るも其効果は母蛾檢査の如く著しくないさうです、然るに政府にては斯くの如く奬勵せらるゝも伊、佛、若くは日本等に比すれば生產費を要すること多きを以て其發達は顯著ならずと云ふ有樣であります。

匈牙利にても二十年以前より頻りに奬勵を加へ今尚ほ年々持續して殆ど干渉的の奬勵になつて居ります、其蠶業の方法は專らボルレー氏の指示に出でゝ居りまして、前年仝氏が日本に來りたるのも全く仝國政府より派遣したるものであると云ふことです、仝國にては蠶種に就ては殆ど一種の專賣法が行はれて居ります、即ち當業者の生產したる繭は政府之を買上げ、政府自ら蠶種を製造し實費を徵收して當業者に拂下ぐるの方法にして、當業者は一切蠶種を製造することが出來なく、一定の價を以て政府へ繭を賣上ぐるの義務ありと云ふことで、恰も日本の政府は葉煙草を買上ぐるに標準格を示して、其價格以內で賣上ぐることを當業者に義務として負はしむると同一樣で、法律によりて施行されて居ります、又政府にては官設の製絲場四ヶ所を有し、其買上げたる繭中製種用に供するもの、外は總て此處にて繰絲し、尙ほ餘りあるときは佛蘭西或は伊太利に賣却すると云ふことであります、然るに斯く蠶種の專賣法が行はれて居りますが、伊佛より輸入する所の蠶種の數量も甚だ少なくありません、是れには毫も法律の制裁を加ふることが出來ぬので、專賣法を施行するに就て妨害になつて居る、即ち土地のものが伊佛の者の名を藉りて蠶種を製造する弊害があると云ふことであります。

其他同國に於ては製絹業の發達を期する爲め年々拾萬法の國費を支出して之れが奬勵を企て居ります、斯の如く濠太利匈牙利の一體の養蠶と云ふものは非常な政府の奬勵の仕方であつて寧ろ當業者よりも政府が進んでやつて居ると云ふ有樣でございまして其奬勵を爲す熱心の程度ほど進んで居らぬかのやうに思はれます、何ぜ進んで居らぬかと云ふと繭の產額の統計を見るも之れを證據たてることが出來る、即ち最近五六年間は大抵每年百十二三萬基乃至百三十萬基の間を昇降して居りまして、一向進んだ形跡が顯はれて居りませず、又蠶種の一オンス（二十五グラム）から產する所の收繭の量に至りましても伊太利佛蘭西に比べますと其量は大に劣つて居ります、故に同國蠶業の前途果して著しき發達をなすや否やは豫言すること出來ません。

第四　伊太利

次は伊太利に移りまして伊太利の蠶業の事を申上げます、伊太利の蠶業は私の最も觀ることを希望して居つた所で御座いますから大分方々を踏査致しました、即ち該國に於て蠶業地として有名なるロンバルディー、中央伊太利、ピーモント地方の各所を巡回し其間生絲檢査所、絹業協會、養蠶家、製絲家、機業家等十七八人を訪ひ、其地の狀況を見聞致しました、諸君の已に業に知了せらるゝ如く伊國は歐洲に於ける第一の蠶業國にして其生產せる生絲の如きは品質佳良殆ど佛國生絲の名聲を凌駕せんとするの勢

となして居ります。

桑園　伊國に於ける桑園の仕立方は既に諸君の御承知の通本邦の桑園とは全然其趣きを異にし、悉く大木仕立即ち高木作りでありまして、植付方は畑の全面に之を植ゆるものなく、其四隅若くは南側等に株と株との距離を極めて遠くして二列又は三列位宛植付け、其桑樹の下には多くは他の農作物を耕作して居りました、故に桑樹の成長したる有樣は恰も吾東北地方に於ける苹菓園を見るの樣な感じがあります、之れを以つて例へば一反歩に植付たる本數の如きは僅々數十本に過ぎません、斯る植付方でありますからして空氣の疏通は極めて宜しく桑葉の蒸暑するが如きは全くないと云ふことです、そうして桑樹の種類と云つても、餘り多くありません、普通行はるゝは幹の白きものと、赤黑きものとの二種に限ぎると云つても宜しいと當業者は申して居りました。

蠶種　蠶種に就ては該國にても日本と同樣一時種類大に増加致しまして、種々雜駁に流れ善惡混交當業者も殆んど其取捨に困るしむの狀況に陷り、有識者に於ても漸やく種類の改良を圖らねばならぬと云ふ必要を感ずるに至りまして、そこで前年來各所の蠶業學校、生絲檢査所若しくは生絲商組合等の人々が主導者となり、熱心之れが改良に從事し、反覆研究の結果、現今にては伊國在來の純良黃繭種と支那の純良白繭種とを掛合せたる雜種は蠶兒强壯絲質優良なることを確め、一般に之れが普及を計りつゝあります、故に該地に於ける蠶種の價格の如きも此掛合雜種は其價常に他種類よりも高價を保つて居ります、伊國に於ける昨年の蠶種相場を見ますに支那種と黃繭種との掛合雜種は一オンス十乃至十四リラにして純粹伊國黃繭種は九乃至十二リラ、支那一回雜種は八乃至十リラと云ふ割合であります、之れを以て見ますにも支那掛合黃繭雜種の如何に一般に歡迎せられつゝあるかを知ることが出來ます、さうして現今行はるゝ伊國蠶種の種類は甚だ少なく、主として飼育せらるゝ種類は今申上げた支那掛合黃繭雜種、伊國原產黃繭種（此内に大巢、中巢、小巢の別あり）其大部分を占め、此他土耳古并に日本產白繭種、あれども殆ど全體の一割乃至二割に過ぎないと云ふ有樣です、又蠶種製造の實況を聞きますに該國にては別に政府の法令を以て强制的に蠶種の檢査をなすことは致しませんが、又本邦に於けるが如く小養蠶家が各自に自家用蠶種を製造するものは絶て稀れでありまして、蠶種製造家は殆ど其專門の業となつて居りまして蠶病檢査の如きも專門家が己れ自ら之を施行するでなければ相當の技術家に託して之れを行はしめ、己れの信用を重んずるが爲め無毒の證明をなして販賣すると云ふ實況であります、是れ實に蠶種改良上必要の良慣行でありまして、希くは本邦に於ける蠶種製造の如きも出來得べくんば自家用の蠶種製造を止め、蠶種の製造は其專門業者に限ることゝせば種類を制限する上に於ても又種類改良の上に於ても少なからざる利便あることゝ考へられます。

養蠶　伊國に於ける養蠶は大仕掛に行ふものは甚だ少なく、其最大養蠶家と稱するも一戶三乃至四オンスの蠶卵を掃立るに過ぎないのであります、此等は其數多ありません、そうして一オンス乃至二オンスの卵量を掃立るものを最も普通と致します、蠶室の如きも日本に於けるが如く種々の考案を凝らし宏大の建築をなせるものは甚だ少なく、多くは住宅を利用して飼育して居ります、私の巡回したる時は不幸にして養蠶期節でありませんから、飼育の實況を見ることの出來なかりしは頗る遺恨とする處であります、該地に於ける蠶兒の發生期は山地、平地等場處の異なるに隨つて各々遲速ありますけれども概ね四月二十日頃より五月十日頃迄の間に掃立ると云ふことです、蠶種の催青法は區々一樣でなく或は催青器を用ひ溫度を加へて其發生を促がすものもあり或は婦女の懷若くは背に負ふて發生をが促すものあると云ふことであります。

蠶室内にはストーブを設置し飼育中溫度を用ゆるものもあります多くは溫度を用ひませぬ、去りながら常に攝氏十八度乃至二十度の溫度を保たしめて四十日間位にて上簇せしむると云ふことです、蠶兒に與ふる給桑の回數は一齡より二齡迄は二時間若くは三時間毎に一回、二齡より四齡迄は四時間毎に一回、四齡より五齡迄は五時間毎に一回つゝ與へ、一オンスの卵量の蠶兒を飼育するには桑葉の全量凡そ一千基を要すと申して居りました、而して一オンスの卵

量より收繭する量は練、眞黃繭種は場處に依り四十、乗乃至七十基迄、白繭種は三十乃至五十基に達するとのことである（併し何れもこれは普通の收繭量として少しく不作の時は二十乃至十五基位に止るもの少なからず。

養蠶期中人夫の賃銀は大凡そ一日一フラン乃至一フラン半位にして桑葉の價は年柄と場所に依りて異なるもピーモント地方（トリノ地方）にては大凡十基に付六十三乃至七十三、ロムバルト地方（ミラン地方）にては全一フラン、中央伊太利地方にては全二フラン位ださうであります、繭の價格も亦生絲の商況、場所の相違等に依りて年々高低一樣でありませんけれども、大凡一基三法乃至四法位は通常であると云ふことで而して繭の價も亦た蠶種に於けるが如く支那種の掛合種より產したる繭は毎に其高價を保ち居ると云ふ次第であります。

（未完）

◉養蠶の經濟を論す

大日本蠶絲會
特別會員　市瀨善治

吾人が熱中する養蠶の業は個人に利益にして國家經濟にも亦大なる關係あるは謂ふを要せざる所なり、されは高尙なる蠶種の改良、蠶病の消毒、飼育の練磨等は學者となく實業家となく、蠶々論去り論來り間然する處なきに似たり、而して全國一般の養蠶家か學者先覺者等の所論に從て之れを實際に施すや否やは未知の問題なれとも、早晚其機運に達するの時なしと謂ふへからす、故に今殊に之を論するの要を見す、玆に予の一般養蠶者の注意を促かさんと欲するは經濟の一點にあり、個人的經濟即ち養蠶に關する費用を本年度我長野縣下伊那郡に於ける諸物價に準し、試算し以て各位の參考に供せんとす。

三十五年度養蠶收支試算

支　出

一金壹圓五拾錢　蠶種百餓付壹枚代
一金參拾錢　蔟樒三帖一帖拾錢づゝの積算
一金貳拾四圓　持桑三百貫目百貫目八圓の積算
一金參拾貳錢　炭四貫目壹貫目八錢の積算
一金四拾錢　蔟四拾把壹把壹錢の積算
一金拾貳圓　人夫四十人一日一人飯料とも參拾錢の積算
一金參圓　油蠟燭其他諸雜費
一金貳圓　蠶室修覆費
一金貳圓　蠶具一切修覆費

合計金四拾五圓五拾貳錢

收　入

一金貳拾八圓參拾五錢　上繭七斗一斗代四圓〇五錢の積算
一金四圓貳拾五錢　玉繭赤繭及蠶養桑枝等の代

合計金三拾三圓六拾錢

差引金拾貳圓拾貳錢　不足

此不足金なるものは全く收繭の寡少なるに基くものにして、殆んと手間賃に相當る、故に收繭少けれは四十日間勞働の報酬は暴て水泡に屬するに至る、飼育上不注意不勉强の結果豈懼れさるへけんや、依て今少しく飼育に注意を加へたるものに就て算を取れば左の如くなりとす。

支　出

合計金四拾五圓五拾貳錢　前記と差異なし

一金四拾五圓　收　入　上繭壹石壹斗四圓五拾錢の積算
一金六圓七十五錢　玉繭赤繭蠶養桑枝等の代

合計金五拾壹圓七拾五錢

差引金六圓貳拾三錢　純益

斯くの如く養蠶上に注意を加へ、技術の練熟するときは一石の收繭あり、故に勞力の報酬を得たる上に尙ほ六圓貳拾三錢の純益あるの試算なり、同一の經費を要し、同一の勞力を加へ、同一の時日を費し、養蠶を營み、一は損を招く彼れか如く、一は益を受くる此の如し、是れ算盤面に現はれたる損益のみに非す、實地に於ても亦此軌を脫せさる也然るに拘はらす養蠶は有利のものなりとし、猥りに高價の桑葉を買入れ不注意の養蠶を爲すものゝ如きは其結果の不良は理の當然にして洵に惑れむへきものありと謂はさるを得す、我地方に於ては當路者の注意に依り蠶業界の泰斗たる佐々木長淳、練木喜三の兩氏を始め學士等を時々招待し、其所說に則り蠶種の撰擇及飼育術も漸次發達し、加ふるに蠶病消毒器の如きもトリラ釜を始め田中式、田原式又は自動噴霧器等新出

の發明品を購入し、實際に應用するの機運に際せるを以て、最近の統計に依れば、去る三十三年は原紙壹枚に對する上繭の收獲壹石〇壹升三合、昨三十四年度は九斗三升四合の收獲なるを以て、漸くにして損失を免かるゝを得たるも、之を廣く全國に照らし收繭額僅に六斗内外に過ぎざるを顧る時は、痛歎に堪へざるものあり、何となれば、前述の如く養蠶は收繭額壹石以上を獲るにあらざれば有益なりと認め難けれはなり、予は之れを些末の事として默するに忍ひず茲に不文を草して當業者の參考に供す養蠶家諸君經濟の點を深く考へ算盤上確實の利益を獲られん事を奬む。

●本邦製絲改善の要所

大日本蠶絲會
特別會員　吉田建次郎

從來海外に於ける本邦生絲の批難は一にして足らすと雖も、經絲となるへきものに就ては、主として抱合の不良なると、絲質の軟弱とにあるものゝ如し、余輩の横濱市場に於て見受くる所にては抱合の完きものは甚た小數なりとす、然れとも繰絲とすへき程の價値あるものに至りては悉く不良と認めさるも、尚ほ往々にして此缺點を見るは遺憾に堪へさる所なり。

抑も生絲の抱合とは一繭絲の互に附着する謂にして、其良否の因て起る普通の原因は繰絲の際裂繭の度適合せさるか或は檢査の施し方寡きか、或は器具の構造不完全なるかの諸點に在れとも、近來特に抱合上批難の聲を高めたるは或は繭乾燥の過激なるに因らすんはあらす、元來高熱を用る短時間に乾燥せしむるは繰合其方法の完備せるものと雖も、絲質の全體に對し決して好事にあらさるなり、況んや其方法間然せるもの往々之れ無しとせさるに於てをや、余

反する一例を言へは、品に依り抱合の甚た不良なるものにして、毫も苦情を聞かさるものあり、如上の實例に就て之を見れは、製繭の際繭の分裂するは單に抱合の不良のみに因らすして、生絲中の撓額所謂くり節又は稍や大なる額節等の糠絲となりて分離し、筋に類るゝに從ひ斯かる現象を呈するものなるなきか、果して然らは抱合の必要は固より言を竢たさるも、額節の繭維分裂に關する所亦尠少なからさるへし、之か改善の策を講せんとするには、固より製絲家に於て器具若くは技術上の注意を要するは當然なりと雖も、而かも孔壓切の要は原料繭を選擇するにありとす、凡そ生絲の抱合を佳良ならしめ、額節を減せんとするには必らすや繭を熟煮せさるへからす、然るに繭質の軟弱なるものは繭絲崩潰し、或は屑絲を多く生し、或は大額を生し、或は繊維惡脆弱となる等の患あり、且斯の如き繭は熟煮せすして解舒し易きのみならす、反つて未熟煮なる力取扱ひ易らか故に、工女は勢ひ未熟煮にて繰絲するを以て、小額を多く抱合も亦不良とす、之に反し良繭を繰絲するには、未熟煮なれは解舒從て佳ならす、爲

蛹は其利害を詳述するに十分なる實査を了せさるを以て茲に明示る能はさるも、其有害なることは確く執りて疑はさる所なり。

頃日抱合不良なる爲め製織の際繊維分裂し使用に耐へさるものありとし、海外機業家より苦情と共に其若干を送致せるものを聞するに、分裂せる所は一塊の大額となり、恰かも玉絲に於ける額節の如き形狀をなすあり、或は其箇所より切斷せるあり、或は其分裂せるものゝみ切斷して細疵となれるあり、實に一見慄然たる感無き能はす、然るに此品たるや生絲の際は抱合と言ひ、絲質と言ひ、何れも佳良にして外觀上先つ缺點なく、尚ほ器械檢査の成蹟を擧くれは左の如くなりき。

纖度平均	拾四デニール貳分三厘
同細太の差	六デニール貳分五厘
強力平均（一デニールに對し）	三拾九グラム
伸度平均	二割
額節平均（五百メートルに對し）	百九拾六

斯の如く普通上位の品格を備へたるものと言ふへきも、特に額節は少なしとせさる品質なりき、又之に

めに自然熟爽するに至るを以て、小額も減し抱合も佳となり、而かも絲纖の力をも損せざるなり、蓋し茲に良繭と稱するは單に絲量の多きものにあらずして絲質の佳良なるものを指すなり、然れとも本邦に於ける繭の資質に由れは、繭皮薄きもの程概して繭絲の粘力乏しく解舒容易なるの傾きあるも、絲質軟弱類節多數なれは、到底經絲に適合すへき生絲を製造すること能はさるに以たり、故に繭の種類に就て之を言へは、正確なる赤熟又昔青熟小石丸の如き絲質の良好なるものにして、完全なる飼育に依り成繭せるものにあらされは、經絲として需用者の嗜好に適し、他の蠶絲國の精品と聲價を競ふこと得て望むへからさるに庶幾し。

而して近來養蠶法の進歩は實に驚くへきものあり て、其學說の如きは殆んと微妙の極に達せるものゝ如く、苟も蠶桑地方にありては生理病理等を口にせさるものなきに至れり、然るに收繭の品位に於ては今より數十年以前のものに比し、反て劣れるを覺ゆるは其た遺憾の至りならすや、斯く言はゝ人或は謂はん、其以前良繭則ち赤熟青熟の如き種類を飼養せし際は、經濟てふ觀念を毫も念頭に置かす、單に良繭を收獲するを以て養蠶家の本分の如く思惟せるにより、失敗を招きたるもの多けれは決して嘉賞すへきことにあらすと、實に然り、然りと雖も蠶繭は生絲を製するを以て主眼とするか故に、絲質の佳良なるものを選擇すへきは論を竢たさる所にして、品質の如何を顧す單に飼育の容易なるものを採り、收繭の確實を謀るとせは焉そ學術を竢つの要あらんや、斯の如きは未開の養蠶者と雖も尚能く爲すを得へし、學術進歩の効果なるものは決して此の如きものにあらす、飼育の困難なるものをも確實に成繭せしめ、養蠶の經濟を完たからしめ、絲質佳良の原料を得るに至つて始めて學術の奏効を稱すへきに非さるなき乎、余輩は斯業に疎にして其是非を糺すの明なく、只自ら任する生絲業の爲め熱望の餘り茲に一言を費せるのみ。

更に製絲家諸君に切望するものあり、他なし製絲の原料には良繭を用ゆること是なり、然れは抱合整ひ類節少なき生絲を得るを以て、延て强伸二力も豊富にして絲質の脆弱に失することなく、又色合に於ても繭熟煮の爲め一種の色を帶ひ固有の美を失ふことあるも、繭質粗惡なる爲め帶色せるものと同日の比にあらさるを以て、使用上毫も支障を見さるなり、是に於て乎需用者の嗜好に適すへきのみならす、製絲經濟に於ても亘繭の利益あることは昭々として明かなり、是れ實驗ある諸君の夙に詳知せる所とす、己に三十五年度繭購入の期刻下に至れり、故に緯絲用の製絲は姑らく措き、經絲用（一番格　以上）の生絲を製出せんとする製絲家にありては、勉めて良繭を還擇し購求するを急要となす、是れ余輩か勸告せんと欲する一片の婆心なり。

本邦生絲の聲價を高め、他國蠶絲を凌駕し販路を開拓せんことは常に輸出業者の努むる所なれとも、奈何せん海外需用者の苦情絶へず甚しきに至りては、一旦製織機に登せたる染色絲をも返却せらるゝを見る、是れ實に輸出業者の面目に對して忍ふへからさる汚辱なりと雖も實際に於て品位の粗惡なる爲め止むを得ず甘受せさるへからさるに陷る、諸君請ふ幸に反省する所あれ、是れ單に輸出業者の小面目のみに止まらす、蠶絲國たる本邦の名譽を失墜するに至るべけれはなり。

●蠶兒の衛生上不可缺の一物

（大日本蠶絲會第十一回大集會演說）

技藝委員　練木喜三

午後休憩の後を承けまして、まだ御揃ひにもなりませぬが、規定時間の順に當りまして、是より私が御清聽を煩はすことに相成りまして御ざいます。

私の今日御清聽を煩しまする演題は既に掲げございまする通り、蠶兒の衛生上不可缺の一物と云ふにございます、蠶兒の衛生上不可缺の物と云へば、是はもう多々ございまして、就中彼の消毒の如き最も不可缺の物て、之が勵行を希望いたしまするは御同樣のことにございまするが、此の消毒のことに關しては、或は謂はゆる萬病請合の如く心得らるゝ人々なきにしもあらず、即ち消毒すら致せば氣候は如何にあるも、飼育は如何にあるも其の結果必ず圓滿なりと心得て、消毒には大いに力を盡すも、飼育の點に至り或は忽せにするものもあるやに承知いたしま

する、而して其結果大失敗を取れる者又無きにしもあらずにございます、茲に於てか其の失敗を取れる者は思へらく、消毒何の效もなし、寧ろ爲さゞるの優れるに如かずと、如何でございませうか、消毒は萬病請合と思ふたが當りてございませうか、又消毒は寧ろ行はざるに如かぬと斷定せられたが當りてございませうか、無論是はどちらも誤りて、消毒の必要素より疑ひとて異論のあらう筈はございませぬが、是れすら行へば養蠶必ず圓滿なりと心得たは即ち誤りて、而して之を行つて失敗して消毒無效なりと斷定せられたも亦誤りてございませう、要するに消毒は蠶兒の衛生上缺くべからざるの一に相違ございませぬが、去りながら是れすら行へば他は如何にあるも養蠶必ず圓滿なりと心得るは即ち誤りであると云へば、消毒固より勵行せざるべからず、而して飼育の方法亦大いに慎さゝるべからざる事と考へます、併し此事たる、斯業に御熱心の皆さまはもう既に業に御着破つかはされて御居てのこと故、又茲に之を繰返すの要もございますまいが、大分關係のあります事故、後日尙ほ緩々申上ぐる次第もございませう。

却説今私の茲に蠶兒の衛生上不可缺の一物として掲げましたるは、此の消毒の一事でないので、此の外にあつて最も缺くべからざる所の一物を御紹介いたさうと存ずるのでございます、其の不可缺の一物とは抑も何物であるぞと申しまするに、別段珍しきものではございませぬ、皆さまの常に御使用つかはさるゝ所の糊糠、即ち是でございまする、彼の消毒を行ふも尙ほ其結果圓滿ならずして、然かも大失敗を取れるものゝあるが如き、詰り病毒は之を殄滅し得たにもせよ、或る誘因を避けることの出來なんだ結果に外ならむことゝ思ひます、て此の蠶病を引起しまする所の誘因の多々ございまするは、既に皆さまの御熟知の通り、就中本邦に於て最も此の誘因の顯著なるものは彼の濕氣でございませう、所が濕氣の養蠶上大害のあることは、どなたも、もう知り過ぎておいての位、今更申すまでもございませぬが、偶々又此の濕氣を認めて無害なりとする方もないではないので、併し實際どうかと云ふと、濕氣は實は養蠶上大害を爲すの一物で、尤も極く廣らかなる所で

少數の蠶を飼育いたしまするときは、縱んば其の濕氣の飽和度に達して居ること數日に亘りまするも、或は始終飽和度の所で飼育いたしまするも、手入れ次第相應の結果を以て我々に報ゆるは當然あり内のことにございます、御承知の通り試驗の爲に殊更に病蠶を拵へやうと致しまするときは、どうしても出來ぬやうなことのあるもの、現在非常の害物として認めたるものに過はして、而して其の害を實際に認めることの出來ぬやうなことがあるのでございます、少數の蠶を養ふた試驗の結果の上から申しますと、濕氣は差して恐るべきものでなきが如くございまするが、今實際に於て其の家屋相當の養蠶を爲しまする場合、若しも非常の濕氣に遭遇いたしましたならば其の結果如何でございませうか、論より證據、乾燥の年は概ね豐作で、濕潤の年は違作勝、兩年にはどうしても失敗者が多うございます、して見ると絕對的濕氣無害なりと云ふ譯には參らぬ、尙又實際に立入つて一、二其の適例を掲げませうなれば、若しも或る一室内に除るほど蠶兒を充てゝ之に十分の給桑を爲し、而して其の周圍を密閉して空氣の流通の宜しからざる場合如何と云ふに、或は天井に汗をかくやうなことがございます、所て其の結果はどうあるかと云ふと、決して無事には參らぬ、斯る例しは皆さまに於ても定めて能く御承知つかはされて御居てのことゝ存じます、或は又濕氣の多きが爲に、如何に苦心するも養蠶の發達せぬと云ふ所もございます、是はもう隨分あることで、勞々此の濕氣と云ふものは事實の上に於て有害の物と云ふて差支へあるまいと思ひます。

然らば凡そ此の養蠶に從事いたしまする者は、此の濕氣を排除するに努めざるを得んは無論の話、所て此の濕氣を排除いたしまする手段としては、或は給桑の加減乃至換氣又は焚火等種々の方法のある中に付きまして、常に其必要を感じまするは即ち前に申上げましたる糊糠でございます、今申上げました濕氣の爲に、どうしても思ふやうに養蠶の出來ぬと云ふ所でさへ、此の糊糠を使用して好結果を收められ極く近い例を申上げませう、宮城縣に鎧岳山と云ふ十分の給桑を爲し、而して其の周圍を密閉して空氣がございます、是は同縣下に有名な高山でございま

す、此の高山の頂に坂上田村麿の所營に係ると云ふ大悲閣がございまして、舊幕時代には少なからざる收入もあり、多くの人々之が爲に衣食して居られた、所が維新以來大いに衰微いたしまして、是非或る物產を以て此の困難を支へなければならぬと云ふ一段に及んで、養蠶を企てられ、百方力を盡されたのでございますが、何分高山のことゝて、朝に夕に動もすれば雲がかゝり霧がかゝると云ふやうなことが出來なんだ、然る所本會會員の一人に海上靜と云ふ人がございます、唯今島根縣の技師兼巡回教師に相成つて居らるゝ、即ち西夕原出身者の一人で此人は此の鎧岳の所在即ち遠田郡の人でございまして、嘗て同郡々書記として奉職の砌、右の話を聞かれて是は實に怪むべきの一事である、何か原因のあることなるべければ、自身探究の衝に當り、如何にもして好結果を得せしむるやう致したいと云ふので、在職の儘養蠶傳習教師として此の山に登られまして、彌〻着手して見て、失敗の原因全く濕氣にあるを看破した、所で之を除くにはどうしても殺糠でなければならぬと云ふ者で、大いに之を利用いたされた結果實に美事なるもので、決して他に劣らざる立派な結果であつた、それから始めて此の山の人々も詰り是迄の仕樣の惡かつたのである、斯の如くすれば養蠶は爲し得るものであると云ふ所に心付かれて、以來今日相當の養蠶地と相成り居りまする、是は誠に近い實例でございます。

此の他例を擧げますれば尙ほ多々ございますが、何れも類似のことで、濕氣を除くに於て殺糠の效能の大なるは、此の一例にても能く御分りのことゝ存じます、尙ほ此の殺糠には今一つ、最も我々の希望いたす所の效能を有し居るものと私は考へるのでございます、唯今申上げました濕氣を排除するの一法として缺くべからざる殺糠、此の一事ばかりでも蠶兒の衛生上缺くべからざる一物と存じますが、尙ほ其の上に今一つ缺くべからざる效能を具へて居るのでございます、そは又何事ぞと云ふに、凡そ此の殺糠は以てよく蠶座の清潔を保つと同時に、傳染病の發生に際し又以てよく之を隔離して多少其の傳染を免れしむるの效能ある、即ち是にございます、例へば傳染病蠶の發生に際し、さしたる注意もなく其の上に直ちに給桑いたしませうなれば、勢ひ傳染の不幸を見るは必定、然るに若し此の際此の殺糠を使用し、先つ之を撒布いたして而して後其の上に給桑いたしませうならば、彼の黴沙より來る所の傳染病毒は確に之を隔離し得らるゝものと思ひます、斯は私が唯さう思ふばかりではない、是も實例のあることでございます。

御名前暫く御預りに致しますが、奧羽に於て有名な蠶種製造家の一人が、彼の微粒子を除かんとして何分にも除けぬに困じ、多少多年苦心の末、遂に殺糠の使用に心付かれた、即ち病毒の隔離に心付かれた、而して或は二桑目乃至三桑目には必ず殺糠を撒布して給桑することにせられた、それより以來は病毒殆ど絕無に相成つたと云ふ、是は最も確な實例でございます、此の結果よりして彼是れ比較いたし來りますときは、寧ろ不完全なる消毒を行ふよりは、此の方が其の奏效顯著なりと言はねばならぬやうなことさへあるのでございます、前にも申上げた通り無論消毒は勵行いたさねばなりませぬが、幾ら勵行いたしましても、周圍の狀況が蠶兒の衛生に適しませんなんだときには、どうしても病蠶は免れぬ、幾ら消毒が完全に行屆いても免れませぬ、御承知の通り彼の虎列拉病の如き、消化器の働きの弱いもの又は弱き時など罹り易いと同じことで、周圍の狀況其衛生に適せずして若しも其の健康を害せらるゝときは、消毒如何に完全なりとも決して無病に經過することは參りませぬ、ですから如何に消毒したからとて決して安んずる譯にはいかぬので、飼育其の法を盡すべきは勿論の話、清潔の上にも清潔を努め注意の上にも注意を加へて、其上にも尙ほ此の殺糠を十二分に使用せられむことを希望いたします、全體御承知の通り蟻量一匁目に付大約一石の殺糠を見込むは普通の用量にございますが、今申上げる點の上からして、或は濕氣を排除せんが爲に……是は排除すると云ふと少し語弊もありませうが、詰り濕氣の害を防がんが爲めに、或は蠶座の清潔を保たんが爲めに、又病毒を隔離せんが爲に之を使用せんには、是非とも尙ほ是より多量を要せねばなりませぬ、現に彼の微粒子毒を除かれたる或る人の如きは、

●生絲整理論（承前）

大日本蠶絲會
通常會員　九岡寛三郎

第五節　生絲の整理

生絲の技術的改良にして、實易的改良に伴はずんば、其効は其勞に酬ひず、品の不揃なる爲め蒙る不利益の大なること、此の如く其れ明かなれば、尋で起るべき問題は即ち生絲の整理に如何にすべきかに在りとす、語を換へて言へば品位を取揃へるの手段方法を如何にすべきかに在りとす、蓋し之れ無くんば實易的良絲として商戰場理に必勝を期し難ければなり、苦心慘憺の經營も充分なる功績を有形的に奏し難ければなり、整理の生絲市場に於る、此の如く其れ至緊至要なるが故に、苟も事に斯業に從ふものは、有らん限りの手段方法を講じ、其善なるものを撰むや、全力を盡くして速かに之れを實踐せんこと最も肝要なるべし、彼の信州器械製絲の如き上州座繰絲の如き將又福島折返絲の如き、一は需要者の嗜好に適すべき特質あらんかなれども、常に能く實れ、且つ比較的高直になる所以のものは、職として整理其宜しきを得たるに由らずんばあらず、採りて以て好適例とすべきにあらずや。

然らば則ち如何にして可ならん乎、全國の製絲家をして悉く何百個以上の釜數に爲さしむべきか、若くは近來の流行に倣ひ製絲家の一大トラスト會社を組成すべきか、但しは横濱に合同販賣店を設け品位を類別して一定ならしむべきか、是等の考案は容易に實行を期し難く、恐らくは疎漫を免れざるべし。

余輩は今日の現狀よりして、實行し易く且つ有効なるべきは、製絲家の合同を措て、他に良法の有らざるを斷言して憚からざるものなり、同業者の合同たる、諸般の業に行はれて、其効果世の周知する所ろなれば、獨り製絲事業に於て廣く行はれざるは無く行はるゝとして其効果無かるべきはあらず、或は銀行の合同といひ或は鐵道、汽船會社の合同と云ひ、其他異種異樣の事業に至るまで、種々の合同合併或は行はれ、製絲業に在りても合同の下に好結果を收めつゝあるもの其例に乏しからざるを以て見れば、多數製絲家に於ても亦絶對に行はれざるの謂れ無かるべし、合同せずして品位の割合に不揃なるものを

蟻量一匁目に對せる用量約三石の多きに達せりと云ふ、實に左もあるべしと存じます、事理に明なる皆さまのこと故、啻々しく細やかなる義を申上げる必要もございますまいが、此の傳染病に對する隔離の必要は、彼の公衆衛生上傳染病流行の際隔離室を設けらるゝ一事を見ても能く御分りのことゝ存じます、て無論彼の除沙を努むるが如き、大いに此の意味を含んで居るのでございます、けれども如何に除沙を努めなければならぬからと云ふて、給桑毎に行ふ譯には參りきせぬ、手數が許さぬ、之に換ふるに殺糠を以てするが如き、最も便利にして然かも其の效能の顯著なるものと考へます、併し若しも此の殺糠か、彼の消毒劑を購求するが如き高價なるものでございませうならば、又考ひものでございますが、幸ひに極めて廉價なるもので、而も使用務亦決して廢れぬもの、御承知の通りそれ〳〵用途のあるもので、例へば大豆や油糟若くは其の他の物を其の畿田畝に施さむよりは、寧ろ之を家畜に與へて其の排泄物を肥料に用ふれば效能は矢張同樣、詰り家畜を養ふだけが利益であると同一で、殺糠を蠶に用ゐれば即ち用ゐただけそれだけ利益、用ゐ得らるだけ充分御使用を希望いたします。

右樣のことは、既に業に皆さまの御熟知の事とは存じますするが、もう是れ當年の養蠶も間もないことでありますするから、唯今より尚ほ此の殺糠の使用上、一層御注意つかはされて、同じく使用せらるゝにも斯る效用のある所を確に御信用ありて、其の心もちで御使用つかはされませうならば、從て養蠶の結果も亦それだけ必ずよろしからうと心得まして、茲に御清聽を煩しました次第でございます、是て御免を蒙ります。

製出し大なる損害をも甘んじて之を忍ぶの勇氣あらんには、利益を期する合同に對し、如何なる工夫をも凝らして其成立を謀るの勇氣も亦た無かるべからす、尙合同の詳細に至りては更らに節を別ちて說述する所あるべし。

合同の目的は整理にありて、整理の目的は多數の同一品位を出だすに在り、詳く言へは同一名義、同一商標の下に同格の品を多く揃へるに在り、何れの製絲家も、生絲を一定にする爲め原料繭質を一定にせんことを希望し努めて買入方に注意し居れども、其撰別の結果幾種かの階級に分かるゝが故に。從て生絲の產出にも差別を生じ、一製絲にして品位の異なる數種の品を出だすは、大小製絲とも免かるべからざることなれども、多量を製する向は更らに類別して、品位の異なる毎に同一のものを取り纏め、荷口を揃へて之を供給し得るの利益あり、僅少の製絲家には先以て此妙味乏しきが故に、結局前數節に於て述べたる如き不利益を蒙むるに陷り易きなり、而して此僅少なる荷口が如何なる狀態にて輸出せらるゝやと云ふに、輸出商の荷造りを爲すに際し、端數の荷物は品質の稍々相似たるものを一種に取り纏め、自己の製定せる商標を貼附して、恰も同一品位の如く裝ふなり、其の煩勞決して他の荷口の揃ろひしものゝ比にあらざるべし、斯く煩雜なる手數を掛くべき小口は、從て拜見、看貫を面倒ならしむるのみならず、次て始まるべき新商談の進行を妨ぐべきが故に整理即ち荷揃は是非共供給者に於て爲さゞるべからず、事の順序に於て、取引の利害に於て、必らず其然らんことを望まざるを得ず。

然らば則ち整理の標準は如何といふに、無論個數の多々益々辨ずる的の大多數を製出せんこと希望の至りに堪えざれども、種々の事情に依りて製產力には自ら制限あり、絕大の多量を望むは至難の業に屬するを以て、先づ二三百個を下らざる程度に於て基點を据へ、其以上應分の力に依り、同一品位を製せんこと最も策の得たるものなるべし、然れども合同に偏し若くは多數を頼み、製造に油斷して粗製に流るゝが如きは大に慎まざるべからず、是余輩の所謂整理の目的にあらざればなり。

第六節　整理の利益

整理の爲め享くべき利益は、恰も第四節に述べたる不揃の不利益と正反對なるを以て、整理の利益は自から明瞭なれども、順序として左に二三要項を記載すべし。

第一好直を得る事、品位の一定不易にして個數の多く揃ひたる口は、多くは場合に於て、之を不揃の品に比し割高に賣れ行くべき事、何人も疑はざるのみならず、事實の證明に依て表白せられ居る所なるが其理由は買人に於て注文口に合格せる品を取入れんとすれば、先づ第一着に荷口の揃へる品に着眼する故、常に需用者の視線を惹くこと多く、從て賣人の賣退く機會最も多きが故に、時機を失ふこと無く賣らんと思ふ時に賣應ずるの便宜あり、買人の側に於ても、端數の小口物を割安に取纏めて、之を輸出するも不揃の結果往々需用者より苦情を申込まるゝ恐れあるを以て寧ろ幾分の高直を拂ふも荷揃ひの完全なる品を買入るゝの安心なるより、多少我慢しても商談を運ぶの傾向あり、實に、僅か一二口の手合にして幾萬千斤の注文を買埋むることを得んには、其儲便なること此上も無かるべく、僅か一二の見本にして多數の手合を決行せんには其手輕なること無論たるべし、而して之れ整理の成りたる品にのみ望むべくして、不揃の品には決して望むべからず、蓋し不揃の品は數量の割合に比し口數多きを以て、手合の時に煩雜なるのみならず、絲荷を引取る場合にも、彼是れ見本と異なる處の品も出て、更に破談代りを買ひ足すなど其面倒一と通ならず、數千斤の手合にして尙且然り、數萬斤の取引に至り其手數の複雜なること推して知るべきのみ、是故に同一商會にして同日中左手に破談する傍ら、右手には補充買を試み、而かも之れを繰返すこと再三の多きに達するものあり、其漸く納まるに及んで、更に加ふるに荷造に於ける整理の煩を以てす、其手數を比較せば不揃なる一萬斤の手合は、整理せる絲の數萬斤よりも尙ほ面倒多かるべし、絲價に幾分の割あるも荷揃ひせる品を取入れんとするは買人の希望なること是を以てなり。

第二相場の標準を制する事、荷口纏れば輕る程一種の勢力を生じ、個數にして巨額の量に上ぼらんか、其勢力は優に一方に睥睨するに足り、敢て他の出來

直に屈從對比せずして單獨の步調を取り得る場合あり、即ち標準に制せられずして自から標準を作るにあり、抑も相場の伸縮は人氣の消長より來るものなれば、單獨なる一己の進退何の係はる處なきものゝ如くなれども、勢力ある品の賣買は其出來直が忽ち相場の標準として市場に注目せらるゝ次第にして其名聲の益々高く其勢力の益々加はるに於ては遂に是等の賣買が相場の動因となるに至るべし是れを他の進退に隨伴するが如き物に比せば、其得失の差蓋し霄壤も啻ならざるべし。

第三相場の平均を得る事、多數を製出すれば其賣却回數の多きこと自然の數なり、賣却回數多き時は時に或は安直に賣却することあるべしと雖も、氣配の奔騰に連れ時に或は高直に賣込むことを得べきが故に、其賣直段を平均すれば殆んど市價の昂低せる足取りの平均と步調を同ふすべき割合となるなり、其平均を得ると得ざるとに就て試に利害を細說すれば爰に一ヶ年五十個を製出すべき製絲ありと假定し、其製出の五十個を千斤宛賣却するとすれば、三回より賣ること能はず（千斤以下にては賣却上不利なること已に陳述せし通りなり）若し不幸にして其內の一回を相場低落の際賣却せりとせん乎、第二回を高直に賣り平均を取らんとするも、又々千斤に纏る迄には尠なからざる日子を要するが故、其間多少の好機に遇ふも奈何ともすること能はず、空しく傍觀せざるべからざるが如き不利に陷ること往々にして見る處、特に是等製絲家に取りては一回の賣却は一ヶ年事業の三分一に當る勘定なるを以て其利害の全體に及ぼす關係重大なるが爲め、容易に賣否の決心を附け兼ね、遂に機會を失し意外の損失を招きしが如き例も亦乏しからず、然るに是等製絲家が數多合同して、爰に三百個を製出し得るものとなれば其趣きや大に異るべし、即ち千斤宛賣るとすれば十六七回手合することゝなるを以て、假令低落の場合に賣却することあるも、後日相場昂進の際に賣込みて埋合せを付けることを容易なり、已に三百個位製出するとすれば、千斤以上の個數は絶えず市場に現在せしめ置く事となるが故、好機の至る每に何時にても賣應ずることを得べし、尙又二等三等と稱する粗物に於けるも、全產額五十個の製絲家にては、五個若くば七個と云ふが如き端物なるを以て賣直も數段の格下げにて、場合に依り低價に內地賣とせざるべからざることあるも、全數三百個位を製出し得るものに至りては、其粗物何れも優に千斤以上を纏める事を得て、相當價額に賣却するを得べし、此點も相場の平均上に及ぼす處尠なからざるなり。

夫れ個數少なければ少き程賣却回數少なく、賣却回數少なければ少き程賣上直段を低價偏重ならしめ從て相場の平衡を得難く斯業をして危險ならしむるの嫌あり、之に反し個數多く賣却回數多ければ、從て相場の平均を得、斯業をして益々安全ならしむるものと云ふべきなり、整理の利益亦大ならずや。

第七節　製絲家合同の必要

製絲家に於て合同すること無く、自然の成行に依て漸次小規模の大規模に移るを待つか、若くは大製絲家の興起して小製絲家に代るべき自然淘汰に依りて、整理即ち荷揃ひの完全することあらんには此上も無き進步にして誠に喜ぶべきの次第なれども、斯く成る迄には多くの星霜を要すべく、且其成否も豫期し難きのみならず、今日此焦眉の緊急問題をして斯かる成敗不定の成行に放任するが如き到底忍ぶ能はざる所なれば、更に進んで之れが方法を講ぜざるべからず、而して其方法たる結局製絲家の合同を以て、最も時勢に適應したる良策なりと信ず。

合同の必要を知るもの多からずとせず、時期の上よりすれば已に充分熟し居るが故、着々其成立を見るべき筈なれども、未だ捗々しく成立せざる所以は、其實行上困難の事情あるに依るなるべし、而して今其事情の一二を擧れば。

第一は品質上の爭にして、或は色澤の優美に誇り、或は纖度の均一なるを、或は類節の稀少なるを、或は原料の善美なるを自慢し、互に我が長を擧げ他の短を貶するに至る、是れ寸分にても他に優らんとする熱心より來る製絲家の常情なれども、一朝合同を行はんとする場合には、尠なからず支障となるなり。

第二は感情にして俗に商賣敵きと云ふ如く製絲家にも亦此弊を免かれず、原料調買入より起る競爭等にて、相互の間感情の平かならざるものあり、加ふるに工女の誘拐等を以てし、知らず識らず感情を破壞

し、遂に相互の融和を缺けるもの尠しとせず、彼の技術的競爭の上に、尙ほ此感情的阻隔あり、爭てか圓滿なる結合を求むべけんや、各地方に於て合同の將さに成らんとして成らず、漸やく成るも須臾にして破るゝもの、誠に故なきにあらざるなり。

以上の如き事情の存在する爲め、互に相反目し意志の投合せざること理無きにあらず、是れ余輩の諒とする所にして、良き絲を製するものが比較的劣りたる品を製する者と合同するが如き、高き品と安き品と合同するが如き、一方の利益大なれば大なる程、他の一方は不利益の大なるを感ずるならん、誠に當然の次第なりと雖も是小利のみ小感情のみ、一旦合同の必要を悟り、永遠の大利に就かんとせば、須らく奮勵一番斯かる小利小感情を放擲し豁然心を虛にし、洋々たる新天地を開くの大覺悟なかるべからず。

聊か穿ち過ぎたる例なれども、今假りに左の三個の製絲業者あらんとせんに

品質	百斤の價格	一ヶ年製産額
甲	九百二十四	七十個
乙	九百十圓	七十個
丙	九百圓	七十個

此場合丙をして甲の品質に一致せしむること容易ならざるが故に、先づ丙をして乙の品位に進めしめ、更に又甲をして乙の品位に一致せしめなば、乙なる一定の生絲二百十個を製出することを得べし、是に於てか甲者は必らず言はん、合同の爲め自家の製絲を粗惡にし、且價格を損ずと、是れ誤解の甚しきものにして、決して之れが爲め價格を損するものにあらず、即ち合同後の乙は個數の揃へるが爲め第六節に述べたるが如き整理の利益を得て、合同前の甲以上の價格を得る事容易なりとす、去れば甲者は却て價格を益するものにあらずや、又甲者を乙者に一致せしむるは、一見其品質を劣らしむるに似たれども、更に丙者をして乙者の品位に一致せしむるは、取も直さず其品質を良くするものにして、大體より見る時は差引品質上何等の損なく、三者とも齊しく整理上の利益に浴する事を得べきなり、而して已に三者合同の基礎定まりし上、徐ゝ品質の改善を謀るも晩しとせざるのみならず、斯の如くして始めて秩序なる經營といふべきなり。

更に合同より生ずる間接の利益を云へば、合同者は薪炭又は器具及び日用品等を合同購入する事を得て、是れを個々別々に購入するものに比すれば、大に割安なることあるべく、隨て經費を減じ得べし、尙ほ合同者の親密加はるに從ひ、工女誘拐等の弊も矯め得べく、往々原料繭仕入の際に見る所の競爭の如きも、自然に其程度を緩却し得べく、數へ來れば諸種の方面に於て其利益を見るべきが故に、直接の利益と相待ち相應じて、倍々利益を多大ならしむべきなり。

元來合同とは一致の意味にして、一致とは物質的にあらず即ち精神的なり、故に精神一致し意氣投合せるにあらざれば其完成を期し難し、世間合同を企つるものの往々物質的を先にし、精神の一致に重きを置かざるものあり、是れ其本末を誤るものと云ふべきなり、夫れ精神一致すれば遠隔の土地に在るも猶能く合同し得べく、精神の一致を缺けば比隣も合同する能はず、精神の一致を缺ける尤大の合同より寧ろ精神の一致せる小合同の優れるに若かず、而して此精神の一致たるや、當業者各自に於て誠心誠意合同の必要を大悟して其利益を確信し、念茲に凝り始めて些々たる感情や目前の小利を放擲するを得べく、之れを放擲するを得て始て爰に結合の實を擧げ得べし、要するに營利上、利のなき處に一致なく利のある處求めずして一致有るべし、當業者たるもの宜しく合同の利益を親切に研究して可なり。

（未完）

●生絲の整理と技術の研究

大日本製絲會
技師委員　高橋信貞

本邦生絲の品質佳良なるを歐米二洲需要地の稱揚することは當事者の能く知悉せらるゝ所なれども、其品質の佳良なるにも拘はらず、繰製に、東裝に、區々雜駁にして齊一を缺ける物多きが爲、其品質の美を發揚すること能はざるは遺憾の極みなりき。

余輩之が改善整理に就き聊か國家に貢獻するところあらむことを期し、南船北馬茲に廿又餘年、親しく各地の製絲業者に接し、或は改善に、或は經濟に滿腹の卑見を布き、或工女に工男に就業上の要務を談じたるが如き、其數幾百回なるを知らず、此間大に地方製絲家の實況を寒知することを得たり。

余輩の觀察するところに由れば、本邦製絲家に缺くるところのものは所謂無形の資本なり、語を換えて之を言へは技術拙なさなり、經驗乏しきなり、技術拙なく經驗乏しきが爲めに、原料は縱し佳良なるも、之に相當せる生絲を製出すること能はず、市場に於て擯斥せられ、聲價を失して損耗を招き、資本家の信用をも失墜する所以なり。

苟も生絲の整理を望まば技術研鑽を措きて他に何を求むべけんや、技術を研かずして生絲を齊一に整理せんことを欲するは、恰も木に椽て魚を求むるに等し、木に椽りて魚を求むるも魚を得ずといへ其事に害なし、製絲家が技術的研鑽を怠り而して生絲を齊一に整理せんことを望まば、管に其目的を達し得ざるのみならず、勞して効なきの結果損耗頻りに至り、頓覆せざるもの幾んど稀なり寒心せざるべけんや。

世間或は技術的改良の不可なるを說くものあり、是等は製絲工業の大本を忘れたるもの、其說用と体とを混亂し、只枝葉の成果に視線を凝らし、其成果の因て來れる根原を洞察するの明なきものと謂はざる可らず、試みに思へ、技術的改良の五字は讀んで字の如く別段の意義あるべきなし、生絲の纖度を齊一ならしむるも技術的改良なり、生絲の色澤を春夏秋冬渝らざる樣齊一に保たしむるも技術的改良なり、强伸二力を終始一貫適當の範圍に有せしむるにも技術的改良なり、繰上に切斷なからしむるも技術的改良なり、原料の配合若しくは選別に由りて輪類を減少せしむるも技術的改良なり、生絲の結束及び梱造を齊整ならしむるも技術的改良なり、技術的改良の生絲の整理に必要缺くべからざること以上に開陳するところの如し、論者心を潛めて考一考あれ思ひ半に過ぐる者あらむ、然れども世の製絲家中或は技術的改良の應用を過り或は原料の不良なるに不相當の精絲を出さんことを勉め勞多くして効少きの結果損失に終るものあり、漫りに原料の區別を細かにして生絲の出來榮を區々ならしむるものあり、斯の如き類は所謂技術的應用を過りたるものにして、技術的改良其事のあしさにはあらざるなり、誰か技術的改良に不可の二字を加ふるものぞ。

要するに生絲の整理を完からしめむと欲せば先づ以て技術の研鑽に意を留むべし、技術的改良の實例は關西と關東とを問はず、又其品位高下に拘はらず、終始一貫齊一なる生絲を製產する者に於て見ることを得べし、豈に多辯を費すの要あらむや、感あり數言を列ねて以て識者に質す。

●桑葉の甘露に就て

大日本蠶絲會
技師委員　野村產太郎

昨明治三十四年春蠶四眠後二三日を經たる頃、愛知縣愛知郡鳴海町大形山桑園（二畝歩許）に於て八九株の桑葉の上面に點々黃色を帶びたる露滴の如きものを生し、試みに其露滴を舐めしに甘味を有せり、而して其露滴の如きものは數日の後に至て其量前日に倍蓰するに至れりと。

以上の事實は右桑園所有主なる福島永太郎氏か同年八月廿八日西ヶ原農事試驗場病理部參觀旁々上京の際予に其原因を質問せり、予之れに答て曰く是れ恐くは甘露と稱して一種の病害に由て生したるものに外ならずと。

然れとも古來甘露を以て天上より降るものとなし、又之れを以て祥瑞となせり、故に昔時の羅馬人は之れを以て天の汗或は星の涎と呼びしことありしも、文化の進歩に從て今や甘露は天上より降るものにあらずして、全く他の原因に由て生ずるものなることを知るに至れり。

抑も甘露を生ずるには其病原に二種あり、一種は菌類寄生作用に由て生し、他の一種は生理病的作用に由て生するものなり、（別に蚜虫は尾部より一種の甘液を分泌せり、漢名之れを雀餳と呼べり、本草綱目啓蒙卷之三十七竹蟲の條下に詳かなり）

察するに福島永太郎氏所有の桑園に生ぜし甘液の分泌は、菌類若くは蚜虫の作用に由て生ぜしものにあらずして、恐くは單に生理病的作用に由て生ぜしものならん歟。

伊國にては古より桑樹栽培行はれしを以て、夙に桑葉の甘露に就て論述せしもの多し、伊國の所謂る露病(Melato)或は曼那病(Manna)は即ち漢名甘露にして、生理的に由て生ずる一種の樹病に外ならざるなり。

然れども一般に論ずるときは甘露の病理に就ては一定の確說なきものゝ如し、左に掲ぐる者は伊國人ベルソー氏(Pelso)の唱說にして、同氏は千八百八十六年の頃桑樹栽培編(Il gelso e la sua coltivazione)を著して、其編中に桑葉に於ける甘露の病理を發表せり、其說に曰く、夜中清涼なる後に大陽の熱射に逢ふときは、細胞內に生じたる多量の葉液は急に膨脹せんとするも細胞膜に抑制せらるゝが爲めに、其液は露滴狀をなして葉の上面より分泌するなり、此の如く分泌したる液は更に太陽の熱射に由て蒸發するに隨ひ濃厚となり、其一分を葡萄糖に化せしむるものなり、故に右の如く外界の變化に際會するときは樹は其影響に感じて其組織に變狀を來たし易きが故に其樹をして能く養成し、且つ强壯ならしむることに勤めざる可らずと。

以上はベルソー氏の病理說にして、伊國ボルチャチー王國高等農學校教授コラメス氏(Comes)も亦其病理說に贊成せり、又コラメス氏の說に據れば本病に罹る場合には特に深耕して土壤を風氣に暴露することを奬勵せり、又伊國諸學者の說に徵するに桑葉の甘露を分泌するは、五月の頃雨降續きたる後晴日の顯出する時に多しと。

今春獨逸發兌のフロラ(Flora)なる植物雜誌に於てハウプト氏(Hugo Haupt)は花外蜜槽の分泌なる論題の下に、蜜槽の分泌は大に外界の狀態に關係あることを觀察し、併せて其生理的作用を研究し以て其結果を公にせり、然れども同氏の論ずる蜜槽の分泌は甘露の如く病的作用に由て生ずるものにあらずと雖も、之れを生ずる外界の狀態に至ては彼我の間に更に差異なきものゝ如し、而して大野理學士は去る四月三十日東京帝國大學構內會議所に於て、植物新著講讀例會の席上ハウプト氏の前論題に就て紹介せられたり、其大要左の如し。

蜜槽分泌の多少は植物發育時期と密接の關係あり、多くの場合に在ては葉の開綻期、開花の直前、或は開花の當時にして、殊に五月七月の交に其分泌多しと、其他溫度、濕度、光線等孰れも其分泌に關係を有するものにして、就中濕度は最も著しき關係あり、即ち其分泌は乾燥せる時には比較的稀にして、濕氣多き時に著し、故に雨後は分泌盛にして早朝晴日の出る時は日中に比して其分泌の盛なるを見ると、而して光線は或種の植物に在ては其分泌を誘發するに必要なるも、他種のものに在ては光線は只だ間接の影響を有するものなり、隨て暗所にては同化作用起らざるが故に、植物は營養碳素を賸し延いて其分泌も衰ふるものゝ如しと。

以上の事實に徵するに其分泌の多少は、甘露の場合と全く同一の狀態に在るものゝ如し。

又ハウプト氏は蜜槽分泌の生理的作用を論ぜり、其說に據れば花外蜜槽の分泌を生ずるは、最初細胞內部の膨脹の結果として交流壓を生ずべき物質、例之ば砂糖の如きを蜜槽外に壓出するに在り、而して其壓出したる物質は交流作用の結果細胞內部の水液を吸收し、外面に滴狀をなして蜜を形成する也、故に最初は內部より水液の壓出せらるゝこと必要にして、一旦壓出せられたる以上は其分泌は機械的作用に由て起るものなりと。

而してハウプト氏は菌類寄生作用に由て生ずる甘露及び蚜虫の分泌する雀餳に就て論述せしも、獨り病的作用に由て生ずる甘露に就ては漏らせしを以て、果してベルソー氏の所謂る桑樹甘露病原說は其當を得たる者なるや否やは判定し難しと雖もベルソー氏の說をして其當を得たりとせば、果竟桑葉の甘露を分泌するものは一種の病態に過ぎずして、其葉の上面表皮細胞膜の抵抗力の乏しきことを推察し得べし、何となれば健全なる桑葉に在ては其上面の表皮細胞

腹は強固にして、前記の如き、狀態に接るすれに抵抗するの構造を有すればなり。

之れを要するに蜜槽の分泌と甘露の分泌とは、同一の作用に由て生ずるものにあらずとするも、其分泌を促す外界の狀態には差異なきものゝ如し、今之を福島氏が自己の桑園に於て甘露を發見したる當時に徴するに、春蠶四眠後二三日の頃なりと云へば、五月中旬の頃なるべし、既に理學士白井光太郎氏は植物學雜誌第三卷第三十四號に於て、甘露の題名の下に歴史を引用して甘露の氣候に關係あることを論述せり、今茲に同氏が引用せし考證を轉載すれば左の如し。

續日本紀第四曰

元明天皇和銅元年五月庚辛長門國言＝甘露降＝

同　第六曰

靈龜元年五月壬辰伯耆國言＝甘露降＝

文德實錄第一曰

嘉祥三年五月戊戌石見國言＝甘露降＝

嘉祥三年七月石見國獻＝甘露＝味如＝飴餳＝

同　第四曰

仁壽二年五月癸巳大和國言＝紫雲見＝是日甘露降＝於京師樹上及大和越前加賀但馬因幡伯耆隱岐播磨長門等九國並言＝甘露降＝

同　第七曰

齋衡二年秋七月丁未朔紀伊守從五位下紀朝臣真高獻＝甘露＝

同　第八曰

齋衡三年夏四月庚辰駿河國言＝甘露降＝

以上列記したる紀錄に徴するも五月七月の交特に五月は甘露を生じ易き氣候なるが如し、時恰も其時候に際會すれば、人能く之れに注意せば豈に獨り甘露を生ずること福島氏の桑園にのみ限らんや。

雜錄（Essais et faits divers）（Miscellaneous）

風穴調査

蠶業家の經濟として横に彫眠せしむること、即ち年一回の大養蠶をなすの不得策にして縱に彫眠せしむること、即ち年數回の小養蠶（住家、人手、所持の桑園に相應する）をなすの有利なることは、既に識者の認する所なり、而して夏秋の飼養蠶をなすに欲さ、必要條件は健全なる蠶種を求むるにあり、夏秋蠶種を製造するの法々ありと雖も、多くは風穴の力を借らざるべからず、此に於て乎茲に風穴の調査を試驗し、當業者の參考に資せんとす、風穴の所持者及び管理者諸君は左の例により通報あらんことを希望す、一位置、二經歴、三管理者或は所持者の姓名（會社組織なれば會社名）四貯藏し得べき蠶種枚數、五風穴内貯藏期中の溫濕度、六蠶種貯藏料、

四、山梨縣富士風穴

一位置　富士山に風穴の今日まで發見されたるもの六個を數ふ即ち精進風穴、鳴澤風穴、長尾風穴、小御嶽風穴、龍宮風穴、十里木風穴是れなり、此のうち五個は富士山の絶頂より之を見れば西北にあり他の一個は東南に當る而して其最も廣く實用に適するものは精進風穴なりとす精進風穴の所在は山梨縣西八代郡上九一色村字精進に屬し此を青木ヶ原と稱し海拔三千五百三十三尺あり

二經歴　明治十九年夏　御巡幸の際天然氷を献納せんが爲に搜索の結果之を發見し爾來數年間氷を採收するの場所となれり明治二十五年に至り蠶種の貯藏を試むるものあり常に好績を呈せしを以て三十三年に至り八田達也氏之を引受け諸般の改良擴張を圖り汎く公衆の蠶種貯藏委托に應するたゝし富士風穴合資會社なるものを組織したり

三管理者　山梨縣東八代郡石和村富士風穴合資會社

四貯藏し得へき蠶種數　現在の貯藏庫二棟にて凡そ十萬枚を貯藏し得へし

五風穴内貯藏期中の溫濕度　嚴寒の候華氏十八九度にして大暑の候三十七八度を越ゆることなし明治三十三年八月二十二日本多農學士一行數名探究せるときは松明等を携帶せるにも拘らす風穴内は三

十四度を示し濕度は九十一度を現はせりと云ふ蓋し此時濕度の高かりしは驟雨襲到せるに因るもの少きにあらざるへしと

六蠶種貯藏料　左記規程の如し

第一條　當會社ニ於テ委托ヲ受ケ貯藏スル春秋蠶種ノ貯藏料ハ左ノ如シ

一百　枚　未滿　一枚ニ付　金五錢
一百枚以上五百枚未滿　同　上　金四錢
一五百枚以上千枚未滿　同　上　金參錢
一千　枚　以　上　同　上　金貳錢

第貳條　當會社備付貯藏箱ノ使用ヲ望マルヽトキハ貸與ス

第參條　前條貯藏箱ノ使用料ハ蠶種壹枚ニ付金壹錢トス

第四條　蠶種ハ木鄰四八代鄰上九一色村字精進當會社出張所ニ於テ取扱フ

第五條　蠶種ノ貯藏ト出穴ノ時期ハ委托主ノ隨意タリト雖モ出穴期日ハ更ニ報告セラルヘシ

第六條　貯藏料及ヒ貯藏箱使用料ハ貯藏委托ノ際拂込マルヘシ若シ郵送ヲ望マルヽトキハ其返送料モ亦同時ニ拂込マルヘシ

第七條　委托貯藏蠶種ハ當會社ニ於テ當ノ保護ヲ爲スヘシト雖モ不可抗力ニ因ル災害ハ當會社其責ニ任セス

●東京蠶業講習所沿革（承前）

第五期　蠶業講習所

自明治二十九年四月
至同　三十二年三月

○明治二十九年　蠶業試驗場は上記の如く去十七年蠶病試驗場として創立されたる以來常に斯業の發達と變遷とに鑑み幾度か其組織設備の改善を行ひ以て進運の利專に勉めたりと雖も當時蠶絲業進歩の狀勢頗る急なるものあり其規模未だ時勢の要求に應するに足らす從て試驗幷に傳習事業擴進の必要は漸く朝野人士の認識する所となれり本所は夙に茲に觀るあり豫て擴張の方法に就き計畫する所ありしか是より先き第八帝國議會の衆議院も亦其所見を一にし蠶業講習所設置の建議を爲すあり此年三月遂に蠶業講習所官制の發布を見るに至れり茲に於てか舊來の試驗場は廢止され其經營に係る諸般の業務は擧けて蠶業講習所の所管に屬することゝなれり

而して本所に於て掌るへき業務を左の如くに規定されたり

一、蠶業に關する傳習
二、蠶業に關する試驗
三、巡回講話
四、蠶種配付
五、質問應答

一、蠶業に關する傳習　從來蠶業試驗場に於けるものと全く其組織程度を更正し傳習生を本科及別科の二種となし本科に在りては大に其講習程度を高め且新に數個の科目を增加し修業年限を二ヶ年となせり別科に在りては專ら養蠶の實地及之と直接の關係ある學科を授くることゝし其修業期間を五ヶ月となせり即ち本年十月本科生五十名を募集し改正規則に基き授業を開始せり而して去二十八年舊蠶業試驗場に於て募集せる生徒は之を本所に收容して學修せしむ其員數最初入學を許せるもの六十七名中定規の試問を經て修業證書を授與せるもの六十一名なり

二、蠶業に關する試驗　其方針事項等に於ては前試驗場に於けるものと大差なしと雖も斯業の進運と設備の擴張とに伴ふて愈廣汎精密を加ふるに至れり

三、巡回講話　本所に於て必要ありと認めたる場合地方官廳若くは當業者の請求あるときは本所技術官を派遣して蠶業上の講話又は講習をなさしむ蓋し此事は從前より既に行ひ來りたるものにして敢て今回の創始にあらされとも官制發布に付き特に明規されたるものなり

四、蠶種配付　前記の如く去明治十九以來年々實施せる所なり而して其希望者の數年と共に增加し到底請求の一半をも充たすに足らす且相當の規定を設けて整理するの必要を生したるに依り本年五月蠶種配付規則を設けて出願者の資格其他の手續を規定せり

五、質問應答　當業者にして蠶絲業上に關して疑義あるときは自由に質問するの便を得せしめ本所專門の技術官をして詳細の調査を爲さしめ以て其解答を與ふ此事亦從前より既に實施せる所なり

試驗傳習其他の事蹟は前報告の號を次きて蠶學報告第十三號となし刊行せり

又桑樹萎縮病は遐年蔓延の兆あるか故に其原因幷に豫防法に付ては豫て研究する所ありしか其被害益甚たしく侵害の區域亦愈増大する勢を呈せるを以て本年は該病々理に關する實地的試驗を行ひ其成蹟幷に各府縣調査報告（本省農務局に於て協定せる調査事項に基き各府縣に於て調査せるもの）の概要を收約編纂して桑樹萎縮病調査報告第一號として刊行せり

○明治三十年　本年經營事業の概要は總て前年に同し而して昨年十月入學を許せる第一回本科生五十名に對し本年九月規定の試驗を行ひ第二年級に進めたるもの四十四名あり本年更に募集せる第二回本科生五十名は十月一日より入所授業を開始し第一回別科生は三月一日授業開始七月三十日卒業せしめたり其員數は最初入學を許せるもの六十名にして同卒業試驗に及第し證書を授與せるもの五十四名なり

又本年四月研究科規程なるものを設け本所卒業生及舊蠶業試驗場卒業生にして既修の學理若くは實地に就き更に深く研究せんとする者の爲めに其逸を開きたり乃ち本規程に基き研究科入學を出願せる者十名内許可せるもの五名あり

試驗傳習の成蹟は蠶事報告第十四號に詳かなり

又桑樹萎縮病の原因豫防等に就ては本所開設以來專ら所員をして調査せしめたりしか本年七月農商務省は更に桑樹萎縮病調査委員を設け之か調査に從事せしむることゝせり而して委員に於て施行せる調査事蹟は桑樹萎縮病調査報告第二號として刊行せり又今秋北豐島郡巢鴨町大字庚申塚に於て二町三段一畝一歩の地所を借入れ試驗地に充てたり

○明治三十一年　事業の概要は總て前年の經營に異ならすと雖も本年度より新たに機械製絲場を設け其試驗及傳習を施行し且職員設備等稍整ひ試驗調査事項亦從て多きを加へたり

蠶業の傳習は昨三十年九月第二年級に進めたる本科第一回傳習生四十四名に對し本年八月規定の試驗を行ひ卒業せしめたるもの四十二名本科第二回傳習生は昨年十月入學せるもの五十名前級落第者三名合計五十三名にして中第二年級に進める者四十四名なり同第三回の傳習生は本年度入學者五十名前級落第者四名合計五十四名にして十月一日より授業を開始せり

第二回別科生は入學者六十名中成規の試驗に及第し卒業證書を授與せるもの五十三名なり

又本年度に於て研究科入學を出願せるもの十八名にして內許可せるものは十二名なり

試驗及傳習の成蹟は蠶事報告第十五號に詳かなり

又桑樹萎縮病調査委員の研究事蹟は別に編して前報告の號を次き桑樹萎縮病調査報告第三號として刊行せること前年に同し

第六期　東京蠶業講習所

自明治三十二年四月

○明治三十二年　此年三月勅令第八十九號を以て蠶業講習所官制を改正せられ新たに京都蠶業講習所の設立あり本所は從ふて東京蠶業講習所と改稱せらるゝに至れり而して其組織及事業は總て前年に異なることなし但桑樹萎縮病の調査は前記の如く從來本所に於て委員を設け之を施行したりしか本年四月より之を本省農務局に移して繼續施行することゝなれり

傳習は昨三十一年九月第二年級に進める本科第二回傳習生四十四名及ひ前級落第者一名合計四十五名に對し本年七月定規の試驗を行ひ及第者四十二名を卒業せしめ同第三回の傳習生五十四名中本年八月定規の試驗を經て第二年級に進める者四十六名なり同第四回の傳習生は改正規則に依り募集したる者二十五名に前級落第者四名を加へ十月一日より授業を開始せり第三回別科生は最初入學を許可せるもの六十名中卒業證書を授與せるもの五十一名なり

又本年度に於て研究科入學を出願せるもの三十三名にして內入學を許可せるもの十五名なり

試驗及傳習の成蹟は蠶事報告第十六號に詳かなり

○明治三十三年　試驗調査等の事業は概要前年に異ならす

傳習は昨三十二年八月第二年級に進める本科第三回傳習生四十六名及前級落第者一名合計四十七名中本年八月定規の試驗を經て卒業せるもの四十六名なり同第四回傳習生二十九名中本年八月學年試

驗を經て第二年級に進みたる者二十二名なり同第五回傳習生は新たに入學せる者二十五名前級落第者二名合計二十七名にして十月一日より授業を開始せり

第四回別科生は入學を許可せるもの四十六名卒業證書を授與せるもの三十九名なり

又本年度研究科入學を出願せるもの十三名にして內許可せるもの八名なり

昨秋府下南足立郡江北村大字沼田字川端耕地の內八千七百五十六坪六合五夕の土地を購買し本春貳町三反二十九歩の桑園を拓きたり

試驗及傳習の成蹟は蠶事報告第十七號に詳かなり

○明治三十四年　試驗調査等の概要は前年に同し

傳習は昨三十三年八月第二年級に進める本科第四回傳習生二十二名中本年八月定期の試問を經て卒業せる者二十一名なり同第五回傳習生二十八名中本年八月の學年試驗に及第し第二年級に進めるもの二十一名なり同第六回の傳習生は本年十月新たに入學せるもの二十五名及前級落第者二名合計二十七名なり

第五回別科生は入學を許せるもの四十六名にして定規の試問を經て卒業證書を授與せるもの四十三名なり

本年九月五日より同二十五日に至る三週間蠶病消毒講習會を開き本所々管の各府縣より講習生四十名を募集し消毒に關する學理及實地の講習を行ひたり

蓋し蠶病消毒の必要漸く當業者に認知せられ之を行ふもの尠なからすと雖も消毒藥品の性質器械の使用若くは蠶室蠶具の整理法等を詳にせさる者多くして或は全く徒勞無効に歸するもの尠なからさるを認めたるを以てなり即ち將來此等指導奬勵の任に當る者を養成するの目的を以て本所卒業生若くは之と同等以上の學力を有する府縣該當官吏其他に就き各府縣知事の撰拔を求めて該法一般の講習をなせり

●統計（Statistique）（Statistics）

●三十五年三月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表（大日本外國貿易月表に據る）

種目	三十五年三月分 數量	三十五年三月分 價額	三十四年三月分 數量	三十四年三月分 價額	三十五年一月以降累計 數量	三十五年一月以降累計 價額	三十四年同上 數量	三十四年同上 價額
輸出								
生絲	三九〇、八三斤	三、六四〇、〇六二円	七二、三六四斤	七六、八〇〇、六九円	一、六三四、六一七斤	四四、七四八、〇六〇円	一、〇九六、六一五斤	二六、八一八、九九二円
機械製（一十五デニール以下）細絲	三〇、一四六斤	四四、九六四、九七円	一、八四〇斤	一、八四〇、〇〇〇円	四九、九七〇、〇〇〇斤	一、四〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇斤	一、〇〇〇、〇〇〇円
同太絲（一十五デニール以上）	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円
其他	一、四四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円
輸入								
撰糸絲	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円
縮緬	七段	一、〇〇〇、〇〇〇円	四段	五四〇、〇〇〇円	一、三四六、六三四、一六段	一、四四六、三三六、〇〇〇円	一、三四六、六三四、一六段	一、四四六、三三六、〇〇〇円
羽二重	一、六六八、〇〇〇斤	三、〇四〇、六三六、〇〇〇円	八六、八六〇斤	一、二四六、三三六、〇〇〇円	八六、八六〇斤	一、二四六、三三六、〇〇〇円	八六、八六〇斤	一、二四六、三三六、〇〇〇円
平織	一、四〇六、九六六斤	三、〇四〇、六三六、〇〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、三四〇、九二一斤	三、六六六、九二六、〇〇〇円
紋織及綾織	八六三	一、九六六、九六六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円
甲斐絹	六六、一六六疋	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円	三、三五三、三六六斤	三、〇四六、八三七、八〇〇円
他の諸絹布（綿入とも）	四四、九六六疋	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	一、八九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円
絹製手巾	三、三五三、八四〇、九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、八四〇、九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、八四〇、九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円	三、三五三、八四〇、九六	三、六六六、九二六、〇〇〇円
刺繍絹布	一、一〇〇、八二打	六、三六六、九二六、〇〇〇円	—	—	—	—	—	—

（參照）三十五年輸出入品價額連月比較表

月次	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 増	減
一月	三〇〇、六七三、三一圓	一八、三〇三、六四五、三一圓	三八、三七二、二九一、四二圓	一、六六七、二四三、八五圓	
二月	二、六四〇、〇〇三、二五圓	四四〇、〇六〇、〇八圓	三、〇八〇、〇六三、三三圓		一、六九六、三六六、九四圓

	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 増	減
其他諸組製品 計	—	一、〇六、九〇〇斤	一八、〇六、九〇〇斤	—	四、三三、七三三、六六〇斤
輸入					
蘭生絲	—	八、一七、六〇四斤	八、一七、六〇四斤	—	四、三三、七三三、六六〇斤
柞蠶絲	三、三九、八一斤	一七、〇四一斤	三、五六、八二斤	三、三二、七六〇斤	
絹織絲	—	四、三三、七一四斤	四、三三、七一四斤	一、四〇四、三一斤	
縮緬	—	三、三一斤	三、三一斤	三、三一斤	
絹紬	一、八、九八六疋	六、三、七、四四疋	七、九、七、四四疋	四、七、七、四四疋	
絹紬子	一、一、三四一斤	三、一六、八六六斤	三、一六、八六六斤	三、一六、八六六斤	
絹紬子	七、一、三六一斤	七、四、七、〇八斤	七、四、七、〇八斤	三、三、七、七一斤	
絹紬天鵞絨	一、九、七〇九斤	三、三、七、九一一斤	五、三、七、九一一斤	一、三、七、一一一斤	
其他諸絹布	六、三、七斤	四、三、三、七四斤	四、三、三、七四斤	三、三、六、六六斤	
其他諸絹製品 計	—	—	—	—	—
蘭	—	一、四八、七一四〇	一、四八、七一四〇	—	一、四八、七一四〇
生絲	—	三、三一、三、九四	三、三一、三、九四	三、三一、三、九四	
柞蠶絲	三、〇〇、〇〇	九、七、〇〇	九、七、〇〇	九、七、〇〇	
絹織絲	—	三、三、七、三、八一	三、三、七、三、八一	三、三、七、三、八一	
縮緬	—	三、七、一四〇	三、七、一四〇	三、七、一四〇	
絹紬	一、〇、〇三	一、〇、〇三	二、〇、〇六	一、〇、〇三	
絹紬子	一、〇、〇三	三、三、七、九一	三、三、七、九一	三、三、七、九一	
絹紬子	三、三、七、九一	三、三、七、九一	六、三、七、九一	三、三、七、九一	
絹紬天鵞絨	一、四四、一六、七一	一、四四、一六、七一	二、四四、一六、七一	一、四四、一六、七一	
其他諸絹布	六、三、七、九一	六、三、七、九一	一、三、七、九一	三、三、七、九一	
其他諸絹製品 計	—	—	—	—	—
其他諸組製品 計	—	一、四三、七三、六六〇斤	一、四三、七三、六六〇斤	一、四三、七三、六六〇斤	

	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 増	減
三月	—	—	—	—	—
通計	一、七一、二四六、八六七、一三五	三、三六〇、三六六、四四六	五、六六、六四四、二四六、五	一、三六、四六六、六六〇、七二五	

備考　昨三十四年三月中は輸出一千九百八十五万二千九百五十八圓七十六錢、輸入二千五百三十二万二千二百六十九圓七十四錢にして輸入超過五百四十六万九千三百十圓九十八錢なり

◉問答（Questions et reponses）（Question Box）

●桑葉心止りの件に就き質問

三重縣鈴鹿郡加太村　大日本蠶絲會員　林　喜惣太

春季桑葉を刈取り向ふ凡そ四十日間を經て桑梢の心少しく曲り心止りをなし又再ひ其側より新芽を生して伸長す右は如何なる理由に依て然るか御明教を乞ふ

答　大日本蠶絲會　農學士　技師委員　理學士　堀　正太郎

質問の心止りなるものは現品なきを以て判然し難きも桑樹の新梢か往々一種の細菌の寄生を受け其部の腐蝕して少しく彎曲し其下部より新芽を生することあり質問の心止は果して右病害なるや否やは判然し難し宜しく明年發病の際標本を送付ありたし

●桑葉の件に就き質問

千葉縣印旛郡豊住村　大日本蠶絲會員　出山七郎

（一）河沼に生ずる藻草を桑樹の肥料に施すの可否及ひ該肥料を施したる桑葉を以て蠶兒を飼育するの難易並に繭質に及ぼす關係は如何

（二）夏秋蠶飼育中非常に乾燥したる際には濡桑を給與するを可なりと聞く然れとも朝霧の乾かさる際に摘取りたるものと朝霧の乾きたる後摘取りたるものに井水を噴掛けたるものと蠶兒の營養上何れか可なるや又濡桑を給與するの利害得失をも併せて御明教を乞ふ

答　大日本蠶絲會　技師委員　農學士　宮原忠正

(一)河沼に生ずる藻草を桑樹の肥料に供するも差支なし從て其桑葉を以て蠶兒を飼育するも害なく又特に飼育上難易の差なく又繭質に關係なし

(二)非常に乾燥する際臨機の處置として濡桑を給與することあれとも能く除沙に注意せされは危險を免れす又朝露の乾かさる際に摘取りて與ふるは乾きたる後摘取りたるものに井水を噴掛けて與ふるに比し害多かるへし蓋し春蠶に於ても終始濡桑を以て飼育するも飼育上の注意充分に行はるれは害なきを得れとも萬一清潔法等の注意足らすして病的寄生物の繁殖を誘ふ如きことあらは失敗に陥るへし要するに濡桑給與は夏秋蠶等の飼育上非常の乾燥に際して臨機に執るへき手段にして此際と雖も殊に除沙を怠らさること肝要なり

●夏蠶原種飼育法に就き質問

愛知縣中島郡小信中島村　大日本蠶絲會員　大津憲史

當地方の某夏蠶種製造者の一化飼育法を見るに五齡盛食期の蠶を方言丸座と云ふ蠶座一枚(尺坪五坪半位)に七百五十頭以上を入れて飼育するの慣習あり是れ餘り飽食すれは繭繭出來過き夏蠶に良好の繭を取め難しと云ふにあり依て其夏蠶種を飼育したるに果して虚弱にして斃蠶するもの多かりし然れとも殘餘の七八分は頗る見事なる成繭を得たり右は如何なる理由なるや御教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技師委員　田島棟平

二化蠶の一化の際其發生遲れたるものに多量の給桑を爲し薄飼になすときは一化に變し易きものなり故に薄飼に失せすして常に給桑に剩餘を生せさる注意を要す但し發生の非常に早きもの又は生夏と稱する絲量に乏しき類は此の限りにあらず

●病蠶の件に就き質問

三重縣飯南郡伊勢寺村　大日本蠶絲會員　丸山定右衛門

(一)蠶兒掃立より四齡まては異狀なく成育佳良從て病蠶なく然るに第四眠に至り就眠すること能はす蠶座の中を匍匐し遂に膿蠶となり斃る右は如何なる理に因るや而して此等は稚蠶の際より病原あらさるも第四齡中に蠶兒生理を害せしによるや詳細なる御說明あらんことを乞ふ

(二)膿蠶の病原は主として空氣の欠乏、桑量の不適多濕の食桑、溫度の劇變、蠶座の濕潤に因りて呼吸作用を害せるに起ると尙他に重なる素因或は誘因あるや且濕地の蠶室にて室内の大氣乾燥せさるときは以上の注意あるも豫防するは難きものなるや

答　大日本蠶絲會技師委員　理學博士　佐々木忠次郎

(一)蠶兒は第四齡まては健全なるも第四眠期に至り就眠すること能はすして蠶座の上を匍匐し遂に膿蠶となるものは左の原因に依るものならんと信す

第一、四眠期に際し蠶蛆の寄生を受けたるもの

第二、微粒子病に罹りたるもの

第三、軟化病に罹りたるもの

第四、呼吸作用を妨碍せられたるもの

(二)膿蠶は重に空氣の缺乏、桑量の不適等より發生するものにして微粒子病其他軟化病に罹りたるものは自然其呼吸作用を敏活ならしめさるに依り往々膿蠶となるものなり又蠶座の濕潤なる時は食慾減するか故に多く蒸桑を生し爲めに呼吸作用を妨け膿蠶を生することあれは屢々除沙し濕潤の蒸桑上にて蠶兒を飼育すことを爲さされは膿蠶を生することなし

●白疆蠶に就き質問

長野縣東筑摩郡本郷村　大日本蠶絲會員　林茂

余か隣家にして年々白疆蠶の爲め逆蠶する者あり此家の蠶兒は毎年五齡二三日頃まては非常に健全に發育するも上簇の頃に至り皆白疆蠶となる何故なるや又白疆蠶となる蠶兒は健全なる蠶兒に比して食慾盛に體驅健全の樣なるは如何なる理由なるや御明教を乞ふ

答　大日本蠶絲會技師委員　農學士　林驛作

白疆蠶は一種の害菌か蠶体に寄生するにより生ず此病菌の胞子は蠶室蠶具等に附着して殘存するを以て毎年此病を發するなり白疆蠶は稚蠶にも生ずることあれとも特に五齡蠶に多しとす之れ重に溫度及濕氣の關係による而して此病に罹りし蠶兒は漸々食慾を減し衰弱す健蠶に比して食慾盛なることなし

此病は恐るへき傳染病なれは病蠶は可成其初期に於て鑑別し一々之を驅除し且除沙を行ひ以て其蔓延を防せくへし又此病を生せし蠶室、蠶具は消毒法を行ひ以て此病原菌の胞子の殘存するものを殺滅するを

要す

●製絲及撚絲の件に就き質問

岩手縣下閉伊郡山田村
大日本蠶絲會員　信夫源一

(一)本邦に撚絲工場及製作場の名稱及代價を問ふ
(二)右ありとせは工場及同器械製作場ありや
(三)製絲と撚絲と同時に製造する器械ありや
(四)右ありとせは專賣特許品なりや然りとせは其特許番號及ひ發明者の住所姓名を問ふ
(五)歐米にて撚絲は一本なりや或は二本以上を合せ撚絲とせしものを機織するや
(六)歐米にては經緯絲により撚の掛け方に差ありや
(七)海外需要國により撚の掛け方に差ありや若しありとせは如何なる差なりや
(八)歐米にては生絲と撚絲と百斤の賣買價格何程の差ありや

答

大日本蠶絲會
技師委員　今西直次郎

(一)本邦撚絲工場及同器械製作場は左の如し
(二)主なる工場は京都に日本撚絲會社、再整撚絲會社、雲林撚絲會社、京都田中村撚絲場、京都繊物會社撚絲部、京羽商會撚絲部、名古屋に帝國撚絲會社、上州に日本織物會社撚絲部此他各地に小工場あり
製作場の主なるものは京都市松屋町通中立賣上る田淵鐵工場及東京京橋區具足町川口屋三郎兵衛等なり
器械代價は最近の見積書によれは一日諸撚三貫五百目内外を製造するものとし大凡八千圓を要す
(三)製絲と撚絲と同時に製造する器械は霏て伊佛に於て製作したる者あれとも實用に適せさるを以て之を使用する者あるを聞かす尤も佛國に於ては繰絲中多少の撚を掛け綿絲に試用する者あれとも是れ亦未た實用に適せざるものの如し
(四)右は專賣特許を得たるや之を詳かにせす
(五)歐米に於て主に使用する撚絲は二本若くは三本合せを多しとす一本は近年米國に一本經と稱して之を用ゆる者往々之れあり其織度は十七デニール以上を用ゆ
(六)歐米に於て一般經絲は一メートルに付單撚六百復撚四百五十内外、緯絲は生絲二三本合せたるものに一メートルに付き八十乃至百の片撚を掛くるを通例とす
(七)歐米を問はす總て織物の種類に依て撚數の差あり縮緬の如きは三千内外の撚を掛く其他は概して前項の標準に依るへし
(八)歐米にて生絲百斤の相場九百圓とすれは撚絲は凡そ千圓にて賣買するものなり

●絲況 (Marché des Soies) (Row Silk Market)

●横濱市場

四月は和風徐に吹て桑芽を綻はし、桑園一望新綠滴たるか如きの裡、一葉二葉桑を摘採しつゝ俚謠を唱ふるの聲は、正に是れ村娘の靈兒か發生せるを報せるものにして、蠶家是より忙一層を加ふるなり、此時に於ける横濱市場の景況を觀望すれは、初旬に於ては商況格別活潑ならす、價格も昂進の狀なかりしと雖も、中旬に至りては多少新規の注文達したるを以て相應に賣行けり、然れとも是れ瞬間の光景にして再ひ市場は沈靜に歸す、此沈靜の市場を繼續したる下旬は中頃に於て幾多の買聲を耳にせるも、在荷減少し適當品欠乏を告けたるを以て、市場の活況を晃せさるは止むを得さるものあり、然り而して客月よりの持越荷數は五千九百七十八個にして、入荷は六千二百二十個半、之を合算すれは一萬二千百九十八個半となる、此内賣了せるもの八千百二十二個、地方に積戻したるもの一千二百十四個にして、之を合計すれは九千三百三十六個となる、而して翌月分に繰越として廻れるものは二千八百六十二個半に過きす、更に客年本月に於ける狀況如何を顧れは、入荷は八千七百十五個にして、積戻は一千三個、賣了せるもの一萬四千四百二十四個なるを以て、昨年と比較すれは本年は入荷に於て二千四十個を減し、積戻は二百十一個を增したれとも、賣了に於ては實に六千三百〇二個を減したり、是れ客年春期は一昨年生絲貿易の不況を承て之を挽回するの策を講し、價

格の如何に係らず專ら賣售することに努めたるを以て而も多數なりし春挽絲荷は頻々として痕を藏めり本年は客年生絲貿易順調の後繼をなせるを以て春期繰絲寡く、殊に適當品に缺乏を告けるにより販賣も亦尠かりし、本年價格の最高は武州埼玉製絲會社の器械太一千圓にして、最低は磐城二盛社座繰八百四十圓なり、然るに昨年の最高は伊豫白瀧製絲八百九十五圓、最低は岩代共同三頭馬六百九十圓なりしを以て高價に於て百〇五圓低價に於て百五十圓の差隔を現はせり、斯の如く生絲貿易は去歳より好調を維持し前途亦有望なれとも、天候蠶界に災し寒暄序を失し、乾濕宜しきを失ひ、乍にして雨、乍にして霜蠶兒を飢餓に陷らしむ、悲慘の極なりと云ふへし、伊佛の蠶況は未た詳ならすと雖も、清國は氣候不順逆蠶者相踵けりと云へは、本年の災害は特り本邦のみに止まらさるへし、今左に生絲集散月別表を掲けて參考となさん。

明治三十五年自四月一日至同三十日生絲集散種別表

種別	持越	入荷	賣了	地方積戻	繰越
器械	四、〇四八	五、六四九	六、九八二	一、一九七	一、五一八
座繰	九一一	三八六	五一二	七	七七八
屑糸	八一八	一四四	六二八	—	三三四
雑糸	二〇一	四一	—	一〇	二三一
合計	五、九七八	六、二一〇	八、一二二	一、二一四	二、八六二

備考

一、表中單位個は九貫匁を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すへきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せさるは商議中のものか賣了せしに依る

四、繰越以外に商議中のものありと知るべし

五、賣了中來國に輸出せるものは二千六百二十一俵にして歐洲に輸出せるものは二千四百二十八袋にして合計五千〇四十九俵なりとす

但し一袋は十六貫なりとす

明治三十五年自一日至三十日生絲集散日別表

○器械細　×座　繰
□同　太　＋折返し
△同　中

尚左に生絲集散日別表を示すへし

日次	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地積戻	國名	製産者	種別	最高價	最低價
一日	三五五個	一八六半個	三二三個	四四個	—	三二半個	日向	高橋	□	九七	九五
二日	一四六	一八六	三二四半	一二半	—	四三	常陸	山崎	×	九七	九五
三日	—	—	—	—	—	—	武州	勝製絲	○	九七	九五
四日	七二	四六六半	三七二半	七七	—	八半	上水	日製絲	□	九七	九五
五日	四四二	—	三二一半	一〇三一	—	四六半	岩代	尾製絲	□	九七	九五
六日	—	一九一半	一八一半	—	—	—	信濃	日製絲	□	九七	九五
七日	一一五半	三七七	三七六	二七	四三	一	河内	正製絲	□	九七	九五
八日	三一一	三一〇	三六六	三一	—	盛	伊豫	盛製絲	□	九七	九五
九日	二六六	三六六	七一九半	三七	九	鹵	岩代	木社製	□	九七	九五
十日	一八五	八八	一八四半	六半	九	七半	磐城	佑製絲	□	九七	九五
十一日	二六八	一一〇	二一二	一九	四四	六	伯耆	二人社	□	九七	九五
十二日	一七三	二四三	二四一半	九三半	—	三二	岩代	人製絲	□	九七	九五
計	一、七四二	一、二三三	二、四一半	一、〇四半	一、〇四半	一、〇四半	下總	金製絲	□	九七	九五
							三代	社製絲	□	九七	九五
							出羽	利根川製絲	□	九七	九五
							奥州	津製絲	□	九七	九五
							東京	立佑製絲	□	九七	九五
							交詢	水社製絲	□	九七	九五
							伊豫	立一製絲	□	九七	九五
							上總	立製絲	□	九七	九五
							館羽	立田製絲	□	九七	九五
							三河	寵製絲	□	九七	九五
							協議	一人社製絲	□	九七	九五
							天竺	立田製絲	□	九七	九五
							協議	一人社製絲	□	九七	九五

氣配は別段變りなく弗々實行ありし相場同樣變りなく一般に氣乘り居らさる風情なりし

大祭日

折合ふもい中には一寸高直あれとも進れて買ふ向も見えず概して保合の狀景なり

新注文逢したるにや弗々商ひ出來ぜり

日曜日

當用日へ折合交直に出來す

氣配は前日機て變りなし

保合の狀況なりしも弗々取組あり

前日程の氣乘なりしも

染たる商議なく稍靜穩の狀況なりし

前日同樣の樂にて午前中は盛商ひに過きさりし

弗々商ひ出來せしも一般に氣乘なく捗々しからさる成行なりし

十三日		—	—	—	—	—
十四日	二〇〇	九三二半	二二七	一〇〇半	—	四四〇
十五日	一七六	四三三半	二〇七	一五	二六六	—
十六日	一五五	三二八	一七五	六	—	三〇
十七日	二五五	八二	五〇八	六四	一六六	九六
十八日	三〇八半	二五五	四八一半	三〇	—	三四
十九日	四二〇半	一九七	三二一半	三〇	一、六七一	三〇五半
二十日		—	—	—	—	—
廿一日	四八	一五九	一五四半	一〇	—	二四
廿二日	一七六	三三四	一三三	—	六九二	—
廿三日	二〇三	四九一	二〇八半	三七	—	六九五半
廿四日	一三九	二九八半	一七〇	三五	三三三	五六
廿五日	二六六	六六八	五八五	六〇	—	三二
廿六日	四一七	五四五	二八五	七六	一六一	一二九
廿七日		—	—	—	—	—
廿八日	二五八	五四七	一三一	二	—	六
廿九日	二九五	三〇八	七八半	七二半	—	—
三十日	一八四	二二三	四〇二	五一	一一五	一三
合計	六、三三〇半	八、二四八	八、一一三	一、〇〇〇	五、〇四九	一、三二四

美作	浮田製絲	○	九四五
尾張	犬山社銀	□	九〇〇
信濃	六文錢製絲	□	八五〇
美濃	金華社銀	□	九三〇
伯耆	小川製絲優等	□	九九五
上野	天原社金	×	九一〇
羽前	雨羽製絲	□	八九五
岩代	協立一人組	+	八四〇
伊豆	城北社	○	八八五
信濃	能水館塀天	□	九四〇
武藏	嵜玉製絲獅子	□	一、〇〇〇
上野	礎水社鹿	×	九一〇
羽前	多勢丸太	□	九九五
下總	利根社富士	□	九〇〇
三河	三龍社	○	九四〇
信濃	信光館	□	九二五
甲斐	矢島組	□	八九九
信濃	信正社	□	九三〇
甲斐	草蕋社	□	九〇五
越中	清光社込	○	九二五
羽前	宮內製銀絲	○	九一〇
信濃	東行社	□	九二〇
美濃	大垣製絲	○	九〇〇
上野	甘樂社米金	×	八九〇
信濃	卯國社	□	九五〇
周防	壜屋製絲	□	九二〇
信濃	窪田館	□	九三〇
全	美篩組	□	八六七五
武藏	森澤製絲	○	九四五
岩代	協立二人組	+	八五〇

日曜日

多少の新注連し相應の商ひ出來せるも相場は區々にして氣配は敢て變りなし

引續き當用口へ折合もの取組ありて保合の姿なりし

弗々商ひ出來すれと相場は頗重くして何となく底意弱含みの風情なりし

引續き氣乘薄にて人氣引立たさりし

染みたる商談なく面白からさる狀況なりし

電信待の風情にて引續き染たる買人なく當用口へ折合たるのみなり

日曜日

格別注文遣せざる姿にて引續き面白からさる光景なり

當用口へ弗々商ひ出來せるも相場は漸次下落せり

成行の應買は商ひ出來せるも底意弱き風情なりし

前日同樣引續き面白からさる成行なり

引續き當用口へ弗々取組あるも相場は頭重にて捗々しからさるに似たり

前日同樣敢て變りなし

日曜日

多少新注連し順次商ひ出來したるも氣配は保合の狀況なりし

在荷減少の折柄適當品乏しく相場は敢て變りなし

弗々商ひ出來したるも兎角品薄にて捗々しく手合行はれさりし

明治三十五年生絲集散月別表

月次	持越	入荷	賣了	積戻	繰越	輸出
一月	一九、一七五半	八、三五五半	一四、九三二	一、六三三半	一一、六一二半	五、一七三
二月	一一、六一二半	三、五八三半	八、〇二八半	二、〇六七	五、一〇〇	四、五六五
三月	五、一〇〇半	四、〇三九	四、四九三半	八七四半	五、九七八	三、一三九
四月	五、九七八	六、二二〇半	八、一二二	一、二一四	二、八六二	—
計	—	二二、一九八	三五、五九六	五、七八九	—	一七、九二六

●紐育市場　（三月八日報）

生絲の價格は頗る鞏固にして思惑者流の投機的買占めもなく先づ順調の成行きを呈しつゝあるもの如し、併し乍ら斯る思惑買ひの現出なきと同時に需要も必要口に制限され隨つて過多の商内なく昨今の相場も本國の高報に比し未だ安直の感なきにあらず此處ろ本國手持筋を初め當國賣人等は斷乎て所謂投賣をなすが如きことなかるべきも相場の折合ふ限りは賣退けんこと又た必要なるべし、只夫れが爲め需要地に於ける在荷の堆積を來し延ひて前途の安直を釀すが如きは賣買双方に取りても策の得たるものにあらず、例年市場好況の翌年は必ず不昧不振の商狀を呈するを常とす其の原因素より一にして足らずと雖も主なる原因は好賣行きの反響として需要地に於ける在荷の堆積を促がし延ひて相場の低落を來すと、一方供給者にありては前年の好賣行きより過剩に製産し爰に兩々双方の間に於て著大の堆積を來すによることなれば此點に就ては當業者の充分考慮を要する所なり

●里昂市場　（三月廿九日報）

此處一体に氣迷ひの姿にして需要筋の買人も當用口必要の品より外には取入れざるより市場は自然沈靜に傾けり又機屋の中擬て注文し置きたる生絲を受取り之が爲に日々の需要を補充し居るもあり何分是より養蠶の季節に向ふことゝて賣る人も買ふ人も將來の商機如何を氣遣ひて勇進の氣に乏し

彼の南阿の戰爭も彌々終局に近付きたるものゝ如くにして媾和の談判も開かるゝこと近日にありとの風評なるが果して眞ならんには世界一般の商業社會の爲に一大幸福なり殊に我が生絲及絹業の商賣は右の杜英の葛藤の爲に孰れも恐怖の念を生じ鼓進するの勇氣を失ひたれば此永戰爭の爲に不利を蒙ること尠からすされば若し平和の南阿に現はることあらんには爲に生絲界の爲には一大慶事なるべし

●上海市場　（四月三日報）

本年二月二十三日以降同三月二十一日に至る當地蠶絲の商況を査するに同月初旬の頃に入り市場幾分の好氣配を呈し持人の意氣頗る鋭く金鹿麟四百二十七兩半を唱へ居たるも其割に買人の氣乘薄く同牌四百二十兩を主張し其間價格の折合はさるかため只徒に睨合の姿と爲り同三日まで僅に六百俵の取組を見たるのみなりしが其結果同月

中頃に至り買人の主張案外強固なりしを以て人氣頓に沮喪し來り持人の氣組自然下向の傾向を顯したるか機とし買人は增々强氣を持續したるに因り相場は漸次下落し來り遂に四百十五兩を以て凡そ六百俵の取組を見るに至れり又中旬後二十二日の間に入り外商の買進弗々現出せしにのり一時頓挫の狀況も多少持直し來り又持手の思惑も融和し來りたるを以て商況頓に一變の模樣を呈し相場は四百廿五兩まて上騰し同直段にて七里絲約七千餘俵の取組を見るに至れり其他蒸氣器械絲は二月下旬に於て多數の先物約定あり爾來弗々小口物の取引あるか如く相場は九「アニール」より十一「アニール」の物八百四十兩、十三「アニール」より十五「アニール」の物七百九十兩より八百十兩の間を上下し居れり又聞く所に據れは來季の蒸氣器械絲向新繭一擔に付き百二十兩にて約定ありし由又二月中白黃絲の輸出高を見るに白絲四千九十二俵、黃絲七百五十六俵にして一月中の輸出高白絲七千七百二十二俵、黃絲八百六十六俵に比し各自其高を減少せり

● 外報 (Nouvelles étrangeres) (Foreign News)

●米國政府の蠶業保護

米國南部地方カロリナ州に於て小規模ながら養蠶業の開始せられしは既に久しき以前にあり加ふるに同地方の氣候は頗る養蠶に適し桑樹の如きも同州を通じて青々繁茂しつゝある等旁々同地方には斯業の大發達を爲すべきの事情を具足しつゝあるに拘らず今日まで微々として振興せざるは頗る怪訝に堪へざる次第なるが是れ蓋し同地方に於ける棉花業繁忙の結果人の蠶業を顧みるものなきが爲めなるべしといひ又近く同地に設置せられたる南カロリナ養蠶協會員の唱ふる所に依れば右は畢竟成繭を賣却すべき市場に乏しきが爲めなるべしといへり此の調査果して孰れが是なるべきやは暫らく措き同協會は右の如き所信に基き斯業の發達を促す爲め同地に一大工場を設立し佛國及セレル製の新式製絲器械を据付け製絲業を開始せんとする計畫を立てしに之に對し米國政府より特に一萬弗の獎勵金を下付せられたるを以て取敢へず模範工場として桑園を開墾し養蠶室を建築したる由にて同會員に對しては特に支那桑苗の配布を受け得るの便宜をも與へつゝありといふ又北カロリナ州聯の農務部にては本年態々歐洲より蠶種を取寄せ之を篤志者に分頭することゝなせし由にて技師マツカーター氏は左の如き報告を發せりと云ふ

"伊國蠶種の純良なるものを普及するの目的を以て北カロリナ州聯農務部は特にロンバルヂーに若干の蠶種を注文せり該蠶種は四月十日より同二十日迄の間に到着すべし同州市民、學校又は公共團体にして蠶兒の飼育をなさんと欲する者は其必要なる蠶種を實費を以て分頭すべし但し以前に經驗なき者は何人と雖も初年に於ては十分一オンス以上の飼育を試みざるを可とす蠶種は郵券三十仙を封入して申込む時は何人にも十分一オンスを分與すべし蠶種の十分一オンスよりは蠶兒約四千頭を生じ之を飼育するには生桑葉約二百封度を要すべし桑樹は支那桑を最良とす支那桑は葉形大に濃色暗濃、根の色黃色なり(中略)又養蠶は初年に於ては繭を販賣するを目的とせず專ら第二年の蠶種製造を目的とすべし云々(下略)

而して所謂支那桑なるものは北カロリナ州に於ては至る所に成育し幾何の撿立をなすも毫も給桑に差支ゆるが如きことなしと云ふ尙南カロリナ養蠶協會の意向にては米國養蠶業をなして歐亞の養蠶業

をも凌駕せしむべき目的を以て…て一致斯業の發達を圖らんとす…する五千萬弗の生絲の無稅な…るにより同國に輸入する生絲に…に資すべしとの意見を有す

●露國養蠶の…

露國に於て需要する絹物は今…露國に於ける養蠶は近年著し…ば一ケ年繭四十萬プート（約百…るが其飼育の盛なるはコーカ…ジニケント等の地方なりと去…だ幼稚なるを以て蠶種は專ら…居れるも蠶種製造の事進歩せ…しと云ふ

●佛國勞働時…

佛國に於て男女幼工、女工を傭…を併用する工場に於ける每日…律の規定に照らし本年四月…せられたるが勞働時間の減…を以て該法律規定の實行せ…雜工を喚起し工業界を紊亂…局の調和を告ぐるに至らず（現…工場の如きは休業閉鎖の如…護を目的とする法律規定の實…利益を害し爲めに今回の同盟…の成績は本邦に於ける勞働保…ものならん

○米國の養蠶業

…が漸次發達に向ふは嘗ても記すが如くなるが同國に於て始めて斯業を試みたるは今より凡そ三百八十年前に在り然れども爾後の結果は皆面白からず千八百七十六年百年紀念博覧會を開くに及んで養蠶業は再び世間の問題に登り米國議會は千八百八十四年より千八百九十一年に渉りて鉅費を投じて大仕掛に試驗を行ひ殆ど到る處に養蠶を行ひ得るの見込立つに至れるも惟ゝ前途の障碍たるは勞力問題なり養蠶は總て勞銀低廉なる處に行はるゝを以て米國の高勞銀を以て之を競爭せんこと頗る難く農務省は專ら此の障碍を除去するの工夫を凝して電氣仕掛の製糸器械[illegible]

[illegible]〇八月期五十五圓九十錢九十錢大引五十五圓九十錢●長協〇七月期五十五圓廿錢大引五十五圓廿錢〇八月期五十五圓八十五錢大引五十五圓八十五錢

●日本郵船株（五十圓拂込）
●本協〇七月期七十七圓六十五錢七十錢大引七十七圓七十錢〇八月期七十八圓四十錢四十錢大引七十八圓四十五錢●長協〇七月期七十七圓九十錢九十錢大引七十八圓也〇八月期七十八圓四十錢五十錢四十五錢大引七十八圓五十錢

●東洋汽船株（廿五圓拂込）
●本協〇七月期廿八圓九十錢大引廿九圓也〇八月期廿九圓廿五錢
●長協〇七月期廿九圓也〇八月期廿九圓[illegible]大引同
●帝國商業銀行株（三十五圓拂込）

●佛國蠶絲業獎勵金增…

…）の獎勵金給付額は既に制定されて四百…に右の金額にては尙不足を告ぐるより…十五万法を政府より議會へ要求せしに三…にては百四十二に對する三百四十又上院…一票の贊成に依り可決し其旨同月十日官…獎勵金追加要求案の說明に依れば昨年度…して國庫の負債となり居るもの八十五万…の給與を受くべき額は左の如し

一八、〇〇〇法
九二、〇〇〇同
一四、〇〇〇同
四、〇〇〇同
六、〇〇〇同
一六〇、〇〇〇同
一七五、〇〇〇同
八六九、〇〇〇法

…も斯は決して佛國の昨年度に於る繭の產…ず否反つて昨年には減少せし跡あり然る…より求めたるは必竟頭首制定せし要求額…ならざるなり

…省養蠶情況（四月二十三日報）

清國杭州蠶學館　前島次郎
日本蠶絲會員　西原德太郎

日々の好天氣は三月十二日頃よ

中頃に至り買人の主張案外強固なりしな以て人氣頓に沮喪し來り持人の氣組自然下向の傾向を顯したるを機とし買人は增す强氣を持續したるに因り相場は漸次下落し來り遂に四百十五兩を以て見本六百俵の取組を見るに至れり又中旬後二十二日の間に入り外商の買進弗々現出せしにより一時相撰の狀況も多少持直し來り又持手の思惑も融和し來りたるを以て商況頓に一變の模樣を呈し相場は四百廿五兩まで上騰し同直段にて七里絲約七千餘俵の取組を見るに至れり其他蒸氣器械絲は二月下旬に於て多數の先物約定あり爾來弗々小口物の取引あるが如く相場は九「デニール」より十一「デニール」の物八百四十兩、十三「デニール」より十五「デニール」の物七百九十兩より八百十兩の間を上下し居れり又聞く所に據れば來季の蒸氣器械絲向新讓一擔に付き百二十兩にて約定あり由又二月中白黃絲の輸出高を見るに白絲四千九十二俵、黃絲七百五十六俵にして一月中の輸出高白絲七千七百二十二俵、黃絲八百六十六俵に比し各自其高を減少せり

◉外報 (Nouvelles étrangeres) (Foreign News)

●米國政府の蠶業保護

米國南部地方カロリナ州に於て小規模ながら養蠶業の開始せられしは既に久しき以前にあり加るに同地方の氣候は頗る養蠶に適し桑樹の如きも同州を通じて青々繁茂しつゝあるの等旁々同地方には斯業の大發達を爲すべきの事情を具足しつゝあるに拘らず今日まで微々として振興せざるは頗る怪訝に堪へざる次第なるが是れ蓋し同地方に於ける棉花業忙の結果人の蠶業を顧みるものなき爲なるべしといひ又近く同地に設置せられたる南カロリナ養蠶協會員の唱ふる所に依れば右は畢竟政廳が實却すべき市場に乏しき爲めなるべしといへり此の兩說果して孰れか是なるべきやは暫らく措き同協會は右の如き所信に基き斯業の發達を促す爲め同地に一大工場を設立し佛國及セレル製の新式製絲器械を据付け製絲業の開始せんとする計畫を立てしに之に對し米國政府より特に一萬弗の奬勵金を下付せられたるを以て取敢へず模範工場として桑園を開墾し養蠶室を建築したる由に同會員に對しては特に支那桑苗の配布を受け得るの便宜をも與へつゝありといふ

又北カロリナ州蠶の農務部にては本年驚々家畜より蠶種を取寄せ之を篤志者に分與することとなせし由にて技師マッカーヴー氏は左の如き報告を發せり云ふ

"伊國蠶種の純眞なるものを普及するの目的を以て北カロリナ州聽農務部は特にロンバルヂーに若干の蠶種を注文せり該蠶種は四月十日より同二十日迄の間に到着すべし同州市民、學校又は公共團体にして蠶兒の飼育なさんと欲する者は其必要なる蠶種を實費を以て分與すべし但し以前に經驗なき者は何人と雖も初年に於ては十分一オンス以上の飼育を試みざるを可とす蠶種は郵券三十仙を封入して申込む時は何人にも十分一オンスを分與すべし蠶種の十分一オンスよりは蠶兒約四千頭を生じ之を飼育するには生桑葉約二百封度を要すべし桑樹は支那桑を最良とす支那桑は葉形大に葉色暗濃、根の色黃色なり(中略)又養蠶は初年に於ては滿を期して飼育するを目的とせず寧ろ第二年の蠶種製造を目的とすべし云々(下略)

而して所謂支那桑なるものは北カロリナ州に於ては至る所に成育し幾何の猛芽なるを著し絲桑に差支ゆる如きことなしと云ふ

尙南カロリナ養蠶協會の意向にては米國養蠶業をして歐亞の養蠶業が滅次盛運に赴くが如くなるが同國に於て始めて斯業を試みたるは今より凡そ三百八十年前に在り然れども爾後の結果は皆而白からず千八百七十六年百年紀念博覽會を開くに及んで養蠶業は再び世間の問題に登り米國議會は千八百八十四年より千八百九十一年に渡りて鉅費を投じて大仕掛に試驗を行ひ全國殆んど到る處養蠶を行ひ得るの見込立つに至れるも惜し新進の障碍たるは勞力問題なり養蠶は總て勞働低廉なる處に行はるるを以て米國の高勞働を以て之を競爭せんこと頗る難く農務省は爾ら此の障碍を除去するの工夫を凝して養蠶仕掛の製糸器械等を造り務めて人力を省き海外の競爭に耐へしめんとせしも今迄の處には到底給人生糸に當國産を讓して內地産業を保護するに非ざる以上は産額を期することは難く而かも今の處にては其れも行はれ難き事情あり此に因り斯業給心家は南州諸州に之を奬さんと務め居れるが現在米國斯業の障碍は只勞働問題に在りて而して南州諸州は勞働安き處に兒童を用ゐ得るの便もあれば此の計畫は尤も成功の望みあるべし桑を摘み繭を養ふは兒童の勞力にて足り而して父兄の此の事業の爲に家內の所務を增すの益あれば必ず悅んで之を迎ふべし且南州諸州にてはオーセジオレンジ多く其の業は蠶の飼料として桑葉より効大なりと云へば將來此の地方には養蠶製糸業の大發達を見るに至らんと云へり

も浸蝕せし行べき目的なり以て米國各州に於ける同業協會と連絡して一致新業の發達を圖らんとすに在りて現時歐亞より米國に供給する五千萬弗の生絲を無稅なる同國の蠶業發達を阻碍するの虞あるにより同國に輸入する生絲には相當の保護稅を課して新業の發達に資すべしとの意見を有す

●露國養蠶の進歩

露國に於て需要する桑葉物は今は概れ土耳其斯坦の供給する所なるが露國に於ける養蠶は近年著しく長足の進歩なる最近の調査に依れば一ヶ年凡四十萬プード（約百七十二萬八千貫）を産出するに至りたるが其飼育の盛なるはコーカンド、アンヂャン、サマルカンド、タシニケント等の地方なりと去れど同國に於ては蠶種製造の事未だ著居れども蠶種製造の事進歩せば養蠶業從て更に一層の進歩をなすべしと云ふ

●佛國勞働時間減縮の結果

佛國に於て男女幼工、女工を傭役する工場及び男女幼工、女工、男工を併用する工場に於ける一日の勞働時間は千九百年二月三十日附法律の規定に照ら七年四月一日より十時間半（從前十一時間）に減縮せられたるが勞働時間の減縮は大に勞働者の所得に影響する所ある為以て該法律規定の實行せらるゝや忽ち工業地方に樽々職工の同盟罷工を喚起し工業界を騒然するの結果を呈せり而して割下會未だ全局の調和を告ぐるに至らず現に綿紡織業、毛紡織業殊に絹、燃絲業の工場の如きは休業閉鎖の知きも不穩と称ふる所あり抑も勞働者の保護を目的とする法律規定の實行の下に反つて被保護者たる勞働者の利益を害し苦めに今回の同盟罷工を見るに至りたるか如き佛國法律の成績は本邦に於ける勞働保護問題の攻究上宜しく一考を値す可きものならん

●千九百年度佛國蠶絲業奬勵金増額確定

千九百一年度（明治三十四年）の奬勵金給付額は既に制定されて四百二十二万八千法と定り居たるに右の金額にては尚不足を告ぐるより過般給與追加として更に九十五万法を政府より議會（要求せしに三月六日の會議に於て下議院にては百四十二に對する三百四十又上院に於て二に對する二百三十一票の贊成に依り可決し其官同月十日官報を以て公布せられたり

今政府より上院に提出せし奬勵金追加要求案の既明に依れば昨年度給付さるべき金額の不足にして國庫の負債となり居るもの八十五万九千法なり而して其不足額の給與を受べき縣は左の如し

エン縣	一八〇〇〇法
バース、アルプ縣	九二〇〇〇同
ナート、アルプ縣	一四〇〇〇同
アヴエロン縣	四〇〇〇同
ブーシュ、ザュ、ロース縣	一六〇〇〇同
タル、縣	六〇〇〇同
ヴオクリューザュ縣	一七五〇〇同
合計	八六九〇〇〇法

右の通り案の要求ありたるも斯は決して佛國の昨年度に於る國の産出額が増加せしの故にあらず苦反つて昨年に比し減少し跡あり然るに今回奬勵金の増加を政府より求めたるは必覚頭首額定せし要求額の幅々に可決されたるに外ならざるなり

●清國浙江省養蠶情況（四月二十三日報）

在清國杭州蠶學館　前島次郎
大日本蠶絲會員　西原德太郎

舊冬以來打續きたる日々の好天氣は三月十二日頃よ

中頃に至り買人の主張案外堅固なりしを以て人氣頓に沮喪し來り持
人の氣組自然下向の傾向を顯したるを機とし買人は增々強氣を持續し
たるに因り相場は漸次下落し來り[illegible]八百表
の取組を見るに至れり又中旬後[illegible]
現出せしにのり一時頓挫の狀況[illegible]
和し來りたるを以て商況頓に一[illegible]
て上騰し同直段にて七里絲約七[illegible]

氣器械絲は二月下旬に於て多數の先物約定あり爾來弗々小口物の取
引あるか如く相場は九「デニール」より十一「デニール」の物八百四十
[illegible]圓、十三「デニール」より十五「デニール」の物七百九十圓より八百十
[illegible]所に據れは來季の蒸氣器械絲向新繭一
[illegible]りし由又二月中白叢絲の輸出高を見る
[illegible]百五十六俵にして一月中の輸出高白絲
[illegible]六十六俵に比し各自其高を減少せり

[illegible] (Foreign News)

●米國政府の[illegible]

米國南部地方カロリナ州に於て[illegible]
は既に久しき以前にあり加ふるに[illegible]
の如きも同州を通じて背々繁茂[illegible]
大發達を爲すべきの事情を具足[illegible]
して振興せざるは頗る怪訝に堪[illegible]
於ける棉花業繁忙の結果人の蠶[illegible]
といひ又近く同地に設置せられ[illegible]
所に依れば右は畢竟成繭を賣却[illegible]
といへり此の兩說果して孰れか[illegible]
右の如き所信に基き斯業の發達[illegible]
佛國及セレル製の新式製絲器械[illegible]
蠶を立てしに之に對し米國政府[illegible]
れたるを以て取敢へず模範工場[illegible]
たる由にて同會員に對しては特[illegible]
なも與へつゝありといふ
又北カロリナ州縣の農務部にて[illegible]せし由にて技師マクカーター氏は左の
[illegible]普及するの目的を以て北カロリナ州縣
[illegible]に若干の蠶種を注文せり該蠶種は四月
[illegible]に到着すべし同州市民、學校又は公共團
[illegible]せんと欲する者は其必要なる蠶種を實費
[illegible]時に經驗なき者は何人と雖も初年に於て
[illegible]か試みざるを可とす蠶種は郵券三十仙
[illegible]にも十分一オンスを分與すべし
[illegible]蠶兒約四千頭を生し之を飼育するには
[illegible]へし桑樹は支那桑を最良とす支那桑は葉
[illegible]黄色なり(中啐)又養蠶は初年に於ては繭
[illegible]ら第二年の蠶種製造を目的とすべし云
[illegible]北カロリナ州に於ては至る所に成育し
[illegible]に蔓支ゆるか如きことなしと云ふ
[illegible]にては米國養蠶業をなして歐亞の養蠶業

●本場○七月期前引廿五圓七十錢○八月期廿六圓也大引同
○七月期大引廿五圓七十五錢○八月期廿六圓也大引同
●東京瓦斯株(五十圓券)
●本場○七月期大引七十八圓八十錢○八月期七十九圓五十五錢六
十錢七十九圓六十錢●後場○七月期七十八圓七十錢大引七十八
六十錢○八月期七十九圓七十錢
●戸瓦新株　(廿二圓拂込)
●後場○八月期五十八圓五十錢大引五十八圓四十錢
●東京電燈株(五十圓券)
●本場○七月期五十四圓五十錢大引五十四圓十五錢○八月期大引
五十五圓十錢●後場○七月期大引五十四圓廿五錢○八月期五十五
圓也
●日本精製糖新株(三十圓拂込)
●本場○七月期十六圓也●後場○七月期十四圓九十錢大引同
●東京米穀株(五十圓券)
●後場○七月期百廿圓五十錢○八月期百廿一圓也
●東京株式株(五十圓券)
●本場○七月期百卅一圓八十錢大引百卅一圓廿錢○八月期百卅一
圓四十錢大引百卅二圓四十錢●後場○七月期百卅一圓四十錢
大引百卅圓七十錢○八月期百卅二圓十錢二圓也大引百卅二圓五十錢
●直取引相對賣買
●午前之部
●日本郵船株七十七圓七十五錢九十錢八圓也
●昨午後之部
●日本郵船株七十七圓七十錢九十錢八圓也五錢
●昨日午前之部
●日本郵船株七十七圓六十五錢七十五錢九十錢九十五錢八圓也五
錢
■商業會合(廿九日)
[illegible]

なも渡罵せしむべき目的を以て米國各州に於ける同業協會と連絡して一致斯業の發達を圖らんとするに在りて現時歐亞より米國に供給する五千萬弗の生絲の無稅なるは同國の蠶業發達を阻礙するの虞あるにより同國に輸入する生絲には相當の保護稅を課して斯業の發達に資すべしとの意見を有す

●露國養蠶の進步

露國に於て需要する絹物は今は概ね土耳其斯坦の供給する所なるが露國に於ける養蠶は近年著しく長足の進步をなし最近の調査に依れば一ヶ年繭四十萬プート(約百七十二萬八千貫)を產出するに至りたるが其飼育の盛なるはコーカンド、アンヂヤン、サマルカンド、タシユケント等の地方なりと去れど同國に於ては蠶種製造の事未だ甚だ幼稚なるを以て蠶種は專ら佛國製を用ゐ之に少許の内國製を混し居れるも蠶種製造の事進步せば養蠶業從て更に一層の進步をなすべしと云ふ

●佛國勞働時間減縮の結果

佛國に於て男女幼工、女工を傭役する工場及び男女幼工、女工、男工を併用する工場に於ける每日の勞働時間は千九百年三月三十日附法律の規定に照らし本年四月一日より十時間半(從前十一時間)に減縮せられたるか勞働時間の減縮は大に勞働者の所得に影響する所あるを以て該法律規定の實行せらるゝや忽ち工業地方に續々職工の同盟罷工を喚起し工業界大に紊亂するの結果を呈せり而して刻下尚未だ全局の調和を告くるに至らず現に綿紡績業、毛紡績業殊に絹、燃絲業の工場の如きは休業閉鎖の如きも不尠と傳ふる所あり抑も勞働者の保護を目的とする法律規定の實行の下に反つて被保護者たる勞働者の利益を害し爲めに今回の同盟罷工を見るに至りたるか如き佛國法律の成績は本邦に於ける勞働保護問題の攻究上宜しく一考を値す可きものならん

●千九百年度佛國蠶絲業奬勵金附增額確定

千九百一年度(明治三十四年)の奬勵金給付額は既に制定されて四百二十二万八千法と定り居たるに右の金額にては尚不足を告ぐるより過般給與追加として更に九十五万法を政府より議會へ要求せしに三月六日の會議に於て下議院にては百四十二に對する三百四十又上院に於て二に對する二百三十一票の贊成に依り可決し其旨同月十日官報を以て公布せられたり

今政府より上院に提出せし奬勵金追加要求案の說明に依れば昨年度給付さるべき金額の不足にして國庫の負債となり居るもの八十五万九千法なり而して其不足額の給與を受くべき縣は左の如し

エン縣	一八、〇〇〇法
バース、アルプ縣	九二、〇〇〇同
オート、アルプ縣	一四、〇〇〇同
アヴエロン縣	四、〇〇〇同
ブーシユ、ヂユ、ロース縣	一六〇、〇〇〇同
タルン縣	六、〇〇〇同
ヴオクリユーヅユ縣	一七五、〇〇〇同
合計	八六九、〇〇〇法

右の追加案の要求ありたるも斯は決して佛國の昨年度に於る繭の產出額が增加せしの故にあらず否反つて昨年には減少せし跡あり然るに今回奬勵金の增加を政府より求めたるは必竟頭首制定せし要求額の輕々に可決されたるに外ならざるなり

●清國浙江省養蠶情況　(四月二十三日報)

在清國杭州蠶學館　前島次郎
大日本蠶絲會員　西原德太郎

舊冬以來打續きたる日々の好天氣は三月十二日頃よ

り暖熱益加りて少しも降雨なく南風及東南風多く外温七十度より八十二度に達し桑樹を始め諸草木の開芽伸長の急速なるは實に驚くべきものあり僅々二週日にして發芽より開花落英を見るに至る殊に本年は暖氣早到し各養蠶家の蠶種は之か影響を受けて不時に發せしもの多く假に人を四方に派して晩出の蠶種を購求する等一時蠶業家をして狼狽せしめたり斯の如く平年より二週間以上速なりし氣候は三月二十日降雨ありしより以來氣候全く一變して北風は吹て颯々たり霖雨は絶す霏々たり溫度は平均四十五度内外を示し高きも六十度を超ゑず殊に三月二十八日は最低四十三度に降下し桑葉は萎縮して伸長遲く既に發生したる地方の蠶兒は冷濕の爲め死するもの多く早掃の分は確に一大打擊を受けたり爾後四月三日に至り黄砂と稱する黄色の細微土一面に降下し恰も春霞の如く四方の山を蔽へり桑葉も亦此黄砂を附着せるにより蠶兒甚だ之を食ふを喜ばず爲に蠶兒の發育を妨げたること尠からず蓋し清國にては時として黄砂の降下することあり多くは東南より來る或は砂漠より到るならんと云ふ而して黄砂の養蠶中に降りたる歳は其結果可ならずとは古來よりの傳説なるが蠶兒の之を食するを嫌ひ發育の遲れたるを觀れば多少の影響あるは疑なき所なり今左に浙江省中著名なる養蠶地の概況を報ぜん

●紹興府諸暨

大興頭(諸暨桂廻)の產地なる諸暨地方一帶は陰暦一月以來の暖熱により不時に蠶兒の發生せるもの約十分の五六發生後は冷濕の氣候に惱され稍蠶な生ずる尠しく全く江河に投棄したるもの少からず殘れるものは日下上簇中なり晉過の分は除暦二月二十日(陽暦三月二十九日)より二十七八日に發生し現今四五齡のもの多し全体平均二三分の每なれ桑葉は一畝(十六貫)に付き壹圓貳拾錢より八拾錢位なるも希望なく桑園を所有し居るものは頗る困難ななせり

●杭州府錢塘縣三墩鎮(杭州を距る三四里日本居留地に近し)

杭州附近に於て最も養蠶の盛なる同地方は早掃は除暦二月二十二三日(四月一日)晩出は同月二十七八日(四月五六日)に至る日下三齡三四日にして三月十二日始めて桑市を開けり百斤(一斤百四十匁)貳圓八九拾錢より壹圓九拾錢にして五齡に達すれば平年に比し大に下落する見込なり

●杭州府餘杭縣

蠶種の木掛なる餘杭地方も不時に發生したるが如き其他等掃立てたるものは冷濕の爲め斃死せり目下四眠より五齡二三日目のもの多く蠶況甚不良なり約三月二十日(四月二十七日)頃より上簇すべく桑葉は百斤(一斤旦六十匁)に就き貳圓參四拾錢より貳圓七八拾錢内外なり

●湖州府德清縣

有名なる金鑑鎮(清國輸出生絲)の產地なる湖州一帶は他の地方に比して發生遲く目下一眠或は二眠のもの多し而して此地方十分の一は氣候の影響なく不時に發生せるや過半は稍蠶なりと云ふ晩出の分は明後十二齡の蠶兒に與ふる桑葉百斤(一斤百九十匁)に付貳圓參拾錢内外なり

此他の地方よりは未だ通信なきを以て明ならざれども要するに不時に發生したる早掃の蠶兒は悉く不作にして目下の見込にても一二分より四五分にして普通除暦二月二十七八日(四月五六日)より三月一二日(四月十一、二日)に收蟻したるものは當時未だ大影響を蒙らざるも桑葉は益々下落し蔸及生絲は益々騰貴せんとする狀況なり

余等の從事せる蠶學館は本日夏蠶の第一化五齡三日目最も遲きものは四齡第二日目なり

◉雜報(Nouvelles diverses) (General News)

●大日本蠶絲會評議員選擧

大日本蠶絲會第十一回大集會に於て評議員芳賀權四郎、針塚長太郎、橋本重兵衛、吉池慶正、高橋信貞、土屋泰、辻暢太郎、中村半左衛門、浦部良太郎、町田菊次郎、足立元太郎、芝山直清、平野師應、鈴木武太郎(いろは順)の十四氏滿期退任になりたるを以て其選擧を會長の指名とするや會長は左記の諸氏を選擧せられたり

農學士　伊藤富次郎　今西直次郎　津田　興二　土屋　泰△
　　針塚長太郎△　羽田桂之進　農學士　辻　暢太郎△　浦部良太郎△
　　橋本重兵衛△　町田菊次郎△
原　富太郎　芳尾　幾造　農學博士　酒匂　常明　佐野　理八
小野　光景　田原休之丞　茂木　保平　澁澤作太郎
吉池　慶正△　農學士　田原休之丞

新選評議員の數增加したるは規則改正の結果による又姓名の下に△符を記せしは再選者なりとす

●評議員會

大日本蠶絲會に於ては本月十一日(第二日曜)評議員會を神田區錦町三河屋に開けり來會者は松平會長を始めとし今西直次郎、針塚長太郎、林驥作、橋本重兵衛、木多岩次郎、吉池慶正、月田藤三郎、津田興二、練木喜三、佐野埋八、紫藤章、下田伊左衛門(い

ろは順）の十二氏にして議定せし議題は左の如し

一、役員改選の件

二、大日本蠶絲會功績表彰規則の件

三、建築資金流用の件

役員は參事芝山直清氏辭職せられ幹事吉池慶正氏滿期退任となれるを以て參事二名幹事一名の選擧を要するこゝなり會長は之を滿場に諮られたりしか針塚長太郎氏は會長指名説を提出し全會一致之を贊成せしにより會長之を諾し參事に酒匂常明、佐野理八の二氏幹事に吉池慶正氏を指名せられたり、次て前回の宿題たる大日本蠶絲會功績表彰規則に移り調査委員たる針塚、月田、練木の三氏より説明あり多少の修正を加（可決したり）次に建築資金流用の件を議せり蓋し本會會堂建築資金は經濟界の不況に遭遇し豫定の額に達せざるを以て止むを得ず最も信用ある銀行に預け利殖の法を圖りつゝありしか一方に於て事務所は他の家屋を借入れ使用をなすにより經濟上甚不得策なるものあるを以て建築資金を流用して家屋を購入し經常部よりは建築部に預金利子と同額を拂込み會堂を建築し得る時期に達せる曉は其家屋を賣却して之に充ると云ふにあり本件も異議なく可決し購入等に就ては理事者に一任することゝなれり會議終るや一同晩餐を喫し和氣藹々の間に蠶絲業上の時事談をなし退散をなせるは午後八時半なりき本日議決したる功績表彰規則は次號に掲載を讓る

●役員及技藝委員の派遣

大日本蠶絲會にては西遠支會に於て第三回大集會を擧行するに就き役員の出張を請求し來れるを以て幹事吉池慶正氏、西多摩支會に於て第一回總集會開設に就き技藝委員の派遣を請求せるにより技藝委員土屋泰氏を出張せしめたり

●西多摩支會總集會

大日本蠶絲會西多摩支會に於ては四月九日午前十一時より青梅町宗德寺内に於て第一回總集會を開會し橋口支會長は式辭を朗讀し次に幹事會務の大要を報告し了て昨年宮城縣に於て滿一等賞を得たる東秋留村杉田十七氏に對し木杯及表彰狀を授與せり（人事彙報參照）授與後休憩午餐を喫し左記の諸氏の講話あり

一、養蠶業の經濟

大日本蠶絲會技藝委員　土屋　泰

一蠶業雜話　東京府技手　生方五郎

右終て會長は閉會を告げ來賓及役員諸氏を坂上樓に招して晩餐を饗せりと云ふ

●西遠支會第三回大集會

大日本蠶絲會西遠支會第三回大集會は四月十三日濱松町濱松倶樂部樓上に於て開會し出席者本會幹事吉池慶正氏及西郷足利兩濱名蠶業學校教諭を始め地方の名望家幷に會員五十有餘名にして會主袴田善五郎氏開會の辭を述べ次に吉池氏の祝辭あり後役員選擧の爲め山本庄次郎氏を議長に推し會員の動議に依り評議員十五名は山本議長の指命に任せ議長は別項の如く指名し會議を終り次に吉池氏は終を愼めと題し蠶兒の上簇に關し一場の講話を爲せり又別席に於て評議員會を開き會長參事幹事及地方委員の選擧及規則の改正を議決して午後五時散會したり當日選擧せる役員の姓名は左の如し（修正規則の掲載は次號に譲る）

會長　欠員

參事　山本庄次郎　岡部竹治郎　後藤角平

幹事　練田善五郎

評議員　又十郎　小杉　馬塚一平　伊藤豐太郎

桂　村治　三輪新五郎　山田福太郎

練田　孫兵衛　野崎久平　佐藤彌七

鈴木　勝太郎　宮崎政治郎　岡野平三郎

内山　喜平　鈴木弗之進　野末万一

地方委員

浦部　孫太郎　生餌惣八　長谷川治三郎

堀井　彦三郎　大石桑太郎　金子芳蔵

榎谷　鹿蔵　佐藤儀作　林一郎

中村　喜一郎　桔川熊重　河村直次郎

彦坂　久作　森鹿太郎　小池平太郎

●東西蠶業講習所蠶況（第一）

本年春期飼育に供せる蠶種は一月十三日浸水洗淨を行ひ同二十二日貯藏器に納めたるものにして四月十八日に至り之を取出し催青に着手せり此催青中に於ける氣候は概ね好良ならすして其前半期は稍〻高溫に過き後半期は甚た寒冷に失せり即ち蠶種取出の當日より四月二十二日に至る五日間は平均溫度六十度を昇降せるに反し同二十三日は俄に五十三度に下降し同二十四日以後四日間は五十度に達せさりし而し

て本年早生桑發芽の狀況は前年に比し開葉、伸長共に稍〻後れたり即ち左の如し

月日	種別	市 葉數	市 葉長	市 葉幅	島村早生 葉數	島村早生 葉長	島村早生 葉幅
四月十六日		一	〇・六〇	〇・四〇	一	〇・六五	〇・四〇
十九日		三	〇・九〇	〇・七五	四	〇・九五	〇・七〇
二十二日		五	一・四〇	一・〇〇	六	一・二〇	〇・八〇
二十五日		七	一・六〇	一・二〇	七	一・六〇	一・〇〇
二十八日		七	一・八〇	一・三〇	九	一・八〇	一・二〇
五月一日		八	一・九〇	一・四〇	一〇	二・〇〇	一・四〇
四日		八	二・二〇	一・六〇	一〇	二・二〇	一・六五

蠶兒掃立期日は前年に比して稍〻後れたり即ち大部分は去月卅日、本月一日の兩日に於て之を掃立て其他試驗用早晩の掃立は平年と大差なし即ち左の如し

明治三十五年

早掃	四月二十三日	中掃	五月一日
晩掃	同五日		

明治三十四年

早掃	四月二十三	中掃	同二十九日
晩掃	五月二日		

而して本年飼育に供せし蟻蠶の量は試驗用四十二匁三厘、傳習用五十七匁、原種用八匁一分、合計百七匁一分三厘なりとす

試驗室に於て飼育に供せる蠶兒の種類は左の如し

種別	掃立蟻量	種別	掃立蟻量
本邦在來種	一三匁二二・九三	土耳其國種	三五・七〇
清國種	一一十・八〇	韓國種	二〇・六〇
佛國種	四三・二〇	掛合種	一・二〇
伊國種	二〇・〇	合計	四九四二・〇三

傳習室に於ては本科二年生二十人に角又種各六分本科一年生二十四人に小石丸種各六分別科甲組二十二人に小石丸種各六分同乙組二十二人に青熟種各六分研究生外國留學生には小石丸青熟の兩種を分換飼育せしめたり

試驗室に於ける蠶兒は上記の如く其掃立最も早きは去月二十三日最も晩きは本月五日にして其經過亦各同からざるに因り今單に原種用として飼育せる蠶兒の經過に就きて記する所あるへし

原種用蠶兒の經過は角又種及青熟種に在りては平均溫度七十二度、同濕度六十一度にして其日數六日十二時間、小石丸種に在りては平均溫度七十三度、同濕度六十二度にして其日數六日九時間を要せり

傳習室に於ける蠶兒は上記の如く之を本科二年、同一年及別科の三級とし本科二年は四室に、本科一年は外國留學生二人を加へて五室に、別科は外國留學生二人を加へて五室に、別科は外國留學生二人を加へて五室に分てり而して其蠶兒の經過は本科二年に在りては平均溫度七十度三、同濕度六十三度七にして其日數は六日十六時間、本科一年に在りては平均溫度七十一度八、同濕度七十一度にして其日數は六日十二時間、別科に在りては甲組平均溫度七十一度、同濕度六十八度九、乙組平均溫度七十二度六、同濕度六十九度八にして其日數は共に六日十二時間を費せり

要するに第一齡中に於ける天候は概ね晴天にして曇天雨天の日は少かりしも氣溫低く且つ風力稍強かりしを以て濕氣少く蠶室内は特に甚た乾燥せるかため給桑量は平年に比し著しく多量を要せり

京都蠶業講習所

本年は初春に於て降雨少なく溫度稍高かりしを以て桑芽の開綻昨年に比し少しく遲進せしか四月上旬に至りて溫度卒かに低下し全十日降雪に次て全十一日結霜あり桑芽の損傷甚しく早生種節曲の如きは葉芽全く凋萎せり今早生桑市平に就き發芽の狀況を調査したるものを掲くれば左表の如し

早生桑市平發芽調査表

月日	標目	芽	葉	芽	葉	芽	葉
		大		中		小	
		芽長	葉長	芽長	葉長	芽長	葉長
		芽幅	葉幅	芽幅	葉幅	芽幅	葉幅
三月廿八日		二・八分	二・四分	二・一分	二・一分	二・〇分	二・〇分
四月一日		二・八	二・六	二・二	二・二	二・二	二・二
同四日		二・八	二・六	二・二	二・二	二・二	二・二
同七日		三・〇	二・八	二・四	二・二	二・二	二・二
同十日		三・〇	二・七	三・〇	二・四	二・六	二・二

同十三日	三、〇	一、七					三、二	一、五					二、八	一、二				
同十六日	三、〇	一、七					三、二	一、五					二、八	一、二				
同十九日	三、六	一、八					三、八	一、八					三、〇	一、六				
同廿二日			四分、九						五分、〇						四分、四			
同廿五日			五、八						六、四						四、六			
同廿八日				一枚	六分、〇	五分、〇				二枚	八分、〇	五分、五				三枚	七分、〇	五分、〇
五月一日				三	六、八	六、〇				四	一〇、六	八、二				四	八、〇	六、〇
同四日				七	一二、〇	七、〇				六	一六、〇	一三、〇				五	一七、〇	一三、〇

天候右の如くなりしを以て本所にありては平年に比し約十日を延して四月廿六日蠶種を出し催青中亦多く火力を用ゐす五月二日より五日に至る四日間に於て大部分の蟻蠶を掃立てたり蟻量の總計は百十七匁四分五厘にして其内傳習生實修飼育のもの五十五匁八分原種用蠶兒飼育のもの十九匁試驗飼育のもの四十二匁六分五厘とす

傳習室に於ては本科二年生十六人に角又蟻量八分つゝ仝一年生廿人に青熟蟻量八分つゝ別科生四十五人に小石丸蟻量六分つゝを分配し以て實習に從はしめたり

試驗室蠶兒飼育　本室蠶兒の掃立は前報の如く早きは五月二日遲きは仝五日にして其内大部分の蠶兒を掃下したるは仝三日なり而して掃立時日の異なるに因り一眠竣蛻の日時亦同しからず其内五月二日に掃立てたる飼育法試驗中標準育のものにあつては五月八日午後十一時を以て一眠を了せり此間に於ける天候は曇天又は雨天のみにして濕氣頗る多かりしも溫度甚しく低下せさりしを以て桑葉の伸長蠶兒の發育共に速進せり

傳習室蠶兒飼育　傳習室に於ける一齡中室內平均の溫度は殆んと七十度にして同濕度は六十六度なり而して本科二年生擔當の角又に五月三日午前十一時に掃立てたるもの五月九日午後十一時を以て一眠を了り齡中日數六日と十二時間を要せり又本科一年生擔當の青熟は五月五日午前十一時に掃立てたるもの同十二日午前十一時を以て一齡を終る此間の日數七日とす而して別科生擔當の小石丸は五月三日午前九時を以て掃立てたるもの五月九日午後五時一眠竣蛻即ち一齡の間六日と八時とす

要するに本齡中の天候は蠶兒に適當なりと云ふへからさるも火力を用ゐて之れか調和を圖りたるにより蠶兒は却りて其發育を速進し齡中日數平年に比し約半日乃至一日を短縮せり

●農事試驗場長會議の蠶業問題

過般農商務省に於て道廳府縣農事試驗場長、農事講習所長、農事巡回敎師の協議會を開設せるが其際農商務省より左の事項を諮問せられたり其答申及建議は次の如し

蠶室蠶具の消毒及蠁蛆驅除の方法中普く實行せしむるに適當なる方法手段を問ふ

蠶室蠶具の消毒及蠁蛆驅除の必要に關しては曩に訓令する所ありしより方今各地之が施行に努むる所あるも未だ其効果の觀るべきもの多からず是れ其方法宜しきを得ず又手段其當を得ざるにあらざるなきか果して然らば其實行上適切なる方法手段如何

答申

蠶室の消毒はフォルマリン撒布、蠶具の消毒は蒸氣加熱を以て實行し易く且有効の方法と認む而して之を普及せしむる手段は左の如し

一、養蠶者に對しては蠶業に關する各種組合又は農會の事業として施行せしむること

二、蠶種製造者に對しては法律に依り施行せしむること

蠁蛆の驅除方法は現今に於ては曩に農務局長より地方長官に通牒せられたる方法に依るの外なきを信ず然れとも之が驅除は單に一部地方に於て行ふも好果を期し難きを以て蠁蛆驅除に關する法律を發布せられ養蠶、製種、繭取扱、製絲等の各業者をして一般に之を實行せしむることを必要と認む

建議案

蠁蛆の蠶業界に及ぼす慘害は逐年激甚を加ふるの事實あり然に該蟲の發育習性等に就ては略研究せられたるものありと雖も其驅除豫防の方法に至りては未だ完全なるものあるを見ず依て東西兩蠶業講習所に於て此等調査の設備を大に擴張せられ充分の研究を遂げられん

ことを希望す

●本年の蠶況

本年の蠶況は如何養には山梨を中心とし靜岡より以西四國九州に霜害あり爾來天候回復の兆あり吾人の愁眉較展開せんとするの時に當り再び惡變を來し實に五月十一、二、三日群馬を中心とし埼玉、山梨、東京其他の地方に降雪結霜あり爲に桑園の被害せしもの亦尠からず蠶兒と哀別の慘狀を繰返したりと云ふ殊に此の如く寒暖激變酷しく加ふるに陰濕なるを以て蠶兒の衛生上も亦甚可ならざるものあり庶幾くは天帝徒に無常を苦むるの惡戯を止め順境に復せしめんことを聞く清國の蠶業の本場たる江蘇、浙江兩省も養蠶甚不況なりと果して然らば本年は東洋蠶業界の厄年ならんか

●諸會一束

▲靜岡縣蠶絲業聯合大會　四月四、五兩日間靜岡縣蠶絲業聯合大會を開設せり中央よりは柴藤農商務師、練木全國蠶絲奬會幹事長、饗庭よりは山田知事、永井書記官、戸澤事官、青木技師其他會員の來會せる者二百餘名蠶絲業上の重要問題を議決し又有益の講話ありしと云ふ

▲成蹟社蠶業講習所證書授與式　四月八日東京府四多摩郡成蹟社蠶業講習所にて免業證書授與式を擧行せり諸員一同着席幹事間會の辭を述べ生方講師讀書授與の申請をなし下田所長正科井に研究科生徒廿四名に證書を授與し終て告辭をなし來賓の祝辭生徒の答辭ありて式を閉じ別室に酒肴の饗應あり

▲栃木縣佐野町蠶業講習會　四月十一日佐野町に於て大日本蠶絲會員服部松氏の發起にて蠶業講習會を開けり此日出席者は中森安藤郡長其他百五十餘名服部氏の開會の辭演邊家八、開規論次郎、永島禮七諸氏の有益なる講話ありしと云ふ

▲埼玉縣兒玉町蠶業講話會　兒玉町實相寺に於て蠶業講話會を開き脇田埼玉縣技手、補部製造社長、今井蠶業學校長の斯業に適切なる講話あり傍聽者堂に溢れ頗る盛會なりしと云ふ

●人事彙報

▲酒匂常明氏　本會參事兼評議員なる農商務書記官農學博士酒匂常明氏は農務局農產課長兼務を命せられ尋て清國並韓國に派遣せられたり

▲金森安之助氏　本會特別會員なる金森安之助氏は宮城縣加美郡蠶業學校長兼教諭に任せられ年俸六百圓下賜せられたり

▲大林雄也氏　本會特別會員なる蠶業講習所技師農學士大林雄也氏は今般高等官五等に叙し農事試驗場技師に任し八級俸下賜せられたり

▲鈴木武太郎氏　本會技藝委員なる農學士鈴木武太郎氏は農商務技師に專任せられ八級俸を下賜せられたり

▲中川久知氏　本會技藝委員なる中川久知氏は高等官六等に叙し農事試驗場技師に任し十級俸を下賜せられたり

▲今西直次郎氏　本會技藝委員にして評議員を兼ねる蠶絲檢査所技師今西直次郎氏は今回六級俸を下賜せられたり

▲足立元太郎氏　本會技藝委員なる生絲檢査所技師農學士足立元太郎氏は今般七級俸を下賜せられたり

▲芳賀權四郎氏　本會技藝委員なる生絲檢査所技師農學士芳賀權四郎氏は今般八級俸を下賜せられたり

▲川添龜之進氏　本會特別會員たる福島蠶業學校教諭農學士川添龜之進氏は兵庫蠶業學校長に任せられ年俸一千百圓給與せられたり

▲丹羽敬太郎氏　本會技藝委員なる丹羽敬太郎氏は宮城縣蠶絲業巡回教師に任せられ年俸一千二百圓給與せられたり

▲鈴木貞太郎氏　本會特別會員たる鈴木貞太郎氏は島根縣技師に任し高等官八等に叙し同縣蠶絲業巡回教師に任せられたり

▲杉田十七氏　本會通常會員東京府西多摩郡東秋留村杉田十七氏は本會品評會の際一等賞に相當せしも未た會員たるの資格なく賞品を受けさりしを以て西多摩支會は之を遺憾とし同會々長より表彰狀に木杯三組を添て贈與したり

●特別廣告

●會員諸件

本年四月中本會に入會せられたるもの左の如し

○特別會員

神奈川　小野　光景　　東京　山路　齋
同　茂木　保平　　同　岡部忠左衛門
同　若尾　幾造　　神奈川　松井　新作
同　原　富太郎　　同　樣澤忠左衛門
同　澁澤　作太郎　　新潟　坂內　忠藏
同　吉田　建次郎　　愛知　山口　猪輔
同　夏目　廣琪
山梨　鈴木　嘉十郎

○通常會員

岐阜　上田　政一　同　齋藤　藤吉
長野　吉池　淨　山口縣蠶業奬勵會　山口　吉敷郡支部
岩手　玉澤　八十治　同　今橋　理八
山形　齋藤　縫助　計　二十一名

右の内にて小野氏及其下四氏は紫藤章氏、吉田、松井の二氏は今西直次郎氏。山路氏は吉池慶正氏。岡部氏は村牛左衛門氏。樣澤氏は佐野安太郎氏。坂内氏は齋藤巖六氏。山口氏は小柳津藤治氏。鈴木氏は山梨支會。上田氏は中村嘉久藏氏。玉澤氏は竹澤章氏。齋藤(縫助)、齋藤(藤吉)の二氏は山本駒吉氏。今橋氏は小田耕介氏就れも紹介せられ夏目、吉池、山口蠶業奬勵會支部の三氏は各自に申込まれたり

又同月中死亡せられしもの左の如し

島根　大坂　惠太郎

又同月中本會規則第六條二、三項に據り通常會員より特別會員に變更せしもの左の如し

長野　羽田　桂之進

●會員諸君に望む

春蠶期は蠶業季中最も重要の時なれば全國養蠶上の現象を相集め會報に掲載し蠶業家諸君の參考に供し度候間時節柄御多忙の事とは被存候得共各地養蠶上の狀況に就き左記の通り御報道に接し度特に希望致候也

一、桑葉發芽の模樣
二、桑葉の價格
三、蠶種掃立數若くは蟻蚕
四、蠶兒掃立期日
五、各齡の經過
六、上簇時日
七、收繭の豫想
八、收繭の價格
九、其他桑葉被害の有無及蠶作の豐凶等參照となすべきなもの

大日本蠶絲會

本館業ヲ創メテヨリ實業家、農會、試驗所等ヨリ比較試驗ニ應シタル「甚多」北ニ八年其間各府縣ノ御制シテ止マス（責任アル御狀ノ寫ハ御印刷ニ引シアル故必ズ御送付可申候）遂ニ間斷ナキ信用ト共ニ今日ニ及ベルモノ誠モ此業ノ名譽ト感悅指シ能ハザル所ニ御座候本年例ノ如ク左ノ日割ニ基キ製種可仕候間御蚕支モ之ナク候ヘバ尤モ嚴密ノ御誠育ヲ給ワリ今後永遠ニ渝ラザランコトヲ希申候

秋蠶華主ニ謹告ス

發生
六月十二日
七月廿四日
白龍

製種類

尚華主諸產ノ御要求ニヨリテハ左ノ書籍參考ニ迄進呈可仕候

田村兵司著

二化蠶業全書

田村兵司著

秋蠶飼育講話

明治三十五年六月　長野縣東筑摩郡里山邊村殖產館主事　田村兵司

信州松本　秋蠶種販賣廣告

●種類　白龍

●掃立　六月九日
七月廿日ヨリ
仝廿五日迄

●製造期　框製廿八蛾附五拾錢平製五分付一圓二拾五錢送料ハ當館自辨ノコト

●代價　御注文ト同時ニ松本郵便電信局及信濃銀行松本支店御振込館主宛ニ願上候

●爲替

詳細ハ御照會次第御確答可仕候

長野縣東筑摩郡芳川村
正撰堂　關　勘平

私儀昨年西ノ原蠶業講習所本科卒業後引續キ研究科ニ入學致シ居リ候處今回講期結了ニ付本年ヨリ鋭意製種監督ノ任ニ當リ候間一層御愛顧ノ程願上候

正撰堂理事　關　貞江

改姓

山梨縣甲斐國東山梨郡上万力村
舊姓堀内　代永金太郎
右辱知諸君に謹告す

無毒保證 春蠶種販賣豫約廣告

受賞
第四回博覽會及大日本農會の賞四點宮城縣共進會其他各府縣飼育諸君賞狀謝狀枚擧に遑非す最近は大日本蠶絲會第七回品評會蠶種優等賞狀受領

○薄赤　壹升標準　貳百二三拾粒
○青熟　貳百四五拾粒
○又昔　貳百五六拾粒

三種何れも繭形整然纖維一定飼育容易年々各地諸君の好評得

豫約代價　平製全面付壹枚金壹圓　框製原種檢查濟百蛾金貳圓也　豫約外普通賣價に復す

蠶質詳細繭形標本等は郵券封入申込次第呈す豫約七月五日限り爲換は丸森局小包代金引換も約す

奥州本場　磐城國伊具郡舘矢間村
發電略號（ハソ）　扶桑園九世本會員　半澤豊治

新發明 經濟 框製蛾袋

一蛾袋 貳拾八蛾入　百枚に付 實費金貳拾五錢

使用輕便人工を省き蠶蛾の貯藏確然濟渡明別隣蛾の傳波なく過失混同の憂なし一度使用せば何人にても調製するを得實益普及のため實費を以て分讓す百枚壹束量百五拾匁餘小包料を要す

磐城國伊具郡舘矢間村扶桑園
發明者　半澤豊治

風穴種

遲春蠶、夏蠶、早秋蠶代用
●五月一日より七月三十一日迄出穴應需　全面付一枚壹圓貳拾錢

秋蠶種

●七月二十日より八月十日まで製造す　百貳拾蛾付壹圓五拾錢　七拾五蛾付壹圓

相馬愛藏著○本社出版
秋蠶飼育法

●本書は最新の出版にして各地蠶業講習所等の秋蠶教科書に採用せられたり
附夏秋蠶風穴飼育法　一部拾五錢十部壹圓

長野縣南安曇郡温村
秋蠶種豫約會社
社員　中村美壽彌　松岡清作　相馬愛藏

無毒保證 春蠶種

白龍○中巢○小石丸○青熟　姬蠶○精選以て貴需に應ず
於第三回第四回內國勸業博覽會有功賞牌拜受
白龍種元祖　信州小縣郡長瀨村　白龍館

●專賣特許
蠶蛾貯藏袋

二十八蛾入壹組金五厘　壹組の量一匁五分
郵送料は先拂ひ郵便區內は上ノ山郵便電信局
山形縣南村山郡宮生村字下生居
發明製造發賣本部興產館主　佐藤權藏

◎蠶種豫約製造販賣廣告

改良 小石丸　本種ハ普通ノ小石丸ヲ多年改良セシモノニテ色澤形狀絲質等共ニ佳良ナリ●壹升貳百六七十粒位

新撰 青熟　本種ハ新種類ニシテ絲量最多シ絲質ハ稍春蠶ト同シ　壹升貳百六十粒位

●春蠶種
●風穴秋蠶種

●代價　製絲用平附壹枚金壹圓參拾五錢●拾枚以上一枚金壹圓貳拾錢●原種用貳拾八蛾附壹枚金七拾錢●拾枚以上壹枚金六拾五錢●但風穴料及春秋兩種共箱代遞送料ハ當方ニ於テ支辨ス

●受賞
明治廿二年西多摩郡農產品評會　一等賞
明治二十八年大日本蠶絲會第一回品評會　一等賞
明治三十三年西多摩郡農會第一回共進會　一等賞
明治二十三年第三回內國勸業博覽會　有功一等賞
明治廿九年成進社第二回共進會　一等賞
同卅三年大日本蠶絲會第六回品評會　一等賞
明治二十三年西多摩郡農工品々評會　一等賞
明治三十年一府六縣聯合共進會　一等賞
同卅四年大日本蠶絲會第七回品評會　一等賞

右ノ蠶種從來製造罷在候處年一年ニ地方ノ信用ヲ辱フシ殊ニ昨三十四年ノ如キハ宮城縣古川町ニ開設セル大日本蠶絲會第七回品評會ニ於テ幸ニモ小石丸蠶種最一等賞ヲ得大ニ各府縣ノ高評ヲ博シ意外ナル御注文或ハ御照會ヲ蒙リ難有仕合ト奉深謝候然レトモ限リアル製造額ニ付遺憾ナカラ御需メニ應シ難ク謝絕セシ向モ尠ナカラス依テ本年ハ豫約ヲ以テ御名入ニ製造販賣可仕候間多少ニ不拘御望ノ諸氏ハ左ノ各項御熟覽ノ上期限中ニ御申込ノ程奉希望候

●豫約申込期限　春蠶種御名入御望ノ氏ハ六月二十日限無名入ノ分ハ七月三十日限　風穴秋蠶種御名入御望ノ氏ハ八月三十日限無名入ノ分ハ九月三十日限

●代金拂込期限　春蠶種ハ九月十日限●風穴秋蠶種ハ翌年七月十五日限　但未風穴ニテ御引取ノ分ハ十一月三十日限御相談ノ事

●爲替振込局　東京府武藏國西多摩郡　羽村郵便局

●發送着金順　春蠶種ハ九月下旬ヨリ遞送ス　風穴秋蠶種ハ翌年七月下旬ヨリ遞送ス

蠶種製造人
大日本蠶絲會特別會員
東京府武藏國西多摩郡福生村千七百八十六番地
福壽館主　高崎治平

風穴蠶種實費祝賣

一全面附 一枚八拾錢
一框製 一枚四拾錢

信濃國下高井郡平穩村四ツ屋桑園隆蠶館
兒玉蠶業部

◎當地特產風穴蠶種實費祝賣◎

●名稱●銀白●青熟●萬倍●白龍●ネヅ蠶
●代價 框製檢査濟無毒良種貳拾八蛾壹枚金四拾錢平製百蛾附一枚金壹圓
●爲創業滿拾五年祝割引
●紀念盃贈呈券 は候間御飼育御要望の士は至急御注文を乞ふ

長野縣南安曇郡温村
中村爲十郎
電信略號(タメ)
本會々員 大日本農會特別會員 帝國農家一致協會用達

例年ノ通リ左記ノ如ク春蠶種製造販賣仕リ候間名入調製等ノ都合モ有之候ニ付可成六月三十日迄ニ御申込ミ下サレ度候

種類 赤熟 青熟 又 昔 小石丸
何レモ純粋ナル精良種ナリ

代價 普通製一枚金一圓二十錢
原種用製一蛾金二錢五厘
但シ申込同時代金ノ二割以上ヲ要ス

甲斐國南都留郡明見村
舟久保柾朗

◎風穴蠶種販賣廣告◎

六月一日ヨリ七月三十日迄出穴應需

名稱 白龍
代價 一全面附壹圓五十錢原種用框製 一一蛾二錢五厘十枚以上一割引

●注文ハ前金ニテ申込ノコト●爲替ハ新子郵便局

奈良縣吉野郡國樔村
擴蠶館 前川義雄

◎本場精撰蠶種祝賣廣告

弊館ハ開業滿三年ノ祝意ヲ表シ特產ノ兩種無毒ノ精良種左記ノ如ク大割引販賣致シ尚五十枚以上一手ニ御注文ノ諸君ヘハ紀念木杯贈呈可仕候間多少ニ拘ハラス御愛育之程伏テ奉冀望候

風穴 貯藏七月中旬迄蠶種隨時發生ス
秋蠶種 七月廿三日ヨリ製造
代價 框製檢査濟一枚四拾錢 平製同上一枚八拾錢
秋蠶 框製檢査濟一枚五十錢 平製七十蛾附八拾錢
名稱 白龍 青熟 黑龍 銀白 全面附一枚一圓半 百蛾附一圓廿錢
○但シ十枚以上一割引郵稅箱代ハ本館自辨可致候
爲替御注文之節信濃梓郵便局宛御振込ヲ乞
發送 御着金順ニ依リ御名入製造ノ上但風穴種ハ御指定ノ期日發生スヘキ樣差上申可候

信濃南安曇郡温村
本場蠶種用達 滿壽蠶館
本會々員 中村卯之二郎 電信略號(マスヤ)

創業三十年紀念
風穴秋蠶種無代送呈廣告

風穴秋蠶種ノ飼育易ク繭質善良ニシテ春蠶種ニ異ナラサルハ東京蠶業講習所ノ試驗ヲ始メ江湖當業家諸君ノ夙ニ首肯セラル、所ナリ本縣該蠶種ノ特產地ニシテ殊ニ弊所之レガ改良精撰ニ力メ創業以來三十年二世既ニ全國ニ顧客ヲ有シ年々豫約御注文ニ應シ候處昨年規模ヲ擴張シ精撰蠶種ヲ製造ス弊館ハ幸ニ天然ノ良風穴ヲ有スレバ貯藏ノ完全ナル蓋シ其比ナカラン多少ニ不拘御試育御注文アランコトヲ

長野縣南安曇郡安曇村
蠶種風穴貯藏所
諸官廳併ニ農學校蠶業學校
御用達
共益館主 中澤豐吉 敬白

一紀念送呈秋蠶種 ハ蟻量一匁ヲ掃立得ルコト
郵稅箱代切手拾錢ヲ送附アリタシ壹百名ヲ限リトス七月三十日限リ申込アレ 送呈ノ風穴蠶種ハ七月下旬ヨリ九月上旬晩秋蠶迄自由ニ掃立飼育スルコトヲ得

風穴秋蠶種代價
平附壹枚(蟻量四匁)代金一圓三十錢
框製壹枚(廿八蛾附)代金四十五錢
共同購入被下候カ又ハ五枚以上御買入ニ相成候場合ニハ特ニ代金割引可仕候
風穴蠶種々類說明書附定價表及風穴秋蠶飼育法一冊申込次第送呈ス

●最新發明 專賣特許 繭精撰器販賣

本器は曩に農商務大臣より特許せられたる撰繭器にして晝間は日光夜間はランプの力を藉り一目能く繭中の死籠内徹等を透視し以て一日十石以上の繭を撰別し得べき養蠶家製絲家繭商等の座右一日も不可欠良器なり又た本器は折疊み自由なる故携帶持運び最便なり續々御注文を乞ふ販賣希望者は至急申込あれ○代價一臺三圓(附屬繭入器除)小包送十里迄十五錢百里迄廿八錢百里外五拾六錢爲替本舍宛東京本局振込(本器詳細書申越次第進呈)

發賣元
東京日本橋區箔屋町十四番地 丸山舍本店
京都市上京區中立賣通七本松東入 丸山舍支店
大坂市西區大渉橋西詰北入 丸山舍支店

●強製紙耐久繭貯藏袋一石入四拾錢 多數の節は割引す

農蠶器月報臨時增刊 改良

農蠶器便覽

圖解代價 紙數四十頁 往復端書送付

● 專賣特許 太王印 **撚簇製造機** 一臺六圓廿錢

上簇間際に至り完全なる撚簇を一日蠶座二百枚分を製し得る故折簇の用意あるとも之を廢棄して本器を用ふる方針利益あるべし殊に夏秋蠶に付空氣流通宜敷良繭を得少も一石に對し貳圓の增收あり

● 專賣特許 **繭蛹熱殺器** 大形四斗入六圓 小形二斗入四圓五十錢

小養蠶家に尤も適し一日六石以上殺蛹し得べし

● 專賣特許 軸受付 **太王印座繰器** 一基金一圓廿錢

● 改良新式 太王印 **足踏製絲器械** 一臺代價金六圓

本式製絲器械を折衷して器械製絲の應用を普及ならしめん爲め數十年來製絲器械製造に從事せる箕輪氏の考案せるものにて改良の特點は繭鍋の具合より摺車の如き獨特の新案にて更に音響を發せず鼓車の如きも新發明アルミニウム製を用ひたる世間未曾有の完全なる絲製器械なり○圖解あり

● 專賣特許 **桑摘鋏** 一挺卅五錢送料四錢

桑新芽及び夏秋蠶の桑葉を莖を殘して摘む毎に差し込む便益の用具なり

● **蠶種製造具製絲** 小道具 試驗器 各種

此他農具養蠶具消毒器並藥品一式發賣

東京市淺草區田町二丁目角（電話浪花九八四）

內國農具改良組本部

農學士針塚長太郎著

三版 新刊 **養蠶學** 全壹冊 定價金七拾五錢 郵税八錢

本書は農科大學及農商務省蠶業講習所等に於ける斯の專門諸大家の多年研究の成績を基礎とし、人に著者の經驗を加へ、且又斯業家の經驗を参へて編纂したる者にして、其內容は如何といふに、蠶室、蠶具、蠶兒の發生、蠶體の解剖生理、蠶種の貯藏、催青法、蠶種檢查法等を詳述し、飼育中に於ける諸般の注意、上簇法、採種法、殊に微粒子病、硬化病、軟化病、膿病、蠅蛆病、蠶蛆等の蠶病に於て、病原、病徵、驅除、豫防等を最も新式に發揮せり、而して其行文の簡にして要を得たるは、亦本書の特色として、實に是れ吾か蠶業界に新面目を開きたる好著述なれば、發行以來非常の好評を博し初版再版を販賣し盡して今や第三版を發行せり、斯道に篤志なる諸彦、豈此卷を手にせざることを得んや

新刊 **絹絲學** 全壹冊 定價金七拾五錢 郵税金八錢

世に絹絲の書勘からずと雖とも、其說く所製絲法の一部に止まりて、未だ曾て絹絲の性質を根本より理化學的に論究したる者なきは、斯業の一大缺事なり、本書は農科大學、蠶業講習所、生絲檢查所等の研究成績を網羅し、獨逸の大家「ツルベルマン」氏の著書より絹絲部中の肝要なる部分を譯して編纂したる者にして、其內容は絹絲の概說、絹絲の成分、絹絲に對する水アルカリ等の溶解力、並に其種の結晶物の作用、絹絲成分の作用、絹絲と他の動植物性纖維との區別、並に各種の性質、强力、伸力並に是等に關する全般の定則、野蠶絲の構造、性質、練絲法、生絲の比重に關する事項、水質、石鹼注、別法並に各式檢查法、製絲器具、所の檢査具として用ひられ生絲の精練に關する所なし、是れ亦斯業に關する諸器具の改進を促がし、一日も早く購讀して效果を收められんことを欲す

發行所　東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地　興文社

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閲
東京蠶業講習所技師農學士林驛作先生著

通俗蠶業教科書

背皮總クロース金文字入上製本最上色彩銅版色着洋木版石版百有餘個等入用紙上等全紙數三百四十餘頁

正價壹圓貳拾五錢　郵送料拾四錢

目次

第一篇 栽桑法 總論、桑樹、苗木、栽植、肥料、管理、病蟲害
第二篇 蠶體解剖 總論、家蠶の外形、消食器、呼吸器、循環器、皮膚及腺、筋肉及脂肪組織、神經及感覺器、生殖器
第三篇 蠶體生理 總論、營養、呼吸、外界との關係、絹絲及繭、五官、變態、繁殖及遺傳、世代及品種
第四篇 蠶體病理 總論、蛆害、微粒子毒、軟化病、硬化病、膿蠶、消毒法
第五篇 春蠶飼育法 總說、蠶具、及蠶具の選擇及保存、蠶、飼育法、掃立
第六篇 夏秋蠶飼育法 總說、夏蠶飼育、秋蠶飼育、四化蠶飼育
第七篇 製絲法 總說、製絲法、貯繭、殺蛹法及製絲器械、繰絲法、束裝及荷造、生絲檢查

各地農學校蠶業學校を始め蠶業短期講習會用として適當なる蠶業教科書の絕無なるを憂るや久し著者林農學士多年農科大學に在りて專ら蠶學を修め西ヶ原蠶業講習所に講師として最も此感を深ふし奮ふて此書を著はす其斯學有用の著たるべきやは敢て茲に贅するを要せず弊舍請ふて之を出版し以て天下同憂者の渴を醫せしめんとす地方農蠶學校講習所及實業家諸君續々愛讀の榮を給はらんことを切望す

農商務省蠶業講習所を始め地方農蠶學校講習所及蠶業學校並に短期蠶業講習會等の**在學者**は勿論今より**入學**せんと欲する**諸君**必ずや**本書壹部を座右**に供ふべきなり

發兌　東京日本橋猪屋町十四 **丸山舍**　京都上京區中立賣通七本松東入 **丸山舍**支店　大坂西區本田二番町三十二 **丸山舍**支店

蠶業叢書

第一論　蠶業通編　三谷徹君外一名著　全部十冊一冊
第二論　生絲檢査編　德田寅君著　金三十錢宛郵稅一冊六錢宛
第三論　栽桑新論　池田桑太郎君著
第四論　桑樹病害編　岩淵平介君著

蠶業書類

東京日本橋區本町三丁目博文館

養蠶手引草　佐々木藤太郎君著　（全一冊）正價金三十錢　郵稅金六錢

養蠶と製絲　横山源之助君著　（全一冊）正價金二十五錢　郵稅金六錢

育蠶要錄　望月剛馬三谷君著　（全一冊）正價金三十五錢　郵稅金四錢

蠶絲業全書

全部六冊一冊十五錢六冊八十五錢郵稅一冊金六錢

- 第一編　蠶業汎論　吉池慶正君著
- 第二編　栽桑論　吉池慶正君著
- 第三編　養蠶論上　吉池慶正君著
- 第四編　養蠶論下　吉池慶正君著
- 第五編　製絲論上　吉池慶正君著
- 第六編　製絲論下　吉池慶正君著

農學士恩田鐵彌君著

排水乾田　**稻作改良法**

全壹冊　正價壹五錢　郵稅六錢

耕地の改良は收量の基本を作成するものにして農業經濟の由て關る所なり然るに今全國の反別を大觀するに收量少き濕田尙六分を占め收量多き乾田は僅かに四分に過ぎず實に天與の利源を遺棄するものなり著者茲に見る所あり本書を著はす北實地踏査の實例を附して殖産業を指導せむゝ所懇切に至れり

- **土地改良論**　農學士上野英三郎君著　農學士有働良夫君著
- **農藝化學**　農學士井上正賀君著
- **栽培汎論**　農學博士横井時敬君著
- **栽培各論**　農學士田中節三郎君著
- **肥料學**　農學士木下義道君著
- **各正價一冊**　上製金五十錢郵稅金十錢　並製金三十五錢郵稅金八錢

發兌元　東京日本橋區本町　博文館

大勉強販賣

蠶種製造具

- **春蠶及夏秋蠶用原紙**　品々
- **框製用原紙**　白紙及廿八蛾付に印刷あるもの並製二重瀧の二種あり原紙代價は屢々變動あるもの故御用の節は御照會被下度又見本用として御用の方は一枚三錢宛外に送料二錢御送付被下度候
- **博覽會出品蠶用原紙**　特許製中付用壹枚六錢宛枠製用壹枚四錢也
- **專賣特許枠製蠶種製造用枠盤**　專賣特許枠製蠶種製造用枠盤は長野縣倉澤逹平氏が多年苦辛の末發明せるもの昨春來發賣せるに大に世人の好評を博せり本年は製造器械を完成し大多數御注文に應ずるの用意整ひた續れば々御用仰付被下度候

本器の效用

一蠶發に比し廿八倍の手數を省く
一全部トタン製なるを以て蛾尿水濕の爲め錆を生ずることなし
一使用後掃除するに尤も便利なり
一雍卵の錯整然として立派なり
一從前の區の如く散漫損傷の憂更になし
一組合せ保存し得る故寸取も便利なり
一使用上少しも疑ふことなく誰にても出來べし

- **框製蛾框**　竹筒の如く這出の憂もなく又大小不同不體裁のともなく取置にも取扱にも便利にして又蠶蛾の爲めにも卿か害なきは實驗上明なり代金ワク製百個七十錢（量目五十匁ゴ直徑一寸四分、一寸四分五厘、一寸五分の三種あり
- **よせ金**　半製蠶種製造に用ゐるもの從來の絲木の如く蛾の這上るとなく至極輕便有益の改良器なり代金一本に付三錢十本の量七十匁
- **框製蛾袋**　番號文字印刷濟收蛾の便なり八蛾入和紙製一錢三厘洋紙製一錢多數の節は割引す
- **穴紙**　三尺五寸の二尺五寸一枚に付一錢八厘一枚の量目七匁弱
- **蠶種袋**　一袋無毒上撰蠶種の五字印刷のもの一袋無毒撰種なる文字の下頭の馬り一袋蠶種八百組分量凡二百匁

諸官廳井農蠶學校御用

蠶具問屋

東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍本店
京都市上京區中立賣通七本松東入　丸山舍京都支店
大阪市西區本田二番町三十二番屋敷　丸山舍大阪支店

●京都蠶業講習所長松永伍作先生著
●第七版 蠶桑實驗說　賣價五十錢　郵稅六錢

●再訂增補 養蠶術講義　賣價四十錢　郵稅四錢

●理學博士佐々木忠次郎先生著
●微粒子肉眼鑑定法　賣價卅錢　郵稅四錢

●再版〜〜膿蠶　賣價廿五錢　郵稅二錢

●蠶之蛆害　賣價廿三錢　郵稅二錢

●ボルレー氏 蠶兒飼育法　賣價二十錢　郵稅二錢

東京蠶業講習所御編纂
●桑樹萎縮病調査報告五號　賣價一圓八十錢　郵稅十二錢

●蠶事報告第十七號　賣價八十五錢　郵稅八錢

小幡信篤先生譯著
●四版 ハーベルランド氏 養蠶論　賣價八十五錢　郵稅十錢

長沼辨次郎先生著
●三版〜〜原理應用 栽桑新書　賣價七十五錢　郵稅八錢

末松格平先生著
●蠶桑進化論　賣價五十錢　郵稅六錢

田島棟平先生著
●蠶桑之眞理　賣價四十八錢　郵稅六錢

石井民司先生著
●實用蠶桑書　賣價四十五錢　郵稅四錢

古屋景晴先生著
●蠶體生理學　賣價二十錢　郵稅二錢

高見澤薫先生著
●最新養蠶家之經標 蠶種家之警鐘 刊 滑稽乘合汽車　賣價十五錢　郵稅二錢

池田幸之助先生著
●最新〜〜實地應用 刊 栽桑養蠶術　賣價三十錢　郵稅二錢

青田勘次先生著
●全葉飼育蠶業法　賣價十五錢　郵稅二錢

田村多門先生著
●桑樹萎縮豫防法　賣價廿五錢　郵稅二錢

●養蠶術問答　賣價廿五錢　郵稅二錢

油井彌一郎先生著
●夏秋蠶之燈　賣價五十五錢　郵稅四錢

蓼木長先生著
●清國蠶絲業ニ關スル報告　賣價三十錢　郵稅四錢

發兌　東京々橋區南傳馬町二丁目　書肆　有隣堂

前橫濱生絲檢査所長　岡　毅　先生序
農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閱
農商務省京都蠶業講習所長松永伍作先生校閱
兵庫縣立蠶業學校教諭　田路　寅　造　先生著

豫告の通り去月十日より發賣せり着金直に送本可仕候

蠶桑精華

●詳細目次（は本誌第百十七號に在り）

（ポッケット入袖珍最上クロース製紙數四百六十二頁正價金五拾錢郵稅六錢）

本書の價値如何は此程發行の蠶業新報第百八號に載する所の批評頗る適切なるを信じ左に掲く
右は四六判半大全紙數四百六拾二頁のポッケット入クロース製の袖珍書體裁も良し著者は兵庫縣立蠶業學校教諭田路寅造氏校閱者は理學博士佐々木忠次郎氏及農商務省京都蠶業講習師長松永伍作氏なり載する所第一篇桑樹の部第二篇蠶卵之部第三篇蠶兒之部第四篇製絲の部第五篇雜件之部第六篇統計の部に別ち凡そ蠶桑に關する要項擧げて載せり又發行者に於て附せし附錄には蠶業講習所及生絲檢査所諸規則明治以降蠶桑及製絲書籍の總目錄、特許法に據り特許を與へられたる蠶業用特許品の品名及發明者の住所氏名全國農蠶學校の位置名稱蠶業講習所本別科入學試驗問題及擬答案等に至る迄登載せり實業家にして之を需めば桑の栽培も蠶兒の飼育も又當時流行の消毒法も簡易に知り得べく斯道の御役人や養蠶教師や例の天狗連にて之の一冊を有せば即席に一場の法螺も吹き立て得べく學生にて之を讀まば入學の手引となり又在學中の好參考となるべし兎に角御調法の著書と云ふべし蓋し本書著者も題職に經上る迄に種々の感慨と必要に誘はれ此著を出すに至りしものならん

發兌　東京日本橋箔屋町十四　丸山舍
京都上京區中立賣通七本松東入　丸山舍支店
大坂西區本田二番町三十二　丸山舍支店

嘉都鑑藥譜習所長松永伍作先生
生絲檢査所技師今西直次郎先生共編

生絲檢査所技師農學士芳賀榮四郎先生
農科大學助教授農學士外山龜太郎先生
生絲檢査所長高野與前次郎先生校閲著

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閲
佐々木忠次郎先生著　第二版　大增補訂

前東京蠶業講習所技師廣瀨次郎先生著　第五版　增訂補正

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閲
桑樹栽培病蟲學員ドクトル石川千代松先生校閲
高田丸次郎高田直右衛門君共訂正　金成金次郎著　第三版　增補訂正

前生絲檢査所技師
檢査部長高橋信貞先生著

全　高橋信貞先生講述　第五版　增補訂正

全　高橋信貞先生編著　第二版

全　高橋信貞先生編述

米國蠶學專門學士文學士法律學士
岡野英太郎先生著述　第二版

顯微鏡使用法

珍　絲蠶附和英佛伊獨蠶業專門語集　全一冊

ポケット入版ル最上優美絲邦製本金文字入小口總テ金ノ刷出紙貿上等實價五十錢郵稅六錢

絲蠶實典

全一冊

美本西洋木版三十有餘入實價五十錢郵稅六錢

總クロース金文字入洋裝美本石版密畫四十有餘圖入實價三十五錢郵稅四錢

實驗絲蠶體生理

全一冊

實驗絲蠶體病理

全一冊

附蠶病消毒法及蠶種檢査法

桑樹栽培改良法

全一冊

總クロース金文字入洋裝美本石版密畫四十有圖入實價壹圓郵稅十二錢

製絲法

全一冊

總クロース金文字入洋裝美本石版密畫十二圖入實價四十錢郵稅六錢

生絲繭蠶種審査法

全一冊

世界各國

產繭標本寫眞

全二冊

付設解　額面用紙一尺三寸橫一尺三寸實價二十錢郵稅四錢

米國シカゴ府開設大博覽會出品

繭生絲解說

全一冊

洋裝菊版實價十錢郵稅二錢

演說學

全一冊

洋裝寫眞銅版密畫百餘圖入實價二十五錢郵稅四錢

東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂發兌

風穴貯藏蠶種

霜害地救濟蠶種

本館は風穴に左の四種を貯藏しまして連春蠶の季節より早秋蠶の季節まで其の土地の氣候に能く合ひまする種を掃立んと思ふ日に發行する樣見計ひ郵便にて送ります故に霜害又は違蠶其他桑葉の殘りました時に好都合です然し出穴の順序は大たい第一春蠶種　第二春夏掛合種　第三夏蠶製越年種　第四秋蠶製越年種であります桑葉の都合で如何程でも御飼なさる面附壹枚春蠶種二十錢宛

霜害地御見舞

製一枚宛代價通常五拾錢宛のものを半金即ち三拾五錢にて差上げます以上は二割引の五十六錢宛にて飼育する差上げます一層上は二割引の五十六錢宛にて如何程でも差上げます

此の種は製絲用として普通の附屬品として請求人館主齋藤兵次郎氏宛電信局取扱郵便振替は南安銀行又は豊科郵便振替口座にて請求人又は青熟白黄の他數種全面大月二十五日蠶見健康成蔟美なる蠶繭壹圓三十五錢名入製造すること豊作の事疑なし

豊作合

春蠶種

附壹枚壹圓三十五錢名入製造すること

請合

日前半金添附申込に限り特に選品

信州本場

秋蠶種

大巢白龍中巢白龍七月二十二日頃より九月三日頃まで四十日間

餘り引續製造壹圓尚本年一割增蚕す

長野縣南安曇郡南穗高村（發電略號サイト）

帝國農家一致協會囑托蠶種用達

扶桑館　齋藤兵次郎

大日本蠶絲會　會員名簿　正價金拾五錢

練木喜三君著　蠶教　正價金五拾錢　郵稅金六錢

農學士紫藤章君校閲　吉池慶正君著　蠶種檢査提要　正價金參拾五錢　郵稅金四錢

津田興二君著　繭乾燥叢話附繭仕入法　正價金五拾錢　郵稅金六錢

農學士廣瀨次郎君著　通俗養蠶鑑　正價金貳拾錢　郵稅金四錢

右御要望の向は代價及郵稅を添へ御申込相成度候

大日本蠶絲會

强健無比の良蠶種

風穴蠶種

名稱白龍●青熟●富士白●改良丸●日本錦▼代價平製一枚壹圓二十錢框製一枚四拾五錢▼本種は天災違作又は桑葉に剩餘ある時及夏蠶種に代用し五月中旬より七月下旬迄隨時掃立つる事を得

秋蠶種

名稱白龍精撰無毒强健免疫性に富める良種也▼代價八拾蛾附一枚壹圓拾錢框製二十八蛾附六拾錢▼七月二十日より八月十五日迄製造

晩秋蠶種

名稱白龍●更砂●日本錦▼代價八拾蛾附一枚金壹圓▼八月二十日より三十日迄製造す▼本種は普通秋蠶上簇後に於て掃立て飼育極めて容易に良繭多收絲質光澤解舒等總て佳良に利益の大きき養蠶なり

▼春蠶種は六月二十五日までの申込は名入製造す名稱中巣改良又▼代價七分附一枚壹圓

▼試驗育用御用望の士へは少量を呈す但し送費十錢を要す必ず成蹟報告の義務あり

▼蠶種は總て前金にあらざれば發送せず發送は着金順序に依り取扱ふ

▼送金は信濃國豐科郵便電信局又は豐科銀行へ御注文と同時に館主宛御振込みの事

●研究生 夏秋蠶業に就き實地の研究をなさむとするものは六月十日までに申込む可し研究中の食費等は都て本館の負擔とす

●地方委員 志望者は申越あれ直ちに詳細なる規則書を送る

信濃國南安曇郡豐科村 秋蠶館

大日本蠶絲會員
大日本蠶業研究會員 館主 中島多壽太

▲注意 本館は篠ノ井線田澤停車場より僅かに三十丁、松本停車場より二里十二丁縣道に接し馬車の便あり當地漫遊の士には立寄ありたし

謹告（（利世館營業案内））

改良農蠶器具肥料種苗類大販賣

●信用ナキ曖昧ノ商店ヨリ購入スレバ後日必ズ悔アリ

●顧問石原磯次郎君

●肥料種苗農蠶器具ハ經濟ノ大原改良ハ目下ノ急務ナリ

●顧問波多野鶴吉君

蠶業用器

●消毒用自働噴霧器拾圓各種
●簡便安全消毒器拾二圓半
●トリラ式消毒釜二百四十圓
●蠶網消毒燻煙爐一圓八十錢
●フオルマリン原液一圓五十錢
●メチールアルコール時價
●蠶室用改良暖爐一圓五十錢
●特許蠶種貯藏器三圓半

●蠶種製造用緣金一本三錢
●同用蛾框十個四錢
●普通製用春原紙百枚三圓
●原種用二重原紙全自二圓
●撚蟻製造器械六圓廿錢
●蠶座用皆川濾時價
●全用共縱濾同
●カルトン蠶鉢自十一錢

●蠶室燻蒸器三十錢
●特許殺蛹器自五圓
●蠶用木鉢十二錢
●桑葉刻器械七圓
●輕便桑摘廿五錢
●蠶用掃立紙自二錢
●蠶室用燈三十錢
●繭選別器三圓半

●桑切庖丁各種
●寒暖計各種
●乾濕計各種
●桑刈鋏各種
●桑籠各種
●羽箒各種
●蠶川絲織網
●琉球草製網

○●（檢査器械其他）●○

●顯微鏡並附屬品
●蠶種檢査器械
●蠶鉢解剖器各種
●檢溫衡各種
●檢尺器各種
●製絲達摩座繰
●信樂絲取鍋各種
●幻燈器械並映畫

蠶種豫約販賣

●蠶種豫約販賣 例年ノ如ク左記純粹精良種製造販賣仕候間御要望ノ方ハ名入調製等ノ都合モ有之候ニ付可成六月三十日迄ニ御申込ノ程願上候

●大巣又昔 ●青熟 ●イ形 ●玉不知

代價 製絲用一匁十五錢 原種用一蛾二錢五厘
申込 同時ニ豫約金トシテ代價ノ二割ヲ要ス
豫約期限後ハ代價ノ二割增

蠶種製造具

●蠶種製造具 蠶種製造用ヨセ金 自二錢至三錢 框製用蛾框十個四錢 其他各種

●蠶卵原紙
●春蠶用原紙 自二圓十錢至三圓半
●原種用二重漉 自二圓五十錢至三圓
●夏秋蠶原紙 自一圓廿錢至二圓
●輕便蛾袋各種 自七厘
●掛紙（穴紙）
●ばり紙（採蛾紙）

右百枝ノ相場ニ有之候此際至急御注文ヲ乞フ詳細ハ往復端書照會次第回答候

目下必要肥料

●目下必要肥料
▲濠洲特産動物肥料 ●乾血●肉血●肉骨粉
▲英國産硫酸安母尼亞
▲南米産智利硝石
▲支那産牛莊大豆粕 ●漢口大豆粕
其他鷄糞●鰊粕●鰯粕●油粕●米糠●藁灰●硫曹肥料等精良品各種

右凡テ取揃有之卸小賣仕候ニ付何卒此際多數御注文ニ預リ度尚詳細ハ往復端書御照會次第回答可仕候

農業用具

●携帶用代用比重計十八錢
●新式强力鋼霧注射器八圓半
●同完全鋼霧注射器二圓
●完全鋼霧注射器七圓半
●特許輕便撚換器械八十三錢
●稻麥苅用研出鎌拾二錢
●完全稻麥兼用稻扱二圓半
●專賣特許貯米袋自五錢

●特許完全稻扱二圓
●稻扱用除芥器三十錢
●播種埋付器二圓八
●完全耕作器十四圓
●園藝用具一揃八圓
●除草器豐年車一圓三
●同太一車一圓四
●田の草取器三十五

●田打用雁爪十八錢
●ツト虫取器七十五錢
●輕便捕鼠器五十錢
●草苅鎌各種拾錢ヨリ
●誘蛾燈各種自七十五錢
●ホーレーキ自八十五錢
●ホーリー自一圓半
●レーキ自一圓三十

●書籍其他●

●家畜養蜂書籍
●養蠶農業書一式
●蠶業雜誌
●家禽飼料卵器
●同假母
●種禽種卵
●春及秋蠶種
●紫雲英種子等

●金網捕虫器●

本器は農家の最も苦慮せらるゝ浮塵子螟虫を問はず容易に捕殺し得苗代其他に用いて最も効あり
金網製價五十五錢
織布製價二十八錢

桑苗蠶種苗木農業用具蠶器肥料問屋
京都下京大宮三哲鐵道北入
諸官衙井農學校 御用蠶業用達 利世館 （電報略號セリ）

利世館ハ確實ナル唯一ノ便利店

特許願中 服田(ヘッタ)式蠶卵器發賣廣告

本器は多年實驗の結果發明したるものにて圖の如き圓き穴は空氣流通光線透射の圓滑を計り三個を有す厚紙製にて廉價に且輕便なり貯藏又は運搬に便利なり容積を取らず大に便利なり從來の金屬製の如く蠶蛾に寒冷を感せしめ不活潑となり産卵を減し或は器外へ這出する等の憂なく卵面整然美麗なり江湖蠶種家諸君陸續購求試用あらんことを希ふ

定價
壹千個箱入 金參圓
參千個箱入 金八圓
無遞送料

見本入用者御申込あらば二十八個進呈す○特約販賣望みの人は申込次第契約す○郵便爲替振込局美濃國神土局切手代用一割増

岐阜縣加茂郡東白川村神土
發明製造發賣元 服田謹一郎

YAEHIME
SILK-WOORM-EGGS
Produced
BY
JITSURIOKU-KWAN.
Unoke, Kahoku, Kaga,
Japan.

春蠶種
八重姫
◉八重姫は全國中◉
◉實力館に限る◉
實力館
加賀河北郡ウノク

秋蠶種
種類○大和錦○國富○七月廿日頃より八月十日頃迄順次製種○晩秋蠶種は八月十日頃より廿五日頃迄○代價は何れも五歩附壹枚金壹圓廿錢にして多數は割引あり

風穴種
框製檢査濟無毒○種類○大和錦○國富○廿八蛾附壹枚金五拾錢

六月上旬より七月下旬迄揃立隨意飼育容易なり○框製壹枚送費拾五錢にて何れの蠶種も分與す

春蠶種
種類○又昔○其他數種○中巣○全面附壹枚金壹圓四拾錢

夏蠶種
種類○大和錦○國富○五歩附壹枚金壹圓貳拾錢

信濃國南安曇郡南穗高村
貫業館 主 篠崎四郎
豊科郵便局區內

改良

フォルムアルデヒード液消毒用
堅牢保險 完全無欠自働噴霧器

正價 箱入一具 金九圓五十錢
小包料 百里外 五十六錢
百里内 二十八錢

本器ハ蠶病ヲ驅除スルニ有益唯一ノ利器タルコトハ今ヤ諸大家ノ實驗證明ニテ殊更喋々スルヲ要セサルナリ然ルニ近來世間ニ競テ本器ヲ販賣スルモノヲ見ルニ以外ノ高價ナルモノ或ハ濫リニ價ヲ廉ナラシメ到底使用ニ堪ヘサル粗造品ヲ販賣スルノ弊アルヲ認ム實ニ是等ハ一時ノ奇利ヲ博セント欲スルモノニシテ大ニ斯道ノ爲メ遺憾トスル所ナリ茲ニ弊社ハ先般來本器ノ製作ニ付キ其要點ヲ專門大家ニ質シ刻苦研究ヲ極メタル結果在來品ニ異ナル堅牢保險完全無缺自働噴霧器ヲ製出スルニ至レリ他製品ニ比シ其卓越スル大要左ノ如シ乞フ御比較之上續々御注文アランコトヲ

● 本器ハ極メテ厚地金ヲ金屬搾出器械ヲ以テ製造セシ者ニシテ在來品ノ如ク薄弱ナル銅板金製品ノ比ニアラス

● 本器ハ特ニ各接合部ヲ悉ク鋲止メ(カラクリ)製ニナラシメ有ルヲ以テ在來品ノ如ク薄弱ナル銅板金(ハンダ)附ケ製ノ比ニアラス故ニ空氣壓力ニ依リ破裂スルノ恐レナシ

● 本器ハ全部極メテ厚キ「ニッケルメッキ」ヲ施シアルヲ以テ一見高尙優美ノ器ナル而已ナラス在來品ノ如ク腐蝕銹ヲ生スル患ナシ

● 本器ハ今般一層ノ改良ヲ加ヘタリ則チ在來ノ器ハ液及空氣ヲ筒内ニ浸入セシムル際液ニ混シアル沈澱物等ヲモ共ニ吸收スルカ爲メ「ポンプ」ノ瓣ニ自然其沈澱物附着ナシ大ナル障害ヲ生シ遂ニ使用ニ堪ヘサルニ至ル實ニ其弊僅少ナラス茲ニ於テポンプノ下部ヲ離解セシメ得且ツ內部ノ瓣ヲ自在ニ取リ出シ且ツ障害ヲ除去セシメ得ル樣改良ヲ加ヘタルモノニシテ完全無缺其名ニ反セサル事ヲ期ス

● 本器製造ニ付テハ殊ニ責任ヲ帶ヒ御使用中萬一其製造方不完全ノ爲メ破損ヲ生シタル場合ニハ何年後ト云ヘトモ無代ヲ以テ速ニ修理可仕候

● フォルムアルデヒード原液時々相場ニ變動有之一定ノ價廣告仕兼候ニ付時ノ大相場ニ基キ薄利ヲ以テ御注文ニ應シ可申候

東京市下谷區御徒町一丁目六十九番地
醫療器械製造所
合資會社 職工聯合進工社
(電話本局二四三〇番)

◎急告◎左記ノ器械藥品ハ蠶室、蠶具消毒用トシテ諸大家ハ證明セラレ全國ノ蠶業家諸氏ハ賞用セラレツヽアリ且既ニ世ノ公評アリ幸ニ他ノ製品ニ喘着セラルヽコト勿レ

簡單　田中式
安全消毒燈

一簡便安全消毒燈　壹具　金拾貳圓五拾錢
一トリラー式消毒器　三連立　壹具　金參拾貳圓
五連立　壹具　金五拾參圓
壹式　金百七拾圓

○本器ハ今回製造會社ト多數特約ニ付薄利ヲ以テ發賣仕候間各團體ニ於テ續々御買上アランコトヲ尤モ個數ニ限アル故此際御申込アリタシ

一リングネル式消毒器　壹式　金六拾五圓
一蠶蟲印ホルマリン（四十プロセント含有）壹磅　金八拾五錢

○本品ハ獨逸國製藥會社ト多數特約ノ結果非常ノ格安ニ發賣仕候
一メチールアルコール　壹磅　金四拾五錢

右實價ヲ以テ販賣仕候間御注文被仰付度願上候

東京市日本橋區本町三丁目十四番地
田中合名會社
（電話本局千五百二十番長距離加入）
（發信略號「タナカ」）

製造發賣元

蠶病消毒器及藥品
醫療理化學器械問屋
顯微鏡、度、量、衡器販賣

特約販賣店

蠶病消毒器械販賣
各蠶業團體藥種問屋

九本舗
東京市日本橋區本町三丁目十八番地
松本市左衛門
（電話本局七百五十一番）

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(April 1902.)

		Report.	Brought over.	Arrivé.	Arrived.	Vendu.	Sold.	Exporté.	Exported.	Renvoyé.	Sent back.	A reporter.	Brought forward.
		Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filature.	Filature.	2,277	3,478	3,928						673	4	854	438
Zagari.	Reeled.	513	217	288		353							188
Kakoiri.	Orikyeshi.	469	81								6		130
Autres.	Other.	113	23	3,499		4,569		5,049		683		1,610	
Total.		3,363	3,499	4,302		8,114		7,448		564		7,572	
1901.		11,347											

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTIES PAR JOURS.

DAILY TABLE OF MOVEMENT OF SILK.

Jours. Days.	Soie. Silk. Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée. Sent back.	exportée. Exported.	Prix moyen. Standad Price. Filature. Hosoito. Extra. No. 1	Filature. Futoito. Extra. No. 1	Zaguri. Reeels. Extra. No. 1	Kakeda. Orikayeshi. Extra. No. 1	Maximum du prix. Highest prices. Noms des filateurs. Names of filatnrs.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*	*yen* *yen*	*yen* *yen*	*yen* *yen*	*yen* *yen*		*yen*
1	222	175	19		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	900. 870.	Takanabeseishikwaisha.	935
2	323	171	24		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	900. 870.	Mitoseishizio.	935
3					960. 930.	955. 935.	945. 922½.	900. 870.		
4	40	139	48		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	900. 870.	Kawachiseishikwaisha.	930
5	249	198	26	1.021	960. 930.	955. 935.	945. 922½.	900. 870.	Kubotakwan.	955
6										
7	65	111	20		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Shinonomekwan.	985
8	68	207		422	960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Iyoseishikwaisha.	980
9	151	405	42		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Wafariseishikwaisha.	980
10	103	104	45	99	960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Saikiseishi.	990
11	145	63	55	414	960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 875.	Tenyusha.	930
12	153	193	130		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Okutsuseishizio.	960
13										
14	163	128	23		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Ukitaseishizio.	945
15	99	116		266	960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Rokunonosenseishikwaisha.	950
16	76	442	11		960. 930.	955. 935.	945. 922½.	920. 870.	Ogawaseishizio.	995
17	154	285	31	166	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Riōuseishikwaisha.	995
18	129	271	19		960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Jōhokusha.	940
19	231	125	19	1.371	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Saitamaseishikwaisha.	1000
20										
21	27	87	14		960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Tasea.	995
22	99	74		692	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Sanriusha.	940
23	114	116	37		960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Yajimagumi.	930
24	78	39	20	322	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Kusanagisha.	920
25	161	217	12		960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Miyauchiseishi.	960
26	235	160	78	161	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Ōgakiseishikwaisha.	960
27										
28	145	74	3		960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Mikunisha.	950
29	166	443			960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Kubotakwan.	950
30	101	226	7	115	960. 930.	955. 935.	945. 930.	925. 875.	Morisawaseishizio.	945
	3.499	4.569	683	5.049						

1 yen vaut envion fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

From the beginning the writer took up the chemical side of the question. And as a preliminary step, comparative chemical analyses of healthy and attacked plants were made to ascertain the differential character of the latter, and as the writer believes himself to have been fortunate enough to discover the cause which induces the disease, he has decided to publish the result in order that others engaged in seeking for a remedy may avail themselves of it. The present paper is reproduced with the permission of the board from a report originally presented to it, and contains only the results obtained by myself. It must, however, be stated that most of the field experiments cited in this paper were conducted by Mr. Ichikawa for several years, either alone or in conjunction with the other members of the board. I must also note my indebtedness to other members of the board for supplying me with informations regarding the parasites, by which my view has directly or indirectly been strengthened.

There is no means of ascertainning the first origin of the disease in question, but it is probably not older than twenty or thirty years. As stated before, the disease has become especially malignant since over ten years; and up to the present time, it has been reported from nearly all parts of the country. The damage has been particularly great in Ōita, Fukuoka, Kumamoto, Tottori, Shimane, Aichi, Shizuoka, Yamanashi, Tokyo, Saitama, Fukushima, and Gumma, and in some localities entire farms have been attacked by the disease, and the owners have been compelled to give up the cultivation of the mulberry. Localities where silkworm culture has recently come into practice appear to have a special propensity to the disease, and the newly started industry is very apt to receive a serious check from it. The entire annual damage for the whole country would doubtless amount to several millions of yen; no wonder that the public has been awakened to it.

(To be continued)

Marché des Soies.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

En ce qui concerne la tenue du marché pendant le cours de la première décade du mois d'Avril 1902, l'activité n'était pas grande et les prix restent piétiner sur place sans faire une nouvelle marche en avant. Entré dans la décade suivante, il y avait quelques demandes nouvelles et on a enregistré conséquemment un assez bon courant d'affaires; mais ce n'était qu'une situation momentanée et l'accalmie redevient bientôt la note dominante du marché. La dernière décade a suivi le calme de la précédente et, malgré quelques acheteurs qui se sont présentés pendant le cours de celle-ci, le marché était sans vie active par suite de la diminution du stock et du manque de marchandises.

La grège qui s'était vendue au plus haut prix, (*yen* 1,000 par picule) pendant ces mois était celle qui est fabriquée par Saitama Seishi Kwaisha (Lyon.).

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant la période du 1er au 30 Avril 1902.

Raw Silk Market.

MARKET OF YOKOHAMA.

The condition of the Raw Silk Market in April, 1902:

In the first decade, the market was not very lively and the price also was not high. In the middle decade, there was demand because the orders arrived anew. But it was the momentary condition and the market was slack again. In the last decade following it, the number of buyers diminished and the suitable goods was deficient, the market was, therefore, unavoidably dull.

The following table points out the movement of Raw Silk in April (from 1st to 30th), 1902.

CONTENTS.

Opinions:

Inquiry on the sericultural business in America and Europe.....
.....Nōgakushi A. Shitō.
On the economy of the sericulture.....Z. Ichinose.
The important points on the improvement of Japanese raw silk....
.....K. Yoshida.
A necessary thing on the sanitation of young silkworms...K. Neriki.
On regulating the raw silk.....K. Marnoka.
The regulation of the raw silk and the inquiry of the art.....
.....N. Takahashi.
On the sweet dew of mulberry-leaves.....H. Nomura.
Report of investigations on the mulberry-dwarf troubles
Nōgakuhakushi U. Suzuki.

Miscellaneous:

The investigation of Fūketsu (the preserve-room of silkworm eggs) at Fuji in Yamanashi-ken.
The records of sericultural Training Institute at Tōkyō. (6)

Statistics:

Export and Import of raw silks and silk goods at March in 1902 and 1901.

Question-Box:

On the sickness of mulberry-leaves.
On the mulberry-leaves.
On keeping Bivoltine.
On the sick silkworms.
On the Muscardine.
On the silk industry and the twisted thread.

Raw silk Market:

Market of Yokohama.
Market of New York.
Market of Lyon.
Market of Shanghai.

Foreign News:

The protection of sericulture in the United States of America which the government gives.
The improvement on sericulture in Russia.
The effect on having decreased the labour-hour in France.
The supplement-budget of encourage-money on sericultural business in France in 1901.
The sericultural condition at Chekiang in China.

General News:

The election of councellors of the Sericultural Association of Japan, etc.

Contributions. Opinions.

Report of Investigations on the Mulberry-Dwarf Troubles—a Disease widely spread in Japan.

BY

Nōgakuhakushi **U. Suzuki.**

INTRODUCTION.

Since more than ten years there has been observed a disease of the mulberry, known as "Ishikubyō or shikuyōbyo"* attacking the leaves and branches, and checking growth and finally causing the death of the whole plant. When this disease once appears in a farm it spreads gradually, and finally attacking the entire farm, causes an immense loss to silkworm raisers by destroying the crop of the mulberry almost entirely. And although several persons have been engaged in seeking for a method of combatting the disease, none has as yet been successful, the disease in the meantime becoming more and more rampant, and calling forth an earnest demand for remedy on the part of the interested farmers. At last the Japanese government took the matter in hand, and a bill was passed through the Diet providing an annual expenditure of several thousand yen after April, 1897 for an investigation of the question. A board of specialists was appointed, consisting of the follwing gentlemen besides the present writer: Prof. C. Sasaki, Mr. J. Omori, Mr. I. Honda, Mr. N. Ichikawa, Mr. H. Nomura. Since then we have inspected the actual condition of the attacked farms in various localities and have instituted a systematic invetigation of the problem from different points of view on an experiment farm at Nishigahara (a suburb of Tokyo) of about 275,000 sq. ft. in extent. In the mean while Mr. Nomura withdrew from the board, and Mr. Ichikawa having left for Europe, Prof, M. Miyoshi and Mr. K. Fujii were appointed to fill the vacancies. Mr. Ichikawa having recently returned was again added to the board.

* Here translated "Mulberry-Dwarf Troubles."

大日本蠶絲會報第百十九號

BULLETIN

DE

L' ASSOCIATION SERICICOLE DU JAPON.

No. 119

Le 25 Mai 1902.

SOMMAIRE.

Contributions :

Enquête sur l'industrie soyeuse en Europe et en Amérique ..... Nogakushi A. Shiio.
Sur l'économie sericicole ..... Ze Inouye.
Projet important pour le perfectionnement des soies japonaises ..... K. Yoshida.
Une chose indispensable à l'hygiène des vers-à-soie ..... K. Nerio.
Sur la régularisation des soies ..... K. Morioka.
La régularisation des soies et l'étude des procédés techniques ..... N. Takahashi.
Sur la rosée sucrée des feuilles du mûrier ..... H. Nomura.
Sur l'atrophie des mûriers ..... Nogakuhakushi N. Sasaki.

Essais et faits divers :

Investigation de l'enkeisai (Fonkeisai de Fuji, à la préfecture de Yamanashi) 1901 (Ré de l'Ecole sericicole de Tokio). (Tokio Sangyo Kyokwai).

Statistique :

Tableau comparatif de l'exportation et de l'importation des soies crées soieries dans les mois du Mars de 1902 et de 1901.

Questions et Réponses :

Sur la maladie des feuilles du mûrier.
Sur les maladies du mûrier.
Sur l'élevage des vers-à-soie.
Sur les vers malades.
Sur la sericiculture.
Sur la soie et l'étoffe.

Marché des Soies :

Marché de Yokohama. — Marché de New York. — Marché de Lyon. — Marché de Shanghai.

Nouvelles étrangères :

Protection des intérêts soyeux du gouvernement des Etats-Unis d'Amérique.
Progrès de la sericiculture en Russie.
Résultat de la distribution des œufs de vers-à-soie du gouvernement en France.
Montant des fonds nécessaires pour l'encouragement aux industries soyeuses en France pendant l'année 1901.
Etat de la sericiculture de la province de Cheklang, en 1900.

Nouvelles diverses :

Election des Conseillers de l'Association sericicole du Japon.

TOKYO

Association Sericicole du Japon. — No. 1, Nishikicho, Sanchome, Kanda, Japon.

明治廿五年四月七日內務省第三種郵便物認可

明治三十五年五月廿五日發行第百十九